

公立大学法人公立小松大学 令和4年度 業務実績報告書



令和5年6月

公立大学法人公立小松大学

目次

1	公立大学法人公立小松大学の概要	
(1)	基本情報	1
(2)	設置する大学の構成	2
(3)	設置する大学院の構成	2
(4)	組織・運営体制	3
(5)	組織図	5
2	評価基準	
(1)	小項目別評価	6
(2)	指標単位評価	6
(3)	大項目別評価	7
(4)	全体評価	8
3	令和4年度業務の実施状況	
(1)	全体評価	9
(2)	大項目別評価	10
(3)	小項目別評価	18
(4)	指標単位評価	99
4	用語解説	103

1 公立大学法人公立小松大学の概要

(1) 基本情報

- ① 法人名 公立大学法人公立小松大学
- ② 所在地 石川県小松市四丁町ヌ1番地3
- ③ 設立根拠法令 地方独立行政法人法
- ④ 設立団体 小松市
- ⑤ 沿革 平成30年4月 公立大学法人公立小松大学設立
公立小松大学開学（生産システム科学部、保健医療学部、国際文化交流学部）
小松短期大学設置者変更
学校法人小松短期大学解散
令和2年3月 小松短期大学閉学
令和4年4月 公立小松大学大学院開設（サステイナブルシステム科学研究科）
- ⑥ 法人の目的 地方独立行政法人法に基づき、大学を設置し、管理することにより、南加賀における教育研究の中心として、幅広い知識と深い専門の学術を教授研究し、地域と世界で活躍する人間性豊かな人材の育成を図るとともに、成果の還元を努め、広く社会の発展に寄与することを目的とする。



(2) 設置する大学の構成

大学	学部	学科	入学定員	編入学定員	収容定員	現員 (令和4年5月1日現在)		
						男	女	計
公立小松大学	生産システム科学部	生産システム科学科	80人	—	320人	312人	25人	337人
	保健医療学部	看護学科	50人	—	200人	19人	185人	204人
		臨床工学科	30人	—	120人	57人	71人	128人
	国際文化交流学部	国際文化交流学科	80人	—	320人	55人	267人	322人
	総計		240人	—	960人	443人	548人	991人

(3) 設置する大学院の構成

大学院	研究科	専攻	入学定員	編入学定員	収容定員	現員 (令和4年5月1日現在)		
						男	女	計
公立小松大学 大学院	サステイナブル システム科学研究科	生産システム科学専攻	15人	—	30人	14人	2人	16人
		ヘルスケアシステム 科学専攻	3人	—	6人	4人	0人	4人
		グローバル文化化学専攻	3人	—	6人	2人	1人	3人
	総計		21人	—	42人	20人	3人	23人

(4) 令和4年度組織・運営体制

① 役員

役職	氏名	任期	所属先・職
理事長	石田 寛人	令和4年4月1日～令和8年3月31日	
副理事長	山本 博	令和4年4月1日～令和6年3月31日	公立小松大学長
理事	横川 善正	令和4年4月1日～令和6年3月31日	公立小松大学副学長
理事	千葉 正	令和4年4月1日～令和6年3月31日	事務局長
理事	西 正次	令和4年4月1日～令和6年3月31日	非常勤
理事	鈴木 康夫	令和4年4月1日～令和6年3月31日	非常勤
理事	森 久規	令和4年4月1日～令和6年3月31日	非常勤
監事	松本 哲哉	令和4年7月6日～令和7年度財務諸表の承認の日	非常勤
監事	能登 宏和	令和4年7月6日～令和7年度財務諸表の承認の日	非常勤

② 審議機関

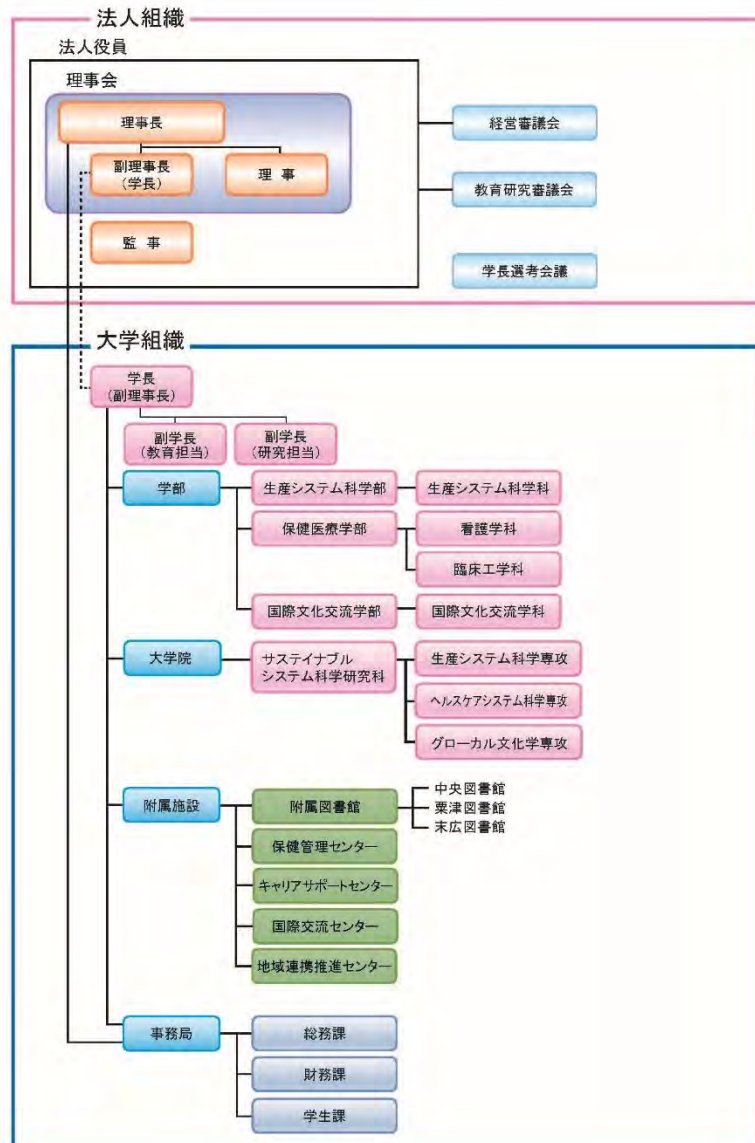
【経営審議会】

役職	氏名	任期	所属先・職
委員（議長）	石田 寛人	令和4年4月1日～令和8年3月31日	公立大学法人公立小松大学理事長
委員	山本 博	令和4年4月1日～令和6年3月31日	公立大学法人公立小松大学副理事長（公立小松大学長）
委員	横川 善正	令和4年4月1日～令和6年3月31日	公立大学法人公立小松大学理事（公立小松大学副学長）
委員	千葉 正	令和4年4月1日～令和6年3月31日	公立大学法人公立小松大学理事（事務局長）
委員	西 正次	令和4年4月1日～令和6年3月31日	公立大学法人公立小松大学理事
委員	鈴木 康夫	令和4年4月1日～令和6年3月31日	公立大学法人公立小松大学理事
委員	山崎 光悦	令和4年4月1日～令和6年3月31日	国立大学法人金沢大学特別顧問・福島国際研究教育機構理事長
委員	越田 幸宏	令和4年4月1日～令和6年3月31日	小松市副市長
委員	保川 高司	令和4年4月1日～令和6年3月31日	株式会社小松製作所 粟津工場 工場長
委員	東野 義信	令和4年4月1日～令和6年3月31日	医療法人社団東野会 東野病院 院長

【教育研究審議会】

役職	氏名	任期	所属先・職
委員（議長）	山本 博	令和4年4月1日～令和6年3月31日	公立小松大学長、保健医療学部長代行
委員	横川 善正	令和4年4月1日～令和6年3月31日	公立小松大学副学長
委員	木村 繁男	令和4年4月1日～令和6年3月31日	公立小松大学副学長、サステイナブルシステム科学研究科長
委員	岩田 佳雄	令和4年4月1日～令和6年3月31日	公立小松大学生産システム科学部長、生産システム科学専攻長
委員	岡村 徹	令和4年4月1日～令和6年3月31日	公立小松大学国際文化交流学部長、グローバル文化学専攻長
委員	酒井 忍	令和4年4月1日～令和6年3月31日	公立小松大学生産システム科学科長
委員	徳田 真由美	令和4年4月1日～令和6年3月31日	公立小松大学看護学科長
委員	平山 順	令和4年4月1日～令和6年3月31日	公立小松大学臨床工学科長、ヘルスケアシステム科学専攻長代行
委員	杓谷 茂樹	令和4年4月1日～令和6年3月31日	公立小松大学国際文化交流学科長
委員	西村 聡	令和4年4月1日～令和6年3月31日	公立小松大学図書館長

(5) 令和4年度組織図



2 評価基準

法人が行う業務実績報告書における自己評価は、以下の基準により実施する。

(1) 小項目別評価

年度計画の記載項目（小項目）ごとの進捗状況の自己評価を行い、業務実績報告書において次の5段階により進捗状況を示すとともに、自己評価の判断理由（実施状況）を記載する。

評価	評価基準	評価の条件
5	年度計画を大幅に上回る	・特に優れる若しくは顕著な成果がある
4	年度計画を達成	・上回る若しくは十分な実施状況
3	年度計画を概ね実施	・実施している
2	年度計画を十分に実施せず	・下回る若しくは実施が不十分
1	年度計画を大幅に下回る	・特に劣る若しくは実施していない

(2) 指標単位評価

年度計画の記載項目（指標単位）ごとの達成状況の自己評価を行い、業務実績報告書において次の5段階により進捗状況を示すとともに、自己評価の判断理由（実績値）を記載する。

評価	評価基準	評価の条件
s	年度計画を大幅に上回る	・達成率 100%以上かつ顕著な成果がある
a	年度計画を達成	・達成率 100%以上
b	年度計画を概ね実施	・達成率 80%以上 100%未満
c	年度計画を十分に実施せず	・達成率 60%以上 80%未満
d	年度計画を大幅に下回る	・達成率 60%未満

(3) 大項目別評価

年度計画の小項目別評価及び指標単位評価を踏まえ、中期計画の次の事項（以下「大項目」という。）ごとに、当該事業年度における中期計画の進捗状況について、次の5段階により自己評価する。

II 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置	
1	教育に関する目標を達成するための措置
2	研究に関する目標を達成するための措置
3	国際交流に関する目標を達成するための措置
III 地域貢献に関する目標を達成するための措置	
IV 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置	
V 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	
VI 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置	
VII その他業務運営に関する目標を達成するための措置	
XII 余剰金の使途	
XIII その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項	

※次の大項目は省略とする。

- VIII 予算、収支計画及び資金計画・・・・・・・・・・財務諸表及び決算報告書で別途報告を行うため。
- IX 短期借入金の限度額・・・・・・・・・・借入の実績がないため。
- X 出資等に係る不要財産の処分に関する計画・・・・中期計画上「なし」とされているため。
- XI 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画・・・・中期計画上「なし」とされているため。

評価	評価の目安
中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進行状況にある	・小項目別評価の平均値が 4.3 以上、かつ、指標単位評価の各項目が数値指標を上回り、さらに業務の進捗状況や特記事項の内容に特筆すべき進捗や取組がある場合

中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・小項目別評価の平均値が 3.5 以上 4.2 以下、かつ、指標単位評価の各項目が数値指標を上回り、「A」相当と認める場合 ・小項目別評価の平均値が 3.5 以上 4.2 以下に満たないが、指標単位評価の評定及び主たる業務の進捗状況や特記事項の内容を総合的に勘案して「A」相当と認める場合
中期目標・中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・小項目別評価の平均値が 2.7 以上 3.4 以下、かつ、指標単位評価の各項目が数値指標を概ね上回り、「B」相当と認める場合 ・小項目別評価の平均値が 2.7 以上 3.4 以下に満たないが、指標単位評価の評定及び主たる業務の進捗状況や特記事項の内容を総合的に勘案して「B」相当と認める場合
中期目標・中期計画の達成のためには改善を要する	<ul style="list-style-type: none"> ・小項目別評価の平均値が 1.9 以上 2.6 以下、または、指標単位評価の項目において数値指標を下回り、「C」相当と認める場合 ・小項目別評価の平均値が 1.9 以上 2.6 以下に満たないが、指標単位評価の評定及び主たる業務の進捗状況や特記事項の内容を総合的に勘案して「C」相当と認める場合
中期目標・中期計画の達成のためには抜本的な改善が必要である	<ul style="list-style-type: none"> ・小項目別評価の平均値が 1.8 以下、または、指標単位評価の各項目において数値指標を大幅に下回り、中期計画の達成のためには重大な改善事項があると認める場合

(4) 全体評価

大項目別評価の結果を踏まえ、当該事業年度における業務実績の全体について総合的に勘案し、次の5段階により自己評価する。

評価
中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進行状況にある
中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
中期目標・中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる
中期目標・中期計画の達成のためには改善を要する
中期目標・中期計画の達成のためには抜本的な改善が必要である

3 令和4年度業務の実施状況

(1) 全体評価 大項目別評価の結果を踏まえ、以下のように判断する。

【自己評価】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

完成年度に達し、開学5年目を迎えた本学は、**令和4年4月に大学院サステイナブルシステム科学研究科を新設**し、基本理念に掲げる「持続可能性」の実現に向けて、専攻の垣根を越えた連帯と協働による教育研究体制を整えた。

【教育・学生支援】学生の授業評価アンケートを実施するとともに、その結果を担当教員及び各組織にフィードバックし、授業の改善・向上につなげた。**教育指標に掲げる学生の授業満足度は 4.27(5点満点)となった。**看護学科及び臨床工学科では、**国家試験対策特別講座**の実施に加えて、担当教員によるきめ細やかなアフターフォローを行い、**国家試験の合格率は看護師 98%、保健師 100%、臨床工学技士 100%となり、いずれも全国平均を大きく上回った。**

物価高に対する経済対策として、日本学生支援機構の給付型奨学金の支給対象者 96 名に大学独自の支援を行ったほか、授業料免除や奨学金制度の周知、助言を積極的に行った。就職支援では、キャリアサポートセンターを中心に、学年進行に応じた各種企画を実施するとともに、各学科及び就職担当教員と連携して相談対応にあたり、最終的に、**卒業生の就職内定率は 100%となり、2 年連続 100%を達成した。**学生募集では、高等学校進路指導教諭対象の説明会やオープンキャンパスの開催、高校訪問など多角的に展開し、募集人員 240 名に対し、**志願倍率は 4.7 倍となった。**

【研究・地域連携】大学の「つよみ」となり得る**分野横断型の研究を支援するため「公立小松大学重点研究『つよみ』」の制度を新設した。**市民公開フォーラム、シーズ・ニーズマッチングシンポジウム、こまつ市民大学などの開催を通じて、研究成果や専門知識を広く市民や企業に紹介し、大学の「知」の地域還元を図った。**米国シリコンバレーオフィスを拠点に、「産学合同シリコンバレー研修」を3年ぶりに開催し、地域の企業人4名と学生11名らが参加し、現地の最新動向に触れつつ、課題解決型学習に取り組んだ。**8月の**豪雨災害に伴う小松市災害ボランティア活動に、大学ボランティアサークルを筆頭に、学生及び教職員、延べ100名が参加(10日間)し、被災地の支援を行った。**

【国際交流】7月には本学学長が金沢大学学長と共に**中米のグアテマラ共和国及びホンジュラス共和国を訪問し、共用オフィスを開設した。**シリコンバレーオフィスを含めて**本学の海外オフィスは計3カ所となった。**交換留学生として、**海外協定校へ学生9名を派遣すると共に、留学生 12 名の受入を行った。**令和3年度に引き続き、保健医療学部教員が主体となり、英語圏アフリカ諸国の医療従事者を対象とした**国際協力機構(JICA)の青年研修**をオンラインで実施した。

【業務運営】1月には従前の「自己点検・評価委員会」を改め、「自己点検評価・内部質保証推進会議」を設け、**全学的な内部質保証体制の確立及び抜本的な見直しを図るとともに、「内部質保証の方針」を定め、具体的な体制及び手続きを明確化した。**出勤簿管理システムを本格導入し、労務管理の事務効率化を図るとともに、働きやすい職場づくりを推進した。



大学院サステイナブルシステム科学研究科開設

(2) 大項目別評価

Ⅱ 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

小項目別 評価平均値	指標単位評価（再掲含む）				
	s	a	b	c	d
3.6	2 (15%)	8 (62%)	1 (8%)	2 (15%)	0 (0%)

【自己評価】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

[教育について]

- 教育研究の質の向上に向けて、全授業において「授業評価アンケート」を実施し、結果を教員にフィードバックし授業改善につなげた。本年度の授業満足度は平均 4.27（目標値 3.3）となった。
- 共通教育科目のうち、導入科目の「キャリアデザイン・チーム論」、「南加賀の歴史と文化」では、外部講師を招聘し、地域の歴史や文化、産業の理解を深める学修機会を設けた。
- 専門教育科目のうち、生産システム科学部では「学外技術体験実習」、保健医療学部では「臨床実習」、国際文化交流学部では「地域実習」や「異文化体験実習」の実践を通して、**課題発見・解決能力の醸成を図った。**
- 国家試験対策として、看護学科では国家試験サポート委員及び担任教員が中心となって、学生からの苦手科目のヒアリングに基づいた国家試験対策講座を開講するなどの対策を行い、**看護師国家試験の合格率は 98%（全国合格率 90.8%）、保健師国家試験合格率は 100%（全国合格率 93.7%）となり、いずれも全国平均を大きく上回った。**臨床工学科では、国家試験対策講座を開講したほか、必要に応じて各専門科目の担当教員が個別に指導を行った。**結果として臨床工学技士の国家試験合格率は 100%（全国合格率 85.4%）を達成した。**
- 大学院においては、栗津キャンパスの大学院棟の活用のほか、末広キャンパスの研究実験棟の建設を進めるとともに、こまつビジネス創造プラザに新たに大学院専任教員の研究室を配置し、必要な研究スペースを確保した。
- 大学院サステイナブルシステム科学研究科の構成員のほとんどは学部教員の兼務によることから、大学院の最新の知見や研究成果等を学部に戻元するとともに学部との連携を重視した。
- 研究科では、主任指導教員 1 名、副指導教員 1 名による指導体制を基本とし、**他専攻から助言・指導を行うアドバイザー教員 1 名以上を配置した。**



地域実習（滝ヶ原フィールドワーク）

[学生募集について]

- 北陸三県・東海・信越地方など各地の高校に対して入学者選抜要項、大学案内等の送付に加え、高等学校進路指導教諭対象大学説明会、高校訪問を行い、延べ 94 校に対して大学概要を説明するなど入学定員の充足に努めた。オープンキャンパスは全国の高校 3 年生を対象に、7 月に 3 キャンパスにおいて実施し、281 名が参加した。
- 2022 年度の入試実績データの分析のほか、各学科において、在学生の GPA 等の学力調査結果を基に、入学者選抜区分との相関関係についても分析し、次年度の入試選抜方法の検討材料とした。
- 大学院では、大学ホームページや紹介冊子を活用したほか、関係大学及び専門学校を訪問し、大学院修士課程新設を P R した。令和 4 年度の入学者は、定員 21 名に対し、23 名を確保できた。

[学生支援について]

- 教科の履修、健康、就職等の学生生活の問題など学生個々の指導を行う相談教員を各学科に配置し、学生との定期的な面談により、学修面・生活面の把握とサポートを行った。
- 学生の経済的支援については、授業料免除や奨学金制度の情報周知や助言などを行った。また、**物価高に対する経済対策支援として、日本学生支援機構の給付型奨学金の支給対象者 96 名に図書カード 1 万円分を支給**した。
- 保健管理センターでは、学生の定期健康診断を実施し、再検査が必要な学生に対して、再診の呼びかけを徹底した。また学生及び教職員向けにインフルエンザ予防接種、保健医療学部 1 年生向けに B 型肝炎集団予防接種を実施した。新型コロナウイルス感染症については、相談件数延べ 418 件、感染した学生数延べ 194 名、教職員数延べ 19 名の健康相談に対応した。
- **「石川県図書館情報ネットワーク」に参加**し、石川県内の公共図書館の利用者が本学の蔵書を利用できるよう、利便性の向上を図った。また、新入生に対して図書館利用方法のガイダンスを行ったほか、国家試験対策、実習、論文執筆に関する参考図書等の企画展示を 3 附属図書館で実施した。
- キャリアサポートセンターにおいて、各種セミナーやガイダンス、面接練習会、企業見学、業界別内定者交流会など、学年進行に応じた各種企画を実施し、学生のキャリア形成と就活支援を行うとともに、専用の LINE アカウントを開設し、学生のニーズに応じた情報発信に努めた。キャリアサポートセンターと学科、就職担当教員が連携し、学生の進路相談・対応にあたり、**令和 4 年度卒業生の就職内定率は 100% となり、2 年連続 100% を達成した。**



大阪税関業務説明会

II 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置
2 研究に関する目標を達成するための措置

小項目別 評価平均値	指標単位評価（再掲含む）				
	s	a	b	c	d
3.7	0 (0%)	7 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)

【自己評価】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

- 各学科の特色を生かした個別研究テーマに対する支援として「研究発展・向上費」の募集を行い、5件を採択・支援した。
- 特色ある独創的研究を支援する「公立小松大学重点研究『みらい』」の予算規模を拡大し、**分野横断型の研究を要件に加えた「公立小松大学重点研究『つよみ』」を新設**し、1件を採択・支援した。
- アカデミックな雰囲気の醸成・学部横断的な研究の推進を図ることを目的に、全教員を対象としたオンラインでの学内交流会「Salon de K」を毎月1回開催した。11月実施の「Salon de K」では、「公立小松大学重点研究『みらい』」の研究成果報告会を行った。
- **市民公開フォーラム「地域連携によりサステナビリティを世界に発信」を開催した。**外部講師及び本学教員による講演に加え、産学合同シリコンバレー研修の参加企業による研修報告が行われた。
- 学部合同の「シーズ・ニーズマッチングシンポジウム2022」の開催などにより、研究力の発信を行うとともに、地域課題解決に向けた連携協力体制の構築を図った。
- 薬品管理について、学内にて使用する薬品（毒劇物、有機溶剤、特定化学物質等）の実態に応じ、方針及びマニュアルを整備した。
- **学会報告件数、論文・著書数、共同研究・受託研究数は、目標値を大きく上回る結果となった(学会報告件数:204件(実績)/100件(目標値)、論文数:117編/70編、英語その他外国語論文:87編/30編、著書:19編/5編、共同研究・受託研究数:14件/10件)。**



市民公開フォーラム「地域連携によりサステナビリティを世界に発信」

II 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置
3 国際交流に関する目標を達成するための措置

小項目別 評価平均値	指標単位評価（再掲含む）				
	s	a	b	c	d
4.0	0 (0%)	3 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)

【自己評価】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

- 7月に本学学長が金沢大学学長と共に中米のグアテマラ共和国及びホンジュラス共和国を訪問し、**グアテマラ共和国文化スポーツ省文化自然遺産副省及びホンジュラス国立文化人類学歴史学研究所と協定を締結した。協定に基づき、金沢大学が設置したティカルリエゾンオフィス及びコパンリエゾンオフィスの共用を開始した。**海外との協定数は2件増え、累計18件（大学間:10件、部局間:5件、その他:3件）となった。
- **長期交換留学実績として、海外協定校へ学生9名を派遣するとともに、留学生12名の受入を行った。**留学生と日本人学生の交流を深めるため、留学生歓迎会や初詣ツアー等の各種交流イベントを実施した。
- 公立小松大学留学支援奨学金制度により、海外協定校に派遣する学生5名の経済的支援給付を行った。
- 短期留学実績として米国ウェスタンワシントン大学及びオースティン・ピー州立大学等における海外語学研修やマレーシアのトゥンクアブドゥルラーマン大学における異文化体験実習等、計6件実施し、**国際文化交流学科及び生産システム科学科の学生55名が参加した。**
- 本学の海外協定校担当教員が現地大学を訪問するとともに、海外の協定校4校、研究機関1機関の教職員が来訪し、大学キャンパスの見学や、学生交流、共同研究の可能性等について打ち合わせを行った。
- **令和3年度に引き続き、保健医療学部の教員が主体となり、英語圏アフリカ諸国の医療従事者を対象とした国際協力機構(JICA)の青年研修「地域保健医療」プログラムをオンラインにて実施した。**
- 地域の多文化理解の促進に向けた取り組みとして、こまつ市民大学で世界遺産検定チャレンジ講座やビジネス・時事英語読解力講座などを開講した。また、小松市国際交流協会と共催で英会話カフェを17回開催した。



グアテマラ共和国及びホンジュラス共和国に
金沢大学・公立小松大学の共用オフィスを開設



建国科技大学中国語研修での集合写真

Ⅲ 地域貢献に関する目標を達成するための措置

【自己評価】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

小項目別 評価平均値	指標単位評価（再掲含む）				
	s	a	b	c	d
3.8	0 (0%)	5 (71%)	0 (0%)	2 (29%)	0 (0%)

- 9月に3年ぶりとなる「**産学合同シリコンバレー研修**」を開催し、地域の企業人4名、学生11名（生産システム科学科7名、国際文化交流学科4名）らが参加した。地域の未来を考えるプロジェクトを形成することで、将来に渡る企業人と学生の人的ネットワーク構築につなげた。
- **市民公開フォーラム「地域連携によりサステナビリティを世界に発信」**を開催するとともに、**産業界とのシーズ・ニーズのマッチングを図るため、全学部合同シーズ・ニーズマッチングシンポジウムを実施した。**
- 8月の小松市での記録的豪雨により被災した地域を支援するため、**大学ボランティアサークルのメンバーを筆頭に、学生および教職員延べ100名が災害ボランティア活動に参加した。**ボランティア活動は、用水路や被災した家屋の土砂の撤去、家具等の片付け、ゴミ出し作業を中心に計10日間行った。
- **3年ぶりに「第5回青松祭」を対面開催**し、学生実行委員会を中心に企画・運営を行い、模擬店や各サークルによるステージ発表、茶会や縁日などの出し物、学科紹介、進学相談などが行われた。
- 本学キャンパスをこまつ市民大学の会場として提供するとともに、全講座中約半数を本学教員が担当し、**市民の学び足し、学び直しへの貢献**を図った。
- 地域連携推進センターを中心に、e-messe kanazawa 2022、Matching HUB Hokuriku 2022、北陸技術交流テクノフェアなどの産官学連携イベントに出展し、大学の研究紹介や地域連携事業のPRを行った。
- サイエンスヒルズこまつ夏の休みイベントでは、本学教員が講師を務め、学び、発見の楽しさを伝えた。また、同会場の展示ブースをリニューアルし、大学院の紹介及び教員の最新の研究を発信した。



産学合同シリコンバレー研修（Apple 本社前）



シーズ・ニーズマッチングシンポジウム 2022
(学生によるポスター発表)

IV 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

【自己評価】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

小項目別 評価平均値	指標単位評価（再掲含む）				
	s	a	b	c	d
3.9	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)

- 理事長及び学長両名のトップマネジメントのもと、理事会や各種審議会、教授会等を運営し、適切な法人運営に取り組んだ。
- 自己点検・評価委員会（令和5年1月より自己点検評価・内部質保証推進会議）及び年2回の評価室ヒアリングを実施し、各組織の業務の進捗管理、改善及び教育の質の向上を推進した。
- 大学院サステイナブルシステム科学研究科の開設に伴い、大学院担当専門職員を2名配置した。また、**大学院担当及び博士課程設置検討WGが中心となって大学院博士後期課程設置認可申請の準備を進め、3月に設置認可申請書を文部科学省へ提出した。**
- 学生による授業評価アンケートの集計結果をもとに、担当教員並びに各組織において自己点検・評価を実施し、授業内容等の改善につなげた。
- 教員の評価制度については、教員評価基準検討WGを立ち上げ、制度設計の協議を計画的に進めるとともに、評価制度を一部施行した。
- 全学FD・SD研修では、ハラスメント防止、心の病を抱える学生への対応、海外危機管理など年4回主催した。また、公立大学協会や大学コンソーシアム石川など外部主催の研修会への参加を促した。
- 出勤簿管理システムを導入し、労務管理の事務効率化を図るとともに、働きやすい職場づくりを推進した。

V 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

【自己評価】中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる

小項目別 評価平均値	指標単位評価（再掲含む）				
	s	a	b	c	d
3.4	0 (0%)	3 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)

- 入学金や授業料等の学生納付金を確保するため、本学ホームページによる学生募集、オープンキャンパスでの集客、北陸三県・東海・信越地方への入学者選抜要項、大学案内等の送付や高校訪問などをはじめとする入試広報活動を計画的かつ積極的に実施した。
- 「公立小松大学基金への寄附のご案内」冊子の送付や、本学ホームページでの活用事例の紹介により、企業、団体、個人等からの寄附金の受け入れを促進するとともに、本学の教育研究等に役立てた。寄附金の実績は**計47件、5,139千円**となった。
- **科学研究費及びその他外部資金獲得の実績は、科学研究費採択数46件(実績)/15件(目標値)、その他外部資金獲得数28件/5件となり、完成年度以降目標値を超える結果となった。**

VI 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置

【自己評価】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

小項目別 評価平均値	指標単位評価（再掲含む）				
	s	a	b	c	d
3.6	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)

- 年間の業務の方針、予定、進捗状況を管理するため、自己点検・評価委員会（令和5年1月より自己点検評価・内部質保証推進会議）及び年2回の評価室ヒアリングを実施した。
- 自己点検・評価委員会を「**自己点検評価・内部質保証推進会議**」と改め、**内部質保証体制の確立及び抜本的な見直しを図った**。また、「内部質保証の方針」を定め、具体的な体制や手続きを明確にしたほか、教育の質保証と改善を行うため「アセスメントプラン」を定めた。
- 令和5年度の本学初の一般社団法人大学教育質保証・評価センターによる**大学機関別認証評価の受審**に向け、大学の内部質保証に関する提出資料の作成や事前相談など準備を進めた。
- 「広報室」を中心に、広報誌「Tachyon」、大学案内の発行、ホームページの運用、ラジオ番組「世界に向かって飛び立て！公立小松大学」などの様々な媒体での広報活動を展開した。また、新たに**広報室学生委員によるInstagramを開設**したほか、受験生向けに、各学科の4年生が学科の魅力及び本学での学びについて語る**ショート動画を制作・公開するなど、デジタル媒体の強化を図った**。

VII その他業務運営に関する目標を達成するための措置

【自己評価】中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる

小項目別 評価平均値	指標単位評価（再掲含む）				
	s	a	b	c	d
3.2	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)

- 同窓会員相互の親睦を図り、母校の発展に期することを目的に、**公立大学法人公立小松大学同窓会を設立した**。9月に設立総会を開催し、学長、事務局長のほか、役員および会員が出席した。
- 職員を対象とした定期健康診断やストレスチェックなど職員の心身の健康の維持・増進に取り組んだ。また、定期的に職員へ有給休暇の取得状況を通知し、年5日以上有給休暇の取得促進を図った。
- 消防計画に基づき、自衛消防訓練や学生寮での避難訓練を3キャンパスで年2回実施した。

- 緊急通報・安否確認システム「Safetylink24」について、新入生及び新規採用教職員に対して説明を行い、アプリの登録率及び回答率の向上を図った。また、配信訓練を年2回実施し、回答率は第1回70.2%、第2回68.1%であった。
- 令和3年度の決算・業務について監事監査を実施するとともに、令和3年度の業務・会計処理について附属図書館及び保健管理センターに対し内部監査を実施した。また、公的研究費の交付金額が多い各学科の教員1名を選出し、公的研究費内部監査（リスクアプローチ監査含む）を実施し、法人業務はいずれも適正に実施していると認められた。



自衛消防訓練（末広キャンパス）

XII 余剰金の使途

【自己評価】中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる

小項目別 評価平均値	指標単位評価（再掲含む）				
	s	a	b	c	d
3.0	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)

- 令和3年度決算において計上した当期総利益の95,545,675円を教育研究の質の向上並びに組織運営及び施設設備の改善に充てるため積み立てた。

XIII その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項

【自己評価】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

小項目別 評価平均値	指標単位評価（再掲含む）				
	s	a	b	c	d
4.0	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)

- キャンパス長寿命化計画に基づき、栗津キャンパスの学生食堂の外壁の改修を行った。また、保健医療学部や大学院のヘルスケアシステム科学専攻の学生や教員の研究環境を充実させるために、末広キャンパスの研究実験棟の建設を進めるとともに、こまつビジネス創造プラザに新たに大学院専任教員の研究室を配置し、必要な研究スペースを確保した。
- 決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上並びに組織運営及び施設設備の改善に充てる。令和4年度は目的積立金の取崩しは無かった。



末広キャンパス研究実験棟竣工

(3) 小項目別評価

① 自己評価結果一覧

大項目	事業 項目数	5	4	3	2	1	評定 平均値
		年度計画を大 幅に上回る	年度計画を上 回る	年度計画を概 ね実施	年度計画を十 分に実施せず	年度計画を大 幅に下回る	
II 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 1 教育に関する目標を達成するための措置	45	1 (2.2%)	24 (53.3%)	20 (44.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.6
II 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 2 研究に関する目標を達成するための措置	10	0 (0.0%)	7 (70.0%)	3 (30.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.7
II 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 3 国際交流に関する目標を達成するための措置	5	0 (0.0%)	5 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4.0
III 地域貢献に関する目標を達成するための措置	12	0 (0.0%)	9 (75.0%)	3 (25.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.8
IV 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置	17	0 (0.0%)	15 (88.2%)	2 (11.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.9
V 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	11	0 (0.0%)	4 (36.4%)	7 (63.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.4
VI 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置	7	0 (0.0%)	4 (57.1%)	3 (42.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.6
VII その他業務運営に関する目標を達成するための措置	20	0 (0.0%)	4 (20.0%)	16 (80.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.2
X II 余剰金の使途	1	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.0
X III その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項	1	0 (0.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4.0
合計	129	1 (0.8%)	73 (56.6%)	55 (42.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.6

② 小項目別業務実績・自己評価結果（詳細）

II 教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(1) 学士課程教育

中期目標	学生の学習意欲を高め、基礎的な学力と豊かな人間性を涵養するために、導入科目、一般科目及び外国語科目を開講する。また、専門領域を超えた分野横断的な教育を行い、学生の交流と幅広い視野・思考力・総合力の育成に努める。大学が立地する小松市はもとより日本、世界の歴史や文化の理解を高める。
------	---

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
------	----	------	------	-------	------

1 教育に関する目標を達成するための措置 — (1) 学士課程教育

①共通教育 ・学生の学習意欲を高め、基礎的な学力と豊かな人間性を涵養するために、導入科目、一般科目及び外国語科目を開講する。 ・学生の交流と幅広い視野・思考力・総合力を育成するため、専門領域を超えた分野横断的な教育と、大学が立地する小松市はもとより日本、世界の歴史や文化の理解を高める教育を行う。	II-1-1	大学設置認可申請書に記載した教育課程を体系的、組織的に実行するとともに、学習成果の評価方法を点検・改善する。	各学部、 教育企画委員会	<p>【生産システム科学科】 教員の大幅な入れ替えに伴い共通教育科目の教員の配置計画を見直し、また前任教員等から新任教員へ十分な引き継ぎを行うことで、滞りなく授業を実施できた。さらに、授業評価アンケートの満足度が学科平均を下回る授業については、改善方針を示した。</p> <p>【看護学科】 対面授業を原則実施するとともに、大学院の授業では、対面とオンデマンドによる授業を行い、学生のニーズに合った授業を展開した。授業評価アンケートの結果、改善が指摘された部分については具体的な改善方針を検討した。</p> <p>【臨床工学科】 令和4年度分に加え、過去の授業評価アンケート結果を総合的に分析した。改善が必要な授業については、担当教員の前期の授業負担をなくし、その分後期に向けて十分な授業準備が行えるよう対応策を実施した。</p> <p>【国際文化交流学科】 授業評価アンケート結果は概ね良好であり、今後は授業評価の高い教員の授業を紹介することで、各教員が自身の授業内容を見つめ直す機会をつくることを検討している。</p>	3
	II-1-2	アクティブ・ラーニングや少人数教育、複数の教員集団によるきめ細かい指導等の取組を推進し、授業内容に応じた学生の学習意欲の向上を図る。	各学部	<p>共通教育科目の導入科目の内、「アカデミック・スキルズ」、「テーマ別基礎ゼミ」は、いずれも、少人数グループに分かれての討議や演習、発表などのアクティブ・ラーニングを取り入れて実施した。 また、2年次の専門基礎科目や3年次の専門共通科目でも少人数制の指導やグループディスカッションなどを取り入れ、学生の主体的な学びにつなげている。</p> <p>【生産システム科学科】 「テーマ別基礎ゼミ」においてグループに分かれて研究調査を進め、報告書を作成。最終的に合同発表会を開催し、グループごとにプレゼンテーションを実施した。</p> <p>【看護学科】 アクティブラーニングの実践とオンライン教育・ハイブリッド教育について、講師を招いて研修会を実施。教員はその学びを授業に活かし、学修者中心の教授法を取り入れている。また成人看護学の授業及び実習は、多くの教員によるきめ細かい指導ができた。</p> <p>【臨床工学科】 「テーマ別基礎ゼミ」において、積極的にアクティブ・ラーニングを取り入れた。また学外病院実習中の学生の卒業研究指導の講義などでオンライン形式の講義を実施し、学生のニーズと授業内容に応じて柔軟に対応した。</p> <p>【国際文化交流学科】 「国際交流論(1年次必修科目)」や地域実習においてグループワークやフィールドワークを実施した。また授業への質問や課題へのフィードバックをGoogleを活用して行う先進的な取組を英語科目で実施し、教育のDX科が順調に進んでいる。</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-1-3	自らの学びと社会とのつながりを知るための学修機会を設け、社会の第一線で活躍している方のゲストスピーカー招聘等を実施する。	教育企画委員会	<p>各学科、キャリアデザインを展望しながら、組織や社会集団の一員として貢献していくための知識とノウハウを学ぶための各学部共通の導入科目「キャリアデザイン・チーム論」を中心に、産業界や医療界などで活躍する講師を招き、自らの学びと将来のイメージを繋ぎ、学生の学修意欲の向上につなげた。</p> <p>【生産システム科学科】 「キャリアデザインチーム論」において、南加賀の産業の発展や産業構造の特色、実社会で必要な基礎知識などについて講義した。 また、県内企業の第一線で活躍する方を招いた特別講義を実施した。 ・5/25 黒本和憲氏(㈱小松製作所顧問) ・6/1 近藤典彦氏(会宝産業㈱会長) ・6/8 市山勉氏(㈱エオネックス代表取締役)</p> <p>【看護学科】 学習の早期(1年前期)に、「市民健康論」や「健康と体の科学」等において、小松市民病院院長、小松市等で活躍する医師、訪問看護師、保健師等の専門職による講義を実施した。もに満足度が高かった。また「キャリアデザイン・チーム論」においては、学生に幅広い視野を持ってもらうため、国際的な活動をしている方を招聘したいずれの講義も学生の満足度は高かった。 専門科目においては、小松市の医師、看護師、管理栄養士等の講義を受ける機会を設け、実習につながる関係づくりや学びができています。</p> <p>【臨床工学科】 小松市内の医療施設で臨床実習を行う機会を設けたほか、チーム医療論では、8回(180分/回)の講義を全て医療施設で働く医療者(主に臨床工学技士)に依頼した。また、血液透析に関連する学内実習では、加賀白山会板谷医院の臨床工学技士の方を非常勤講師として招き、臨床業務の経験に基づく指導をいただいた。</p> <p>【国際交流文化学科】 外部講師として、ナッジ株式会社の大塚和慶氏を招き、金融リテラシーの基本等について特別講義を行った(1年生81名受講)。「観光産業概論」では、交通産業、インバウンド、DMO(観光地域づくり法人)といった、観光の最前線の現場に携わるゲストを招聘し、講義いただいた。学生にとって、観光に関連する多様な産業の実態を把握し、大学での学びと結びつけるとともに、将来を考える機会となった。 「グリーンツーリズム論」では女性起業家であり農家民宿の旅行サイトgochi社を運営する岡田菜穂子氏を招聘。講義内容は、起業して地域に入り込み農家民宿をプロデュースする発想力と、夢を実現する行動力を伝えるもので、学生にとって強く印象に残る講義となった。</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-1-4	授業評価アンケート等の集計結果を、科目ごとに各学部において分析を行う。課題を整理し、対策を講じることにより、教育の質の向上を図る。	各学部、 教育企画委員会	<p>前期・後期の最終回の授業で、学生の理解度や満足度を把握し、授業内容や教授法の改善に役立てる為、全学的に授業評価アンケートを実施した。</p> <p>集計には、学生の利便性、集計作業の効率化などを踏まえ、ポータルサイト(学務情報システム)を利用した。アンケート結果は授業改善に活用するため、全教員にフィードバックされ、学長や学部長・学科長から、授業内容の改善等に関する必要な指示がなされた。</p> <p>その他、学科ごとの独自の取り組みにより、教育の質の向上に努めている。</p> <p>【生産システム科学科】 評価が低い科目や改善要望があった教員に対し、学部長が必要に応じて講義方法の見直しと改善を促した。</p> <p>【看護学科】 必要に応じて学科長が教員と個別に改善方針を検討した。</p> <p>【臨床工学科】 授業評価アンケートについては、令和4年度分に加えて過去のアンケートの結果を総合的に評価し、問題点の洗い出しに努めた。各学年のアカデミックアドバイザーが行う面談に加えて、各教員が指導する卒業研究生からの意見聴取を行い、講義の改善すべき点を把握した。以上の結果を踏まえて、授業アンケートの評価が低い教員への対応として、前期の授業の負担を無くし、その間に後期の授業の準備をしてもらうという対応を行った。</p> <p>【国際文化交流学科】 アンケートを分析し、学部全体に関わる問題点と個々の教員に関わる問題点を整理して、対策を検討している。</p> <p>[授業満足度(5点満点)] 全体 平均4.27(目標値3.3) ※令和3年度全体平均4.26 (前期 平均4.29 / 後期 平均4.24)</p>	3

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-1-5	学生全員が地域を学び、地域に触れ、地域について考える機会を授業に積極的に取り入れ、地域社会に貢献できる人材育成を展開する。	各学部、 教育企画委 員会	<p>各学部共通の導入科目「南加賀の歴史と文化」を中心に一般科目や専門科目の一部でも地域の歴史、産業、医療などを考える機会を創出した。</p> <p>【生産システム科学科】 「キャリアデザイン・チーム論」において、石川県におけるものづくり産業の発展について講義したほか、「日本産業史」では小松製作所の創設から発展までを講義し、地元産業の熟知に努めた。また、地元企業の代表者を招いた特別講義を実施した。 ・5/25 黒本和憲氏(㈱小松製作所顧問) ・6/1 近藤典彦氏(会宝産業㈱会長) ・6/8 市山勉氏(㈱エオネックス代表取締役)</p> <p>【看護学科】 「市民健康論」をはじめ、その他の授業においても、地域を学び、地域について考える機会を多く取り入れている。また4年次の選択科目において、地域課題や地域包括ケアなど、4年間の集大成として、地域で自分たちができることを考える講義を取り入れた。</p> <p>【臨床工学科】 4年次の「チーム医療論」で小松市内または近隣の医療施設の方を外部講師を招聘し、学生が地域の医療を考える機会を設けた。また、小松市民病院やソフィア病院などの小松市内の病院での病院実習を通じて学生が地域に触れ、地域について考える機会を創出した。</p> <p>【国際文化交流学科】 「地域実習」では、51名が5つのクラスに分かれ、下記課題に取り組んだ。8月の豪雨の影響により、一部のクラスは活動テーマの変更を余儀なくされたが、2月には予定通り合同発表会を実施できた。なお地域実習にあたっては、小松市・能美市・加賀市の行政組織および小松市と周辺地域の民間事業所等と連携し、見学や実習だけでなく意見交換の場も設けることができた。 (1) 滝ヶ原フィールドワーク(㈱北陸古民家再生機構、㈱滝ヶ原クラフトアンドステイ、㈱滝ヶ原ファーム、里山自然学校こまつ滝ヶ原ほか) 11名 (2) 加賀海岸の地域環境保全活動から考えるサステナビリティ(加賀市文化振興課) 10名 (3) 里山地域活性化(鶴遊立地域活性化委員会、小松市観光文化課、コマツほか) 12名 (4) 九谷焼振興と観光活性化(小松市観光文化課、能美市観光交流課、九谷焼関係者・作家ほか) 12名 (5) 地域の芸術・文化支援(小松市團十郎芸術劇場うらら) 7名</p> <p>「インターンシップ」は学科を通じて学生に紹介した事業所が14カ所、その他30社。参加人数は延べ72名であった。紹介した事業所の半数は小松市内の事業所であり、就業体験を通して地域の産業に触れる機会を設けることができた。 主なインターンシップ受け入れ企業:北國銀行、小松市役所、ホテルゆのくに等</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-1-6	全学部学生のTOEIC受験を奨励するとともに、中期計画の教育指標の目標値達成に向け、スコアの分析を踏まえ授業改善や特別講座を実施する。	国際文化交流学科、教育企画委員会	<p>【全学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次を対象に、TOEICの出題形式のテキストに基づき、リスニング力および文章読解力の養成を目指す授業科目「実用英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を開講した。 ・2/20 TOEICIP試験を実施 対象：全学科希望者(国際文化交流学科は1年生) 受験者数：120名(生産38名、臨床3名、国際79名) 平均点：486点(R3年度：488点) <p>【国際文化交流学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9/12～15 直前対策特別講座(演習・講義18コマ、模擬試験2コマ) 受講者の平均スコアは585点から616点に伸び、講義の校歌が一定程度確認できた。 対象：2～4年生、参加者：6名 ・9/22 TOEIC受験結果 対象：4年生(R5年3月卒業生) 受験者数：29名 平均点：542点(数値目標600点) ※600点以上は8名(27.5%) ・2/20 TOEICIP試験を実施 TOEIC対策科目である「英語Ⅲ」(国際1年必修科目)の教材及び運営方法(演習方式)の変更により、1年生の初回スコアが大きく改善した。 国際文化交流学部1年生平均点：533点(R3年度：526点)【数値目標：600点】 	3
	II-1-7	幅広い視野と豊かな人間性の育成を図るため、分野横断的なテーマを扱う授業を実施する。	教育企画委員会	共通教育科目の一般科目(人間力)において、コミュニケーション能力、表現力の要請を通じて豊かな人間性の育成を図るための授業を開講した(「哲学」「人文地理学」「言葉と文化」ほか6科目)。また、全学科対象の「南加賀の歴史と文化」は横断型科目として、全学生に対して地域への理解を深めた。	3
②専門教育 ・確かな基礎知識と高度な専門能力の修得に向けた講義、演習を行う。 ・ディプロマポリシーに掲げる専門能力を強化するため、各学部・学科に対応した地域あるいは海外の課題と取り組むProject-based Learning(課題解決型学習)を行う。	II-1-8	学生が専門分野に対して関心を持って学習に取り組むよう、教育方法の改善に努め、質の高い教育を実施する。	各学部、教育企画委員会	<p>【生産システム科学科】</p> <p>北陸地区の多業種が出席するe-messe金沢やMEX金沢に2年生が参加。企業やものづくりに携わる人と交流する機会を設けることで、専門分野の勉強への意欲向上を図った。また、キャリアサポートセンターが開催する企業見学への参加も促し、22名が参加した。</p> <p>「環境適合技術論」では、専門家の話や環境技術の現場を直に見聞きすることによって質の高い教育を目指した。具体的には、4名の外部講師(古山輝夫氏：日鉄テクノロジー、中野直和氏：認定NPO法人OBネット、岡本明夫氏：神戸製鋼所、高間節千春氏：東北大学特任教授)から環境問題や産業における環境技術について講演いただいたほか、小松市中央浄化センターとエコロジーパークこまつを見学し、地域における環境施設の実態を学んだ。</p> <p>【看護学科】</p> <p>非常勤講師が担当する専門基礎科目並びに専門科目において、学生の授業評価アンケートの結果は概ね良好である。また、臨床医学系の講義科目の多くは近隣の病院等に勤務する医師に依頼し、質の高い教育を進めている。</p> <p>【臨床工科学科】</p> <p>「医用機器学概論」および「医用治療機器学」では、医療機器の原理の理解に必要な微分と積分の概念を講義で丁寧に教えるように努めた。「生化学」では、高校で生物学を学んでいない受講者が多いことを意識して、細胞生物学や遺伝学などの生物学の基礎知識を丁寧に指導した。</p> <p>【国際文化交流学科】</p> <p>2年次の専門基礎科目と3年次の専門科目の履修に連続性があるかどうか、また基礎→応用・実践の積み上げ式のカリキュラムの結果が卒業論文として反映されているかどうかを検証した。検証にあたっては、卒業論文提出後の口頭試問において、複数の教員によって多角的に確認した。結果として教員にとっても自身の卒業論文の指導方法を考える機会となった。</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-1-9	<p>【II-1-4】再掲</p> <p>授業評価アンケート等の集計結果を、科目ごとに各学部において分析を行う。課題を整理し、対策を講じることにより、教育の質の向上を図る。</p>	各学部、 教育企画委 員会	<p>前期・後期の最終回の授業で、学生の理解度や満足度を把握し、授業内容や教授法の改善に役立てる為、全学的に授業評価アンケートを実施した。</p> <p>集計には、学生の利便性、集計作業の効率化などを踏まえ、ポータルサイト(学務情報システム)を利用した。アンケート結果は授業改善に活用するため、全教員にフィードバックされ、学長や学部長・学科長から、授業内容の改善等に関する必要な指示がなされた。</p> <p>その他、学科ごとの独自の取り組みにより、教育の質の向上に努めている。</p> <p>【生産システム科学科】 評価が低い科目や改善要望があった教員に対し、学部長が必要に応じて講義方法の見直しと改善を促した。</p> <p>【看護学科】 必要に応じて学科長が教員と個別に改善方針を検討した。</p> <p>【臨床工学科】 授業評価アンケートについては、令和4年度分に加えて過去のアンケートの結果を総合的に評価し、問題点の洗い出しに努めた。各学年のアカデミックアドバイザーが行う面談に加えて、各教員が指導する卒業研究生からの意見聴取を行い、講義の改善すべき点を把握した。以上の結果を踏まえて、授業アンケートの評価が低い教員への対応として、前期の授業の負担を無くし、その間に後期の授業の準備をしてもらうという対応を行った。</p> <p>【国際文化交流学科】 アンケートを分析し、学部全体に関わる問題点と個々の教員に関わる問題点を整理して、対策を検討している。</p> <p>[授業満足度(5点満点)] 全体 平均4.27(目標値3.3) ※令和3年度全体平均4.26 (前期 平均4.29 / 後期 平均4.24)</p>	3
	II-1-10	<ul style="list-style-type: none"> ・コース選択にあたっては、入学時のオリエンテーションにおいて十分な説明を行う。また、適切なコース選択が行われるよう、学生の適性、関心、希望を踏まえた教員による進路の相談・助言を定期的に行う。 ・卒業研究、論文の作成に向け、学習計画の立案を支援する。学内での研究発表を実施する。 ・現行カリキュラムを点検・評価し、必要に応じて改正する。 ・「課題探求プロジェクト」、「学外技術体験実習A、B」において受入企業等と連携協力し、課題抽出や課題設定、授業方法などの改善に取り組む。 	生産システム 科学科	<p>【コース選択】 1年生には前期後期のオリエンテーションにおいて2コースの概要を説明した。2年生には前期のオリエンテーションでコース配属条件の詳細を説明し、前期終了近くにコース選択の希望調査を実施、後期開始のオリエンテーションでコース配属結果を公表した。結果、2年前期終了時点で83名のうち、56名(生産機械コース29名、知能機械コース27名)が希望通りに配属され、27名が仮配属となった。仮配属の学生のうち、2年後期終了時にコース選択の条件を満たし、新たにコースに配属された学生は16名(生産機械コース9名、知能機械コース7名)で、コース選択の条件を満たせず未配属となった学生は11名だった。</p> <p>仮配属者に対しては相談教員が重点的に指導を行った。また単位取得数が少なく、勉学意欲がないと見なされた学生については3者面談を実施して今後の学習態度について意見交換・指導を行った。</p> <p>なお、2023年度入学の学生は、2年終了時以降でコース選択の条件を満たせなかった場合に原則、3年次以降の科目を履修できないよう、履修案内と学部規程のコース選択の条件を改定した。これにより、コース未配属者となった学生の負担感を減らし、中退・休学等を防ぐ。</p> <p>【卒業研究】 各研究室で進捗状況を定期的に確認し、研究指導を行った。また、11月から12月にかけて研究室ごとで中間発表会を実施した。2月20日には、最終発表を実施。卒業研究アブストラクト集を配布し、3年生の参加希望者も発表を聴講した。</p> <p>【課題探求プロジェクト、学外技術体験実習】 「課題探求プロジェクト」、「学外技術体験実習」においてPBLを実施し、それらの学科内合同発表会を計画した。「学外技術体験実習」では、受入企業と連携し、5日間のインターンシップを実施。10月29日に粟津キャンパスで合同発表会を行った。</p> <p>「課題探求プロジェクト」では、教員と学生のミスマッチを避けるため、教員を割り当てる前に、学生に研究室のゼミへの参加を促したほか、研究室見学などを9月に積極的に行った。発表会は2月3日に各研究室で実施した(一部研究室ではオンライン開催)。</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-1-11	<ul style="list-style-type: none"> ・コース選択にあたっては、入学時のオリエンテーションにおいて十分な説明を行う。また、適切なコース選択が行われるよう、学生の適性、関心、希望を踏まえた教員による進路の相談・助言を定期的に行う。 ・近隣の保健・医療機関や社会福祉施設、保育所などと連携し、各種臨地実習を実施する。 ・卒業研究、論文の作成に向け、学習計画の立案を支援する。学内での研究発表を実施する。 ・看護師、保健師の国家試験に向けて、個々の学生に応じた試験対策を継続して実施する。 ・各看護学領域において実施される「看護実習」等において、PBLを行う。学修成果を分析し、授業方法の改善に取り組む。 	看護学科	<p>[コース選択] 1年次に2回(4月/後期履修ガイダンス時)、2年次に3回(前期・後期各履修ガイダンス時及び12月単独説明会)情報提供し、相談する体制を確立した。 2022年度 保健師コース選択 19名(定員上限25名)</p> <p>[臨地実習] 各実習を担当する教員による「実習検討部会」が中心となって各領域の連携・協働を図り、各学年の臨地実習を滞りなく実施することができた。COVID-19による影響を常に視野に入れて柔軟に対処し、深刻な課題は生じなかった。</p> <p>[卒業研究] 卒業研究サポート委員会が中心となって進め、各教員の指導の下、グループで研究プロセスを丁寧に学び、卒業研究の発表・論文作成まで全員が取り組むことができた。</p> <p>[国家試験] 国家試験サポート委員会及び担任が中心となって、学科内全体で学生の看護師・保健師の国家試験にむけて、模擬試験、勉強方法の相談・支援を行った。 [看護師国家試験(2022年度卒業生)] 合格者:49名(合格率98%) ※全国合格率 90.8% [保健師国家試験(2022年度卒業生)] 合格者:23名(合格率100%) ※全国合格率93.7%</p>	4
	II-1-12	<ul style="list-style-type: none"> ・専門科目の講義、演習、学内実習にあたっては、各種実習機器やシミュレーションモデルを積極的に活用する。 ・卒業研究、論文の作成に向け、学習計画の立案を支援する。学内での研究発表を実施する。 ・臨床工学技士の国家試験に向けて、個々の学生に応じた試験対策を継続して実施する。 	臨床工学科	<p>[実習機器やシミュレーションモデルの活用] 動物実験を行う外部研修に関しては、12月3日に実施した。また、2024年度から開始される新カリキュラムに内視鏡の実習が追加されるため、これを踏まえて、シミュレーションモデルを活用する対面の学内実習の準備を進めた。</p> <p>[国家試験] 学部4年の学生を対象とした国家試験対策を10月20日より開始した。また、臨床工学科の全学生を対象とした第2種ME2技術実力検定試験の対策講座を開講した。本年度は、受験者47名のうち、約7割にあたる33名が合格した。臨床工学技士の国家試験に向けて成績が振るわない学生に対しては、各専門科目の担当教員が個別に国家試験の指導をした。 [臨床工学技師国家試験(2022年度卒業生)] 合格者:30名(合格率100%) ※全国合格率85.4%</p> <p>[カリキュラム改正] 臨床工学技士教育における教育プログラム改革に関連して、改正したカリキュラムを10月14日に厚生労働省医政局医事課に申請し、2023年3月に承認された。</p> <p>[卒業研究] 各教員が丁寧な指導を行い、12月7日に卒業研究発表会を実施した。</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-1-13	<p>・コース選択にあたっては、入学時のオリエンテーションにおいて十分な説明を行う。また、適切なコース選択が行われるよう、学生の適性、関心、希望を踏まえた教員による進路の相談・助言を定期的に行う。</p> <p>・地域実習、インターンシップ、異文化体験実習、海外語学研修の実施にあたっては、受入先企業や大学、行政などと担当教員が連携協力し、課題解決能力や実践能力の養成を図る。</p> <p>・卒業論文の執筆に向け、学習計画の立案を支援する。</p> <p>・現行カリキュラムを点検・評価し、必要に応じて改正する。</p>	国際文化交 流学科	<p>[コース選択] 2年次進級時と2年次7月に進路の選択に関する説明会を実施した。進路選択の動機が明確でない学生については、年度初めの4月から5月にかけて、19名の相談教員が個々の学生に助言・指導を行った。 2022年度 国際観光・地域創生コース 43名/グローバルスタディーズコース 36名</p> <p>[海外語学研修、異文化体験実習] ・ウェスタン・ワシントン大学(米国)夏季語学研修 7名(8/1～8/15) ・東南大学(中国)オンライン学生交流会 20名(8/29～9/2) ・オークランド大学English Language Academy(ニュージーランド)語学研修 8名(2/10～3/12) ・建国科技大学(台湾)中国語研修 16名(2/28～3/17) ・ラーマン大学(マレーシア)異文化体験実習 6名(3/4～3/18) ・オースティン・ピー州立大学(米国)語学研修プログラム 5名(3/13～3/27)</p> <p>[地域実習][インターンシップ][II-1-5]参照</p> <p>[卒業論文] 「卒業研究」の開講科目数は全部で15ある。それぞれの科目に指導教員1名、副指導教員2名を当て、3名体制で指導を行い、うまく機能した。</p>	4

(2) 大学院課程教育

中期目標	確かな基礎知識と高度な専門能力の修得に向けた講義、演習を行うとともに、実践的な課題解決型学習を行う。これにより、主体的な学びの姿勢を育み、日本と世界に広く通用しうる課題発見・解決能力の醸成を図る。				
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
1 教育に関する目標を達成するための措置 — (2) 大学院課程教育					
大学院は、1研究科3専攻で組織し、それぞれの専門領域及び分野横断的領域において学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展と産業の振興に寄与する。	II-1-14	大学院設置認可申請書に記載した教育課程を体系的、組織的に実行する。	研究科	前期には専門共通科目5科目、専攻専門科目11科目(うち分野横断的専攻専門科目5科目)、修了科目を、後期には専門応用科目1科目、専攻専門科目13科目(うち分野横断的専攻専門科目2科目)を開講した。 また、前期開講科目のうち、専門共通科目5科目、専攻専門科目7科目(うち分野横断的専攻専門科目5科目)、後期開講科目のうち、専門応用科目1科目、専攻専門科目6科目(うち分野横断的専攻専門科目1科目)については、Microsoft Teamsを使用し、対面授業と同時に配信方式でも授業を行い、3キャンパスに配信した。さらに、オンデマンドでも視聴できるよう体制を整えた。	3
	II-1-15	複数教員による指導体制で、修士論文作成に向けた研究指導を行う。専門分野を超えた課題研究に関し、他専攻からもアドバイザー教員を配置し、分野横断的研究を推進する。	研究科	学生本人と個別面談を行い、学生が希望する指導教員及び研究内容を確認の上、主任指導教員、副指導教員、アドバイザー教員を決定し、研究指導体制を整えた。	3
	II-1-16	授業評価アンケートを実施し、教育の質の向上を図る。	研究科	前期・後期の最終回の授業で、学生の理解度や満足度を把握し、授業内容や教授法の改善に役立てる為、授業評価アンケートを実施した。 集計には、学生の利便性、集計作業の効率化などを踏まえ、ポータルサイト(学務情報システム)を利用した。 アンケート結果は授業改善に活用するため、全教員にフィードバックされ、学長や研究科長から、授業内容の改善等に関する必要な指示がなされた。 [授業満足度(5点満点)] 全体 平均4.02 (前期 平均3.88 / 後期 平均4.46)	3

(3) 入学者選抜

中期目標		大学の入試広報を積極的・計画的に行い、アドミッションポリシーにもとづいて目的意識・学習意欲・学力の高い入学者確保に努める。			
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
1 教育に関する目標を達成するための措置 - (3) 入学者選抜					
①本学のアドミッションポリシーにもとづいて、目的意識・学習意欲・学力の高い入学者を確保するため、入試広報を積極的・計画的に行う。	II-1-17	オンラインの活用も図りながら、大学説明会の開催或いは合同説明会への参加、オープンキャンパスや高校訪問を実施し、学生募集活動を展開する。 引き続き、入学者の声及びこれまでの教育の成果を積極的に入試広報に活用する。	教育企画委員会（入試部会）	<p>北陸三県・東海・信越地方など各地の高校に対して入学者選抜要項、大学案内等の送付に加え、高等学校進路指導教諭対象大学説明会、高校訪問において延べ94校に対して本学の概要を説明するなど入学定員の充足に努めた。オープンキャンパスは高校3年生を対象に、7月に3キャンパスにおいて実施し、281名が参加した。</p> <p>[オープンキャンパス] 高校3年生のみを対象に感染症対策を行ったうえで実施した。 参加人数 3キャンパス（3学部4学科）合計：281名（内訳：生産37名、看護73名、臨床87名、国際84名） ※参考：令和3年度254名</p> <p>[高等学校進路指導教諭対象大学説明会] 北陸三県の高校教諭（進路指導）を対象とした大学説明会を4会場（小松、金沢、福井、富山）で開催し、54校55名の参加となった。 ※会場別参加校・参加者数 小松会場（6/27）：10校11名、金沢会場（7/1）：21校21名、富山会場（6/30）：13校13名、福井会場（6/28）：10校10名</p> <p>[高校訪問] 教員・事務職員による高校訪問を6月および9月に実施。北陸3件の出願が多い高校に限定して実施した。なお、その他の高校には郵送により2023年度学生募集要項、大学案内等の冊子を送付して令和5年度入試・学生募集を案内した。 6月：23校、9月：17校 ※令和3年度／6月：13校、9月：9校</p> <p>[進学相談会] 業者主催による進学相談会へ参加した。 金沢6回、富山3回、高岡1回、福井3回、新潟1回、長野2回、松本1回、岐阜1回、名古屋1回、浜松1回、オンライン相談会4回</p> <p>[オンラインの活用] 大学コンソーシアム石川主催のオンライン説明会（7/23開催32名視聴）に参加したほか、独自にオンライン個別相談会を企画し、8/8～8/10開催で6名の申込・相談に対応した。</p>	4
②入学者選抜の結果を検証し、入試制度・方法の改善につなげる。	II-1-18	入試結果の分析及び入学者の追跡調査による検証を行い、2022年度に実施する入試に向けて方法を改めて点検する。	教育企画委員会（入試部会）	<p>入試部会において2022年度入試の志願者数、志願者出身高校、合格者の得点率等のデータの分析を行ったほか、在学生のGPA等の学力調査結果を基に入学者選抜区分との関連の分析も各学科で実施したが、選抜区分による有意な差は確認できなかったため、現状の選抜方法を維持することとした。</p> <p>[募集要項の公表] ・9/12 学生募集要項（学校推薦型選抜、社会人選抜）をHP上に掲載 ・11/1 学生募集要項（一般選抜）をHP上に掲載</p>	3
	II-1-19	これまでの入試結果を踏まえて、5年目以降の入試の種類及び種類ごとの定員を再検討する。	教育企画委員会（入試部会）	<p>入試部会の指示の下、学生のGPA等の学力調査結果を基に入学者選抜区分との関連の分析も各学科で実施したが、選抜区分による有意な差は確認できなかった。今後は、その他の指標（実験・実習を除いたGPAなど）を用いた分析についても検討、今後の選抜方法の点検の材料とすることとした。</p>	3

(4) 学生支援

中期目標		地域との連携・協力のもとに、教職員が一体となって組織的に学生一人ひとりの学業・生活を支援する。また、学生が1年次から自ら目指すべき将来像を明確にし、社会的・職業的自立を図るために必要となる能力を形成できるようキャリア教育を充実させるとともに、キャリアサポートセンター等によるキャリア形成支援を行う。				
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価	
1 教育に関する目標を達成するための措置 - (4) 学生支援						
①職員が一体となって、学生一人ひとりの学業・生活を支援する体制を構築し、安心して学べる環境を提供する。	II-1-20	大学生活の基本を学ぶとともに、交流を深めるため新生を対象としたオリエンテーションなどを実施する。	各学部	<p>新生を対象として実施している「きずな合宿」を各学科で開催し、入学生間、学生-教員間、入学生-先輩間で交流を行い、絆を深めた。 (新生248名、上級生38名参加)</p> <p>生産システム科学科では、「きずな合宿」において、実験室や研究室の見学、新入生同士に加え、上級生や教員と交流を行うことで、縦横の繋がりを構築することができた。また、「テーマ別基礎ゼミ」を通して、学生たちがグループごとにテーマを決めた調査研究を実施することで、能動的に学ぶ意欲の向上を図ることができた。</p> <p>看護学科及び臨床工学科では、履修ガイダンスと共に、初回の「キャリアデザイン・チーム論II」において合同で学部教育や支援体制等の内容を説明した。</p> <p>国際文化交流学科では、1年次必修科目の「国際交流論」において、グループごとに考え、発表を行うアクティブラーニングを取り入れることにより、学生たちの学修意欲の向上を図ることができた。</p>	4	
	II-1-21	相談教員または指導教員が、個々の学生に応じたきめ細かな支援を行う。	各学部、研究科	<p>生産システム科学科では、1教員が4～5名の学生の学修支援や生活面の相談を行う現行制度を継続した。一部、深刻な問題を抱える学生は、学科長を中心に教務・学生生活の担当教員が、保健管理センターと協同で対応した。</p> <p>看護学科では、担任制度を取ることで学生一人ひとりの理解を深め、相談への対応や面談を行うことができた。</p> <p>臨床工学科では、各学年にアカデミックアドバイザー教員を2人配置し、学生の学修支援や生活指導等について丁寧かつ適切に対応することができた。</p> <p>国際文化交流学科では、5月中旬までに1～3年次までの全学生を対象とした相談教員による面談を実施した。4年生に対しては、「卒業研究」の指導教員1名に加え、副指導教員2名を付けた3名体制で支援を行った。なお、面談結果等については、教授会にて情報共有を行った。</p>	4	

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-1-22	健康診断の徹底や新型コロナウイルスなどの感染症予防、健康相談、保健情報提供等、健康支援のための取組を推進する。また、学生相談を3キャンパスで随時実施する。	保健管理センター	<p>学生定期健康診断を実施し、ほぼ全ての学生が受診した。尿・血圧の再検査を実施。要医療・要精検・要再検査（医療機関での検査必要）と判断された29名の学生には医療機関への受診勧奨を実施し、21名は受診済み。受診結果未提出の学生には12月に保護者宛に書類を郵送した。7月5日および11月29日に学校医が来学し、学生の健康診断結果の確認を行った。同時に要受診判定者の受診結果を確認し、学業の継続に支障をきたしている学生はいなかった。</p> <p>健康調査票の結果、保健管理センターに相談希望の学生、既往症のある学生、精神面で気になる学生（該当者：生産2～4年は41人、看護2～4年は16人、臨床工学2～4年は6人、国際2～4年は23人、1年生は15人）にメール等で連絡し、現状把握と対応を行った。</p> <p>1年生の感染症調査票および健診結果をもとに、4種予防接種の接種歴と抗体価を確認。必要な予防接種の接種勧奨を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勧奨数：生産21名、看護22名、臨床工学15名、国際16名 ・接種者数：生産11名、看護22名、臨床工学14名、国際10名 <p>インフルエンザ予防接種を小松市医師会に依頼し、下記のとおり実施した。接種の事前申し込みはMicrosoft Formsを使用。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11/17～12/14 3キャンパスで計8回実施 ・12/15～1/10 医療機関での個別接種を実施 <p>接種率は、学生が57%（580名/980名中）、教職員が85%（105名/127名中）であった。</p> <p>保健医療学部1年生のB型肝炎集団予防接種を医師会に依頼し、新規で契約した（小松ソフィア病院が実施）。3回の接種（5月13日・6月10日・10月20日）と抗体検査（12月15日）を実施した。</p> <p>臨床心理士による学生相談は、週4日間（月～水と金）の午後を実施した。 [令和4年度相談者数] 前期：新規10名、継続6名、相談再開2名、合計18名（うち3名は相談終了） 後期：新規3名、前期からの継続9名、相談再開1名、合計13名（うち6名相談終了）</p> <p>年5回ほけかんだよりを発行し、定期的に学生への感染防止や健康情報の周知を図った。</p> <p>研修実績としては、下記のとおり全てオンラインで参加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7/28-29 東海北陸大学保健管理研究会 1名 ・8/25 第1回石川県保健管理担当職研究会 2名 ・8/29 令和4年度自殺未遂者支援研修会 3名 ・10/6、10/14、1/19、3/3 石川県産業保健総合支援センターのWeb研修 1名 ※10/6のみ3名参加 ・10/19-20 全国大学保健管理研究会 1名 ・11/9 北陸地区保健管理担当職研究会 1名 ・3/2 第2回石川県保健管理担当職研究会 2名 ・3/16 令和4年度青少年の性と心の研修会 2名 <p>【新型コロナウイルス感染症について】 新型コロナ感染症連絡網を活用し、関係教職員に感染ならびに相談状況を随時報告。安全衛生委員会、学生支援部会で毎月報告。その他、要請があれば理事会に報告した。 また、学生・教職員からの新型コロナ感染症に関する相談や連絡に個別対応した。</p> <p>令和4年度は、学生・教職員からの相談が418件あり、濃厚接触者は189人、陽性者213人（学生194人、教員10人、職員9人）であった。</p>	4
	II-1-23	国の高等教育の修学支援新制度に基づいて確実に支援を実施すると同時に、引き続き大学独自の支援策も実施する。	学生課	<p>高等教育修学支援新制度の更新確認申請書を6月27日に小松市役所に提出。 在学生に対し、4月1日、7日、8日に修学支援新制度を含む日本学生支援機構奨学金の募集説明会を実施。後期の募集については、ポータルやHP等により募集。</p> <p>本学の貸付金制度の利用者はなし。</p>	3

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-1-24	奨学金受給、安全なアルバイト情報の提供など、学生生活の経済的な支援を引き続き行う。	学生課	<p>各種奨学金制度の案内を各キャンパスにおいてその都度掲示し、あわせて大学HPでも周知している。</p> <p>4月のオリエンテーションにおいて、授業料免除や奨学金などの経済支援について、学生に情報周知を行った。申請書類の不備などは学生に細やかな連絡を行い、適切に申請手続きを行った。</p> <p>アルバイト情報については、求人内容や事業者をよくチェックし、学内掲示を行っている。</p> <p>また、中央キャンパスに通う学生への昼食補助として、周辺店舗で使用できる補助券（200円×10枚）を月々交付し、学生への経済支援とあわせ、地域経済にも寄与した。</p> <p>物価高に対する経済対策支援として、日本学生支援機構給付奨学生96名に図書カード1万円分を支給した。</p> <p>[授業料免除] 前期修学支援新制度認定者 全額免除：52人、2/3免除：25人、1/3免除：21人 計98人 後期修学支援新制度認定者 全額免除：51人、2/3免除：30人、1/3免除：15人 計96人</p> <p>[奨学金 ※2022年度新規受給者] 日本学生支援機構奨学金 給付：32人／貸与一種：45人／貸与二種：44人 ・能美市育英資金 貸与：1人</p> <p>[アルバイト情報の提供] ※掲載期間は1か月 全259件</p> <p>[ランチ助成券] 配布月：8か月（4月、5月、6月、7月、10月、11月、12月、1月） 対象：前期 全学部1・2年生、国際3・4年生（合計657人） 後期 全学部1年生、国際文化交流学部2・3・4年生（合計482人） 利用（換金）実績：7,757,000円 ランチ助成 対象店 25店舗、学食ネット対象店 2店舗</p>	4
	II-1-25	サークルの立ち上げや活動の場の提供、サークル活動助成金制度などにより、学生の課外活動を支援する。学生交流の活発化に向けた取り組みを検討する。	学生課	<p>公立小松大学基金を財源に大学としてサークル活動への助成を行った。</p> <p>サークル代表者会議を6月22日および2月22日に実施し、サークル活動場所に関する情報提供や連盟等の団体登録料の補助、大会参加費の補助について説明した。また、課外活動時における新型コロナウイルス感染症防止についての指導も行った。</p> <p>サークル紹介については、掲示板だけでなく、学生ポータルでも周知を図った。</p> <p>大学祭で軽音・吹奏楽・ダンス・茶道等の発表の場を提供した。</p> <p>[令和4年度サークル登録数] 28団体（継続23団体、新規5団体） ※令和3年度実績27団体</p> <p>[大学祭] 4月28日 第1回学生実行委員会開催 7月 保護者会総会（書面決議）にて大学祭の支援決定 10月22日 大学祭開催（中央キャンパス・うちら大ホール）</p>	3

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-1-26	学部学科、研究科専攻の専門性に沿った学術書の充実を図り、学生の自主的な学修を支援する。また、利用教育を充実させ、学生の図書館利用の促進を図る。	附属図書館	<p>(1)利用促進に向けた取り組みとして、下記のとおり実施した。</p> <p>①5月、6月に新入生に対し、「情報処理基礎」の授業の中で、図書館利用法のガイダンスを実施</p> <p>②三館連携しての企画展示を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスに合わせた企画 中央図書館:中央図書館貸出人気図書 19冊展示 栗津図書館:生産システム科学部参考図書リスト 66冊展示 末広図書館:医療系貸出人気図書 17冊展示 ・各館で学生の学修を支援する企画展示 中央図書館:レポート、論文執筆の参考図書 20冊展示 栗津図書館:課題探求プロジェクト本 26冊展示 末広図書館:1.実習サポート図書 19冊展示 2.国家資格試験対策図書 49冊展示 ・各館で学生の就職活動を支援する企画展示 中央図書館:43冊展示 栗津図書館:51冊展示 末広図書館:52冊展示 ・雑誌の利用を促進する巡回企画展示を実施 末広図書館:35冊展示 11月～12月中旬実施 中央図書館:25冊展示 2月～実施 <p>③シラバス参考図書を三館で購入</p> <p>【三館合計購入冊数 図書:32冊 97,054円】 (中央17冊34,774円、栗津 2冊6,688円、末広13冊55,592円)</p> <p>④資料の整備、充実</p> <p>三館合計資料令和4年度受入冊数 【図書 2,868冊、視聴覚 57点、電子書籍 43点】</p> <p>⑤学外リモートアクセス環境の調査を実施 現在提供中の認証方式の設定方法を図書館HPに掲載</p> <p>(2)図書館運営委員会を開催(4/27、6/29、7/27、9/28、10/12、11/30、2/21、3/29) 司書ミーティングを実施 (4/20、6/22、7/20、9/22、10/19、11/22、1/18、2/21、3/22)</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				<p>(3)蔵書点検を実施 末広図書館 8/17～8/19 (点検冊数 約14,000点 うち紛失点数 9点) 粟津図書館 8/23～8/26 (点検冊数 約35,000点 うち紛失点数 10点) 中央図書館 1/4～1/6 (点検冊数 約19,000点 うち紛失点数 45点) ・紛失図書改善案を作成 ・三館紛失図書リストを館内掲示、図書館HPに掲載 ・図書館運営委員会で紛失図書の対策について議論</p> <p>(4)地域の図書館との連携(相互貸借) 6/23 令和4年度 図書館協力業務・ネットワーク担当者会議に参加 7/1 「公立小松大学附属図書館資料相互貸借貸出要領」、 「公立小松大学附属図書館相互貸借複写取 扱要領」を制定 7/27 相互貸借条件一覧に研究室所蔵図書は貸出不可の場合があると提示し、 研究室所蔵図書の保管場所・氏名は表示せずに検索対象とすることと制定。 OPAC検索システムに所蔵情報を公開 8/1 石川県公共図書館協議会と相互協力に関する覚書を締結 10/4 石川県内図書館を対象とした「石川県図書館情報ネットワーク」に参加 3/24 東海北陸地区の図書館を対象とした「東海北陸地区相互貸借」に参加申請 【三館合計利用冊数 借用64冊 貸出30冊】</p> <p>(5)国立情報学研究所が運営する目録所在情報サービス「NACSIS-CAT」への研究室所蔵図書の情報を公開 研究室 登録件数 2102点</p> <p>(6)所蔵資料数 ・中央図書館 図書 14,408冊、逐次刊行物 4,126冊、視聴覚 599点 ・粟津図書館 図書 37,430冊、逐次刊行物 1,584冊、視聴覚 457点 ・末広図書館 図書 17,216冊、逐次刊行物 1,228冊、視聴覚 347点 ・電子書籍 136点</p> <p>(7)貸出冊数 [貸出冊数/貸出人数(延べ) 4/1～3/31] ・学生 4,704冊/2,422人 (R4年度: 6,175冊/3,122人) [生産システム科学科] 847冊/475人 (R4年度: 1,334冊/729人) [看護学科] 2,008冊/865人 (R4年度: 3,008冊/1,339人) [臨床工学科] 633冊/360人 (R4年度: 484冊/246人) [国際文化交流学科] 1,069冊/621人 (R4年度: 1,349冊/808人) [サステイナブルシステム科学研究科] 147冊/101人 ・教員 1,039冊/422人 (R4年度: 815冊/354人)、職員 687冊/340人 (R4年度: 483冊/244人) [中央図書館] 教員 196冊/ 92人 (R4年度: 175冊/ 88人)、職員 357冊/176人 (R4年度: 333冊/162人) [末広図書館] 教員 656冊/251人 (R4年度: 531冊/223人)、職員 255冊/119人 (R4年度: 94冊/ 54人) [粟津図書館] 教員 187冊/ 79人 (R4年度: 109冊/ 43人)、職員 75冊/ 45人 (R4年度: 56冊/ 28人)</p>	
	II-1-27	図書館と連携した自習室の学習環境の維持向上を図る。	附属図書館	自習室および閲覧席の意見は、各館カウンターで随時受け付けている。随時蔵書整理や館内の清掃を行い、利用者が気持ちよく利用できるような学習環境作りの向上を図った。	3

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
②将来の社会的・職業的自立に資するキャリア教育を実施するとともに、キャリアサポートセンター等によるキャリア形成支援を行う。	II-1-28	就職ガイダンスや業界研究セミナーの実施など、既存のキャリア支援プログラムについて、令和3年度の実施結果及び就職内定実績を踏まえ、必要なキャリア支援プログラムや学生相談を実施する。	キャリアサポートセンター	<p>[セミナー、ガイダンス等の開催]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザインセミナー (保健1年生80名) キャリアデザインチーム論で実施 4/20 (国際1年生80名) キャリアデザインチーム論で実施 5/23 (生産1年生80名) テーマ別基礎ゼミで実施 11/28、12/5、12/12、12/19、1/16、1/23 ・就職ガイダンス (臨床) 第1回就職ガイダンス 4/8 対象：4年生 参加者30名 第2回就職ガイダンス 1/20 対象：3年生 参加者30名 ・キャリアガイダンス (オンライン) 対象：3年生 4/13 キャリアガイダンス 参加者：105名 5/11 就活キックオフガイダンス 参加者：63名 5/18 自己分析 参加者：73名 5/25 エントリーシート対策 参加者：59名 6/1 面接対策 参加者：59名 6/8 企業研究 参加者：45名 6/15 筆記試験対策 参加者：41名 6/22 メイク講座 参加者：35名 6/29 ビジネスマナー・メール講座 参加者：41名 ・10/10 就職活動丸ごと体験実践型セミナー 対象：3年生 参加者：46名 (生産24名、国際19名、修士3名) 業界研究、現役採用担当者による面接・グループディスカッション指導等 【参加企業】7社 ・面接特訓セミナー 全ての面接スタイルを攻略するため、実践を通じた面接練習を丸一日かけて実施 12/27 中央キャンパス 参加者7名 (国際6名、修士1名) 1/11 中央キャンパス 参加者5名 (臨床1名、国際4名) 1/13 粟津キャンパス 参加者5名 (生産3名、国際1名、修士1名) ・面接練習会 (中央キャンパス) 〈初級編〉4/5、3/1、3/13、3/14、3/15、3/28、3/30、3/31 参加者 計33名 〈中級編〉4/5、4/12、4/14、4/19、3/2、3/14、3/16、3/17、3/27、3/28、3/29、3/30、3/31 参加者 計30名 〈上級編〉4/6、4/7、4/13、4/15、4/18、4/22、3/7、3/15、3/16、3/17、3/24、3/28、3/29 参加者 計16名 ・面接練習会 (粟津キャンパス) 〈中級編〉3/16、3/24、3/29 参加者 計6名 ・金沢大学附属病院での面接練習会 面接対策① 6/9 参加者7名 面接対策② 6/16 参加者10名 ・SPI試験対策講座 [オンライン] 民間企業の採用試験において課されることが多いSPI適性検査を突破できるよう基礎から徹底的に学習する 1/5 参加者：11名 ・就活証明写真撮影会 9/27 中央キャンパス (ヘア&メイク リタッチ付) 参加者15名 (国際13名、修士2名) (撮影のみ) 参加者12名 (国際11名、修士1名) 12/7 粟津キャンパス (ヘア&メイク リタッチ付) 参加者14名 (生産10名、国際4名) (撮影のみ) 参加者4名 (生産3名、国際1名) 12/19、20 末広キャンパス (ヘア&メイク リタッチ付) 参加者21名 (看護15名、臨床6名) 	5

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ事前研修（全8回） 対象：3年生 参加者合計143名 7/1（14名）、7/6（25名）、7/8（23名）、7/13（26名）、 7/15（10名）、7/20（10名）、7/22（25名）、7/27（10名） ・いしかわインターンシップフェス2022 5/7 参加者83名 ・2022ふくいインターンシップガイダンス （中央キャンパス）5/10 参加者1名 （粟津キャンパス）5/11 参加者2名 ・第37回いしかわ情報システムフェア「e-messe kanazawa 2022」 5/13 参加者40名 ・MEX金沢2022（第58回機械工業見本市金沢） 5/20 参加者34名 ・企業見学 大阪税関金沢税関支署小松空港出張所 10/17 参加者18名（国際10名、職員8名） ハイアットセントリック金沢 11/15 参加者 9名（国際9名） 小松ウオール工業㈱ 加賀工場 11/30 参加者10名（生産7名、国際3名） 福井鋳螺網 加賀工場 12/14 参加者 7名（生産6名、国際1名） 高松機械工業㈱ あさひ工場 1/18 参加者10名（生産9名、国際1名） ㈱ソディック 加賀事業所 1/25 →大雪のため中止 ・公務員講座フォロー講座オンデマンド配信 6/19、8/12、11/16、1/6、3/3、3/20 ・公務員合同ガイダンス&フォーラム 金沢大学・小松市役所の業務説明会、4年生の内定者による公務員合格体験談 11/16 参加者：15名（生産1名、国際14名） ・公務員ガイダンス 自衛隊・小松市消防本部・小松警察署の業務説明会、LEC荒屋氏による公務員講座についての説明 3/3 参加者：6名（生産1名、国際5名） ・公務員模試 3/3 参加者：8名（国際8名） ・個別企業説明会 日本通運 7/6 参加者5名 ミサワホーム 7/22 参加者2名 ・業界研究会 採用実績、協力企業、学生のニーズ等を多角的に判断し厳選した企業計52社が参加 日時：2/14、15 13:00～16:30 会場：サイエンスヒルズこまつ イベントホール 参加企業：2/14 28社 2/15 24社 参加者：2/14 106名（生産44名、国際56名、修士6名） 2/15 98名（生産43名、国際48名、修士7名） ・公立小松大学就職支援ブックの作成と配布 ㈱ディスコに依頼し、本学用就職支援ブックを作成。3年生全員に配布。 ・賠償責任保険加入手続き インターンシップの参加にあたり、生産・国際3年生全員が賠償責任保険に加入。 	

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-1-29	新型コロナウイルス感染症による就職活動への影響や活動スケジュール等の変更を注視し、就職活動を行う学生が不利益を被らない支援体制を構築する。	キャリアサポートセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・業界別内定者交流会 業界ごとに少人数制で開催。先輩から就活の苦労話や就活裏話などを聞いた。 建材・化学 11/22 参加者 1名 (国際1名) 広告・印刷・出版 11/29 参加者 0名 公務員・市役所 12/6 参加者 1名 (国際1名) アルミ建材 12/13 参加者 3名 (生産1名、国際2名) IT業界〔オンライン〕 12/23 参加者 1名 (国際1名) メガバンク・コンサル 1/17 参加者 4名 (生産1名、国際3名) 金融 1/24 参加者 4名 (国際4名) 起業・国際協力・NPO 1/31 参加者 3名 (国際3名) 繊維〔オンライン〕 2/4 参加者 4名 (生産4名) 半導体〔オンライン〕 3/25 参加者 2名 (生産2名) パーティーション 3/29 参加者 1名 (国際1名) 	4
	II-1-30	各学部センター会議委員及び就職支援担当教員等が、就職先となる企業、医療機関、各種団体との関係づくりを促進し、積極的な情報提供及び情報交換を行う。	キャリアサポートセンター、各学部	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアサポートセンター会議 4/27、5/26、6/30、7/28、8/25、9/29、10/27、11/24、12/22、1/26、2/16 各学科における就職支援方針、体制、計画、状況などを把握し、学年進行に対応した支援プログラム作成指針（テーマ、ねらい）を検討 内定状況（3/23現在） 全体 100.0% 就職希望者 192名中 192名内定 生産 100.0% 就職希望者 43名中 43名内定 看護 100.0% 就職希望者 44名中 44名内定 臨床 100.0% 就職希望者 33名中 33名内定 国際 100.0% 就職希望者 72名中 72名内定 ・小松市まちづくり市民財団職員研修 接遇研修 7/14 ・石川県 大学関係者会議 9/21、2/28 ・大学コンソーシアム会議 10/3 	4
	II-1-31	「キャリアタスUC」を活用し、企業からの求人情報のほか、学生個々の志望・活動状況の蓄積を進め、キャリアサポートセンター、就職支援担当教員等による個別支援の強化に取組む。	キャリアサポートセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアサポートセンター専用LINE開設 登録者173名 ・相談件数 個別相談は対面もしくはオンラインで実施 【中央キャンパス】計958件 4月：65件、5月：72件、6月：72件、7月：67件、8月：47件、9月：27件、10月：68件、11月：51件、12月：67件、1月：95件、2月：146件、3月：181件 【栗津キャンパス】計402件 4月：48件、5月：37件、6月：45件、7月：22件、8月：7件、9月：2件、10月：10件、11月：8件、12月：22件、1月：28件、2月：48件、3月：50件 	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-1-32	特に3・4年生へのキャリアサポートとして、キャリアサポートセンターや各学科の就職担当教員だけでなく、全ての教員が、学生の状況把握や支援を連携して行う。	各学部	<p>生産システム科学科において、就職希望者からは就職先、内定の確約書、大学推薦書などに関する相談を受けた。大学院進学希望者からは、学費や奨学金、本学・他大学の入学試験の内容について相談を受け、指導を行った。なお、就職先の決定が遅れた学生に対しては、卒業研究の指導教員やキャリアサポートセンターと連携して指導を行った。</p> <p>看護学科において、キャリアサポートセンター委員は1名であるが、4年生の担任がキャリアサポート補佐役として、キャリアサポートセンターとの連携、学生の就職活動の支援、就職先機関の来学時の対応を行った。キャリアサポートセンター委員は、教員会議にて学科全体に就職活動状況を報告し、必要に応じて全教員で検討を行った。就職内定率（進学含め）は100%であり、希望する医療機関への就職や進学ができた。</p> <p>臨床工学科において学生が複数の医療機関へ同時期に志願できる制度を整備した。本制度に基づいて、キャリアサポートセンター委員および各教員が学生の就職活動の支援を行った。</p> <p>国際文化交流学科においては、キャリアサポートセンター委員およびキャリアサポートセンタースタッフが、「卒業研究」担当教員との連携により、学生個別の単位取得状況、生活状況を適宜確認するとともに情報共有を行った。3年生に対しては、新学期後始まった就職関連セミナーと連動させ、早期から就職への心構えを作るよう学生へ呼びかけを行った。</p>	4
③地域の連携・協力を得て、インターンシップや学外実習等を実施するほか、課外活動を含む学生生活の充実を図る。	II-1-33	協力企業・機関・施設・団体等を幅広く募り、教育・研究・社会連携・大学運営にかかわる、多様な連携協力のための体制を拡大する。	地域連携推進センター	<p>協力企業等の依頼を継続し、連携体制の強化を図るとともに、協力企業等への定期的な情報発信を行い、地域や企業のニーズとのマッチング機会を増やした。</p> <p>[企業等との連携協力体制] ・協力企業等 375件 ※R3年度：338件 (内訳 石川県：225、福井県：69、富山県：61、その他：18、海外：2)</p> <p>[協力企業への情報発信] ・6月 産学合同シリコンバレー研修案内（メール） ・7月 研究シーズ集2022、大学案内2023発送 ・9月 Tachyon9号、Tachyon Academia2号発送 (今年度より卒業生にも発送) ・10月 市民公開フォーラムチラシ発送（メール） ・3月 次年度産官学合同シリコンバレー研修案内（郵送） その他、キャリアサポートセンターからは、別途各種お知らせなどを送付</p>	3
	II-1-34	インターンシップや学外実習先の確保を進めるとともに、実習テーマ、実施体制等の具体的な内容について調整を行い、授業計画や到達目標に沿った活動とするための環境を整える。また、実施に当たって担当教員は、実習先の指導者と緊密に連携を図り、実習効果が高まる環境調整を行う。	各学部	<p>生産システム科学科では、3年次必修科目「学外技術体験実習」において、受講者計73人が近隣の34企業で1週間の実習を体験した。</p> <p>看護学科においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、臨地実習ができない期間が発生したが、迅速かつ柔軟に学内実習へと切り替えることができた。教育課程のコアとなる実習を、学内実習を交えることで途切れることなく完了することができ、実習目標を達成することができた。</p> <p>臨床工学科においては、コロナ禍の病院実習で各実習施設により制約があったが、5月に1施設・6月に3施設・7月に3施設・8月に5施設で病院実習を行った。地域では石川県6施設、福井県4施設、富山県2施設である。一部学生の臨床実習に関連する宿泊費が高額となったことから、小松市内または近隣の医療施設の実習先を増やす。</p> <p>国際文化交流学科においては、地域実習(5課題)、インターンシップとともに提携先、受け入れ企業との連携は順調に進んだ。地域実習では、2022年8月の大雨による被害により一部実習の変更が余儀なくされたが、災害ボランティアへの切り替えや、小松市の協力により新設予定の図書館準備ワークショップへの参加など、さまざまな活動を実習に取り組むことができた。インターンシップは地元企業等からの協力を受けることができ、参加学生の半数近くが地元企業等で実施することができた。</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-1-35	国際・地域課題を直接観察するため、フィールドワークを通じたケーススタディやインターンシップを積極的に実施する。円滑な実施にあたり、担当教員らが行政や地域企業等との連携を密にする。	研究科	<p>生産システム科学専攻において、長期インターンシップへ参加した大学院生はいなかったが、短期インターンシップには大学院生1人あたり2、3社参加することができた。また、地元企業との共同研究に関連した研究テーマを実施している大学院生が2人いる。</p> <p>ヘルスケアシステム科学専攻において、複数名の大学院担当教員と大学院生1人が、大学主催のシーズ・ニューズマッチングシンポジウムへ参加し、地元企業との共同研究の可能性を探る機会となった。また、北陸3県の病院におけるインターンシップの実施可能性について情報収集を行った。</p> <p>グローバル文化学専攻において、大学院生のうちシリコンバレー研修への参加が1人、デンマークへの留学が1人となっている。</p>	3
	II-1-36	国際情勢と研修地域の安全面に十分配慮した上で、海外インターンシップを実施する。オンラインを活用した交流も推進する。	国際交流センター	金沢大学環日本海域環境研究センターと共同で行っている「カンボジア国立アンコール遺跡整備公団インターンシップ」は、次年度夏休み期間の実施再開に向けて、担当教員1人がアンコール遺跡整備公団へ訪問し、協議を行った。	3
	II-1-37	地域行事への学生参加を支援する。産学合同シリコンバレー研修を実施し、地域の活性化に資するプロジェクト企画への発展を試みる。	地域連携推進センター	<p>地域行事が一部再開し、お祭祭りなど各種行事に参加することができた。また、8月の小松市での記録的豪雨により被災した地域を支援するため、小松大学ボランティアサークルのメンバーを筆頭に、学生および教職員延べ100名が災害ボランティア活動に参加した。</p> <p>産学合同シリコンバレー研修についても、3年ぶりに現地開催することができた。事前学習として特別講義（全8回）を実施することでより密度の濃い研修を実施することができた。</p> <p>[地域行事への参加]</p> <p>①5/14 お旅まつり曳山曳揃え (学生22名、留学生5名参加)</p> <p>②8/7～9/21 災害ボランティア 8/4に発生した豪雨災害のボランティアに学生及び教職員延べ100人（学生62人、教職員38人）が参加した。</p> <p>○小松大学ボランティアサークル 8月7日（日） サークル有志4名、顧問1名（上麦口町） 8月27日（土） サークル有志3名、顧問1名（上麦口町） 8月28日（日） サークル有志2名、顧問1名（上麦口町）</p> <p>○小松市災害ボランティア団体参加 8月10日（水） 午前：教職員6名、学生9名（遊泉寺町） 午後：教職員4名、学生4名（中ノ峠町） 8月11日（木） 午前：教職員8名、学生2名（中海町） 午後：教職員3名、学生4名（中海町） 8月12日（金） 午前：教職員3名、学生5名（中ノ峠町） 午後：教職員3名、学生3名（中ノ峠町） 9月19日（月）、20日（火） 参加を予定していたが、台風により中止 9月21日（水） 教職員5名、学生11名（中海町）</p> <p>○小松市インターンシップ参加 8月22日（月）、24日（水）、26日（金） 各日教員1名、学生5名（中海町）</p> <p>③9/17～10/14 かかしコンクール（事務職員のみ） こまつの杜（みどりのこまつスクスク会）主催の「第6回かかしコンクール」に参加し、青松祭のPRも兼ねて出展した。人気投票の結果、5位入賞（コマツ金沢工場長賞）を収めた。</p> <p>④10/9 どんどんまつり 小松青年会議所主催の「のど自慢大会」に青松祭の実行委員学生1名が参加し、青松祭のPRを行った。</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				<p>〔産学合同シリコンバレー研修〕【※Ⅲ-1-4 一部再掲】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別講座「グローバル人材と持続的開発プロジェクト」 <p>産学合同シリコンバレー研修の事前学習として、学生を中心に問題分析及び解決方法のスキルの向上を目的に、国際交流センターの岸本特任教授及び榎本特任教授による特別講座（全8回）を行った。終盤では企業参加者も参加し、産学合同シリコンバレー研修に向けたワークショップを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産学合同シリコンバレー研修 <p>期 間：9/11～9/17（5泊7日） 場 所：シリコンバレーオフィス（アメリカ カリフォルニア州） 参加者：学生11名、企業参加者4名（現地企業含む）、随任教職員4名 3年ぶりに本学のシリコンバレーオフィス（アメリカ カリフォルニア州）に学生と地域の社会人を派遣する「産学合同シリコンバレー研修」を実施。</p> <p>前半は本学特任教授で米国法人B-Bridge International, Inc. 代表の榎本氏や現地企業に就職した日本人による特別講義が行われた。後半は学生と企業参加者が協力してグループワークに取り組み、現地企業やスタンフォード大学、サンフランシスコの観光地を視察。</p>	

(5) 地域の教育機関との連携

中期目標		地域の教育機関等と連携し、望ましい高大接続のあり方に向けた改革を行う。また、地域の小学校・中学校・高等学校等との連携・協力により、子どもたちの教育の充実を支援する。社会の諸問題を解決し、また、教員・学生の質の向上を図るため、経費等につき十分検証しながら、大学院設置の可能性を追求する。			
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
1 教育に関する目標を達成するための措置 - (5) 地域の教育機関との連携と大学院					
①地域の教育機関等と連携し、望ましい高大接続のモデルを策定する。 ②地域の小学校・中学校・高等学校等との連携・協力により、子どもたちの教育の充実を支援する。	II-1-38	高大接続のモデル策定に向けた検討を継続すると同時に一部試行する。	教育企画委員会	<p>小松市立高校と高大連携事業の基本方針について、令和3年度に引き続き協議をすすめるとともに、本学教員が全4回高大連携授業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小松市立高校1年生高大連携クラスにて本学教員が授業を実施。 ①10月25日（火） 担当：木村誠准教授（国際） 「小松市の自然が心に与える影響の測定」 ②11月8日（火） 担当：上野祐亮助教授（生産） 「ロボット工学と工作機械」 ③11月15日（火） 担当：長辻幸准教授（国際） 「英語学」 ⑤12月8日（木） 担当：橋本泰成教授（臨床） 「脳とコンピュータをつなぐ技術とリハビリ機器」 	3
	II-1-39	地域の高等学校等と連携して教育プログラムを実施する。	教育企画委員会	<p>サイエンスヒルズこまつにて、大学の紹介展示をはじめ、小学生の自由研究相談や、夏休み体験教室の実施、イベントへの教員の参加によって、地域の小学生や中学生の教育の充実を支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大学紹介展示を更新 学部紹介、研究者紹介など <ul style="list-style-type: none"> ・生産システム科学科：岩田教授、村山教授 ・看護学科：相上助教 ・臨床工学科：橋本教授 ●「自由研究相談」 <ul style="list-style-type: none"> ・8/20（土） 篠原教授（生産） ・8/21（日） 鈴木助教（臨床）、島内准教授（国際） ●「夏休み体験教室」 <ul style="list-style-type: none"> ・7/26（火） 木村准教授（国際） ・8/13（土） 李教授（臨床） ・8/16（火） 梶原准教授（生産） ●「サイエンス・フェスタ2022」 <ul style="list-style-type: none"> ・12/11（日） 池田准教授（生産） 	4

(6) 社会人教育

中期目標		身近な学びの拠点として、社会人教育プログラム、市民公開講座等を実施するとともに、附属図書館、英語カフェ等の施設の市民利用を図り、地域の人びとが学びに触れ、自らを豊かにする場を創出する。				
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価	
1 教育に関する目標を達成するための措置 - (6) 社会人教育						
①社会人教育プログラム、市民公開講座等を実施する。	II-1-40	社会人教育プログラムを実施する。社会の環境変化やニーズに対応したプログラムを検討する。	地域連携推進センター	<p>例年社会人を対象として「ものづくり人材スキルアッププログラム」を開講している。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止したが、令和3年度は対策を講じながら実施した。</p> <p>(1)ものづくり人材スキルアッププログラム ものづくり企業の従業員を対象とした実践的教育プログラムを実施し、年間25名が受講した。 A：生産管理技術、B：工場経営管理、総合：A+B 【前期】5/16～9/5開催 総合：0名 A：8名 B：1名 選択B：2名 合計11名 【後期】10/17～2/3開催 総合：3名 A：5名 B：2名 選択B：4名 合計14名</p> <p>(2)品質管理検定受験対策講座 【前期】3級のみ開催 9名受講（うち、遠隔受講2名） 【後期】3級のみ開催 17名受講（うち、遠隔受講9名）</p> <p>受講生募集については、講師1名と受講生募集業務委託を締結し、会社訪問によるプログラムのPRなど積極的に募集を行った。</p>	4	
	II-1-41	学内のシーズ・ニーズと産業界のニーズ・シーズのマッチングを図るシンポジウムを開催する。	地域連携推進センター	<p>(1) シーズ・ニーズマッチングシンポジウムの開催 12月10日（土）13時30分～16時30分 中央キャンパス3階 参加者：約50人 <発表> 講演①「常識を覆す切削工具の開発」 （㈱ギケン 代表取締役社長 石川 義一 氏） 講演②「脳と機械をつなぐリハビリ機器・コミュニケーション支援機器の開発」 保健医療学部臨床工学科 橋本 泰成 教授</p> <p>ポスター発表 保健医療学部 ①中田 明恵 教授 ②上田 映美 助教 ③小田 梓 助教 ④鈴木 郁斗 助教</p> <p>国際文化交流学 ①㈱ギケン 代表取締役社長 石川 義一 氏 ②地域未来創生機構 代表理事 中黒 茂司 氏</p> <p>生産システム科学部 ③清 剛治 准教授 ①岩田 佳雄 教授 ②歌野原 陽一教授（発表者：B4 岩田 健太郎） ③史 金星 准教授（発表者：M1 山田 陸人） ④疋津 正利 准教授（発表者：M1 阿部羅 大稀） ⑤上野 祐亮 助教（発表者：M1 野口 弘希） ⑥朴 亨原 准教授（発表者：M1 石高 寛土） ⑦粕谷 素洋 准教授 ⑧山下 幸三 准教授（発表者：B4 御舘 一大） （発表者：B4 堀 友哉） ⑨村山 立人 教授 ⑩梶原 祐輔 准教授 ⑪坂本 一磨 助教（発表者：M1 岩田 伊織） ※B4=学部4年生 M1=大学院1年生</p>	4	

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-1-42	小松市と連携し、こまつ市民大学を開催する。地域ニーズ等を踏まえて講座内容等の見直しを行う。	地域連携推進センター	<p>「こまつ市民大学」は地域連携推進センター長が運営委員として参画し、開講する講座の約半数の講師を本学教員が務めている。ものづくり、健康、語学、国際情勢など、本学の特徴を生かした多彩な内容となり、また、昨年度に引き続き講義の多くは、本学中央キャンパスを会場とした。</p> <p>①第5期講座（9月～3月） 講座数：11 講師数（延べ）：19人 「学長・副学長特別講座」受講生：14名 「注目が集まる新技術」受講生：17名 「初めて学ぶ心の理論」受講生：34名 「映像術－作家から学ぶ」受講生：8名 「からだと健康・医療のアレコレ耳より講座」受講生：21名 「『多様性』はなぜ大切か－自然・文化の多様性から考える－」受講生：18名 「旅がもっと楽しくなる！－食と観光のはなし」受講生：13名 「世界遺産検定チャレンジ講座」受講生：6名 「ビジネス・時事英語読解力講座」受講生：22名 「ジュニアコース（南極）」受講生：8名 「お口の健康、幸せ長寿講座」受講生：3名</p> <p>②運営委員会 6/2 第7回運営委員会 第5期事業計画及び令和4年度予算案の審議</p> <p>③講座検討会 1/31 第1回講座検討会 今後の講座のあり方について協議</p>	4
②附属図書館、英語カフェ等の施設の市民利用を図る。	II-1-43	地域住民等に向けて、各キャンパスの附属図書館や英語カフェ等を開放する。	附属図書館、総務課	<p>【施設貸付の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栗津キャンパス 年間使用：171件（うち169件は運動場利用） 随時使用：1件（北陸地域流体工学研究会生産歌野原先生所属学会） ・中央キャンパス 年間使用：56件（全てこまつ市民大学） ・末広キャンパス 0件 <p>総計 227件 （年度計画目標値 25件）</p>	3
	II-1-44	小松市・小松市国際交流協会と連携し、英語カフェにおいて国際交流プログラムを定期的に開催する。	国際交流センター	<p>①英会話カフェの開催 小松市・小松市国際交流協会と連携し、英会話カフェを実施した。小松市国際交流協会会員、小松市国際交流ボランティア、本学学生、および高校生等が参加し、英語でのコミュニケーションを図った。</p> <p>【開催実績】 4/9, 4/21, 5/30, 6/14, 6/27, 7/14, 7/26, 8/30, 9/15, 9/27,10/31, 11/17, 11/30, 12/12, 1/10, 1/30, 2/28 参加学生 22名</p> <p>③海外文化体験の開催 1/27 インド文化体験（サリーパーティ）※大雪のため開催中止 申込学生 10名</p>	3
	II-1-45	大学施設の効率的・効果的な運用・管理を図り、本学の運営に支障のない範囲で大学施設の市民利用を推進する。	財務課	<p>「こまつ市民大学」、「英会話カフェ」の実施など本学の運営に支障のない範囲で大学施設の貸付を行った。※【II-1-45】再掲</p> <p>【施設貸付の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栗津キャンパス 年間使用：171件（うち169件は運動場利用） 随時使用：1件（北陸地域流体工学研究会生産歌野原先生所属学会） ・中央キャンパス 年間使用：56件（全てこまつ市民大学） ・末広キャンパス 0件 <p>総計 227件 （年度計画目標値 25件）</p>	3

2 研究に関する目標

(1) オリジナルな研究の推進

中期目標	南加賀の研究拠点として、特色ある基礎研究、応用研究、学際研究、分野融合型研究に取り組み、発明・発見と新たな学術分野の開拓に努めるとともに、成果を世界に発信する。併せて、地域が抱える課題解決や住みよさ向上等のニーズに応じた研究を組織的に推進する。				
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
2 研究に関する目標を達成するための措置 - (1) オリジナルな研究の推進					
①南加賀の研究拠点として、特色ある基礎研究、応用研究に取組、発明・発見と新たな学術分野の開拓に努めるとともに、成果を世界に発信する。	II-2-1	学部学科、研究科専攻の研究内容や研究計画を踏まえ、研究機器の整備、各種規程やガイドラインの制定、研修の実施及び研究に関する審査委員会の開催等、ソフト・ハードの両面における研究環境の向上に努める。研究活動の活発化に伴い、安全な研究環境を実現するため、規程等遵守に努める。	研究・社会連携委員会	<p>[研修]</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本学術振興会研究倫理eラーニングの実施 対象：新規採用教員18名 実施期間：5/20～6/30 受講後、競争的研究費等の管理に係る誓約書の提出を求め、18名全員からの提出を確認した。 (研究倫理eラーニングの実施は3年に1回定期的に実施) <p>[各種規程・ガイドラインの制定]</p> <ul style="list-style-type: none"> 薬品管理関連マニュアルの改訂・制定 有機溶剤、特定化学物質の使用に関する学内のルールを整備 改定：薬品管理マニュアル、毒劇物管理マニュアル 制定：特定化学物質管理マニュアル、有機溶剤管理マニュアル <p>※参考</p> <ul style="list-style-type: none"> 有機溶剤中毒予防規則一部適用除外申請の認定（末広12月～、粟津1月～） 薬品管理に関する対応を協議し、R5年度より以下の調査等を実施することとした。 <ul style="list-style-type: none"> 所持薬品の調査（4月） 作業環境測定の実施（9月、3月） 特殊健康診断等の実施（9月、3月）等 公的研究費の適正な運営及び管理に関する規則等の見直し 昨年度に引き続き「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（文科省）」に則り、規程・体制等について見直し、規程等については再度公的研究費を取り扱う教職員へ周知した。 <p>[各種委員会]</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究・社会連携委員会の開催 定例会議：毎月第1水曜日16:00～ 令和4年度開催実績 11回 審査委員会 審査委員会の開催 <ul style="list-style-type: none"> 人を対象とする医学系研究倫理審査委員会：4回 動物実験審査委員会：6回 審査実績 <ul style="list-style-type: none"> 人を対象とする医学系研究倫理審査：23件 利益相反審査：0件 遺伝子組み換え実験審査：0件（該当なし） 動物実験審査：7件 	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-2-2	<p>重点研究「みらい」・「つよみ」の助成等により、本学ならではの独創的で特色ある（共同）研究を支援する。</p> <p>「研究発展・向上費」等の活用により、各学部学科が特色ある研究の支援を図る。</p>	<p>研究・社会連携委員会</p>	<p>「重点研究「つよみ」」【新規】</p> <p>特色ある独創的研究を支援する「公立小松大学重点研究『みらい』」の予算規模を拡大し、分野横断型の研究であること、複数人の研究グループであることを要件に加えた「公立小松大学重点研究『つよみ』」を新設した。本事業では、本学ならではの「つよみ」の候補となる研究の支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究期間：2年間 助成金額：総額300万円～500万円 支援概要 <ul style="list-style-type: none"> 支援金額：1研究計画につき総額300万円～500万円 研究期間：2年間 採択件数：新規 1件程度/年 令和4年度採択研究 <ul style="list-style-type: none"> 研究グループ： <ul style="list-style-type: none"> 生産 粕谷准教授（研究代表者） 臨床 平山教授 東北大学 火原教授（学外研究者） 研究課題： <ul style="list-style-type: none"> 「マイクロ化学分析システムを用いたゼブラフィッシュの光応答解析と創薬技術への展開」 <p>[重点研究「みらい」]</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度採択研究（研究期間：令和3年度～令和4年度/助成金額：50万円 以内/年） <ul style="list-style-type: none"> 看護 片山講師 「ストレングスマデルを活用した教育効果と関連する波及効果」 生産 坂本助教 「WebデータとSNSの投稿を用いて自動生成した文章を活用したユーザの属性推定に関する研究」 臨床 鈴木助教 「採血不要なポータブル血液多成分計測システムの開発」 国際 朝倉准教授 「自然環境と文化の結びつきに関する研究 ～小松市内の里山をフィールドとして～」 <p>○11/24 公立小松大学重点研究「みらい」研究成果報告会実施（11月Salon de Kにおいて） 報告者：重点研究「みらい」令和2年度採択者 <ul style="list-style-type: none"> 生産 史准教授「振動問題におけるハードルアーの形状最適設計に関する研究」 国際 千葉准教授「北陸地域における現代中東・イスラームの研究・情報発信拠点の形成」 オンラインにて約40名参加</p> <p>[研究発展・向上費]</p> <p>各学科の裁量で使用することができる研究助成金（上限50万円/学科）として設定し、個別研究テーマについて支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学科研究テーマ <ul style="list-style-type: none"> 生産システム科学科 史金星准教授 <ul style="list-style-type: none"> 「動的振動問題における異種材料複合構造体の形状最適設計」 看護学科 山田貴代講師 <ul style="list-style-type: none"> 「石川県における産後ケア事業の実態と課題」 相上律子助教 臨床工学科 仲田浩規教授 <ul style="list-style-type: none"> 「生殖細胞の三次元構造の解明」 国際文化交流学科 鍾以江教授 <ul style="list-style-type: none"> 「地域の重層性をめぐる基礎研究——新たな「北陸」像の模索」 国際文化交流学科 清剛治准教授 <ul style="list-style-type: none"> 「南加賀地域企業の東アジアへの事業展開とイノベーション創出に関する基礎的調査・研究」 	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-2-3	複合・融合領域の研究を誘起するため、学部横断型の研究会を定期的に開催し、大学院生を含めた研究者交流を図る。	研究・社会連携委員会、研究科	<p>学内交流会「Salon de K」は、令和3年度より事務局主体の運営から方針を変更し、各学科から教員2名を運営部会員として任命し、運営部会を組織して運営を行った。参加者は全教員を対象とし、月1回程度の定期開催とした。</p> <p>[開催実績]</p> <p>7/19 リメリック大学（アイルランド）マイケル・ヴィニッキー教授 「Natural convection in porous slabs with permeable x boundaries」</p> <p>9/8 臨床交流学科 藤田准教授 「量子計算と量子機械学習」</p> <p>9/22 看護学科小田助教 「血糖－睡眠同時モニタリング」</p> <p>10/27 国際文化交流学科 橋本准教授 「対音資料による唐代音韻史の研究」</p> <p>11/24 令和2年度採択公立小松大学重点研究「みらい」研究成果報告会 生産システム科学科 史准教授 「振動問題におけるハードルアーの形状最適設計に関する研究」 国際文化交流学科 千葉准教授 「北陸地域における現代中東・イスラームの研究・情報発信拠点の形成」 オンラインにて約40名参加</p> <p>12/2 生産システム科学科 村山教授 「情報の物理学」</p> <p>1/18 看護学科 塚谷助教 「日本の生活習慣病予防対策の現状と小松市の特定健診データの分析」</p> <p>2/28 臨床工学科 橋本教授 「ブレイン・マシン・インタフェース技術の概要と共同研究事例」</p> <p>3/29 国際文化交流学科 鍾教授、西島講師 「新たな北陸像を求めて」</p> <p>開催回数合計：8回（令和3年度開催回数：11回）</p>	3
	II-2-4	論文・著書の発表や国際シンポジウム等での発表を奨励するとともに、IRの一環としてこれらの実績の把握・とりまとめを行う。	研究・社会連携委員会	<p>上半期、下半期の年2回、教員の研究業績の取りまとめを行った。令和4年度はいずれの項目においても中期計画の目標値を上回り、過去最高の数値となった。特に共同研究・受託研究数は開学以降初の目標値達成となった。</p> <p>[研究関連業績]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学会報告 : 204件（完成年度目標値：100件） R3年度：146件 ・学術論文 : 117編（完成年度目標値：70編） R3年度：117編（うち外国語論文：87編（完成年度目標値：30編） R3年度：84編） ・著書 : 19編（完成年度目標値：5編） R3年度：13編 ・共同研究・受託研究数：14件（完成年度目標値：10件） R2年度：6件 	3

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-2-5	研究活動を広く市民に還元するため、市民公開フォーラムを開催する。	研究・社会連携委員会	<p>地域連携による持続可能な未来の創造に向けた取組の発信から、身近な課題として持続可能な社会を展望し、より良い未来について考察することを目的に、市民公開フォーラムを下記のとおり開催した。</p> <p>市民公開フォーラム：「地域連携によりサステナビリティを世界に発信」 (公立小松大学を支える会共催) 日時：11月19日(土) 14時30分～16時30分 場所：こまつ芸術劇場うらら 講演：総合地球環境学研究所 准教授 近藤 康久氏 「オープンチームサイエンス：ひらいた協創にもとづく学術研究の方法論とサステナビリティ」 公立小松大学大学院 サステイナブルシステム科学研究科 教授 高山 純一 「持続可能な地域公共交通を考える～いま、中山間過疎地域が大変！～」</p> <p>研修報告： 産学合同シリコンバレー研修報告 (株)小松製作所 青山 裕貴氏 小松電子(株) 二木 孝 氏 藤井空調工業(株) 藤井 歳正 氏 「SDGs (ジェンダー平等、産業と技術革新、クリーンエネルギー) の実現を目指して」</p> <p>来場者：100名</p>	4
	II-2-6	研究活動や成果をホームページや広報誌、プレスリリースを通じて発信する。	広報室、総務課	<p>ホームページや大学案内冊子での研究者紹介のページの更新、シーズ集の発行、広報誌Tachyonでの研究者紹介など、本学の研究力を広く地域に発信する新たな取組を行った。</p> <p>[ホームページ・大学案内] 研究者一覧ページの更新(日本語版・英語版)</p> <p>[研究業績のホームページへの随時掲載] 6/1 酒井教授(生産) 公益社団法人日本設計工学会優秀発表賞受賞 6/17 仲田教授(臨床) 共著論文が専門誌「Reproduction」に掲載 7/28 香川教授(生産) 人工降雪装置の開発に成功 10/12 史准教授(生産) 日本機械学会設計工学・システム部門「フロンティア業績表彰」受賞 10/13 歌野原教授(生産) 日本混相流学会2021年度学会賞「技術賞」受賞 10/21 藤田准教授(臨床) 単著論文が情報科学の専門誌に掲載 11/15 長辻准教授(国際) 「2022年度日本英語学会賞(著書)」受賞 11/15 酒井教授(生産) 日本機械学会「技術功績賞」受賞 1/18 塩谷マクスダ教授(国際) 「ブラヴァン・バラティヤ・サマン賞」受賞 3/30 岩田教授(生産) 日本機械学会北陸信越支部賞「優秀講演賞」受賞</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				<p>[研究シリーズ集・研究者要覧2021] 本学研究者のシリーズを掲載した研究シリーズ集を毎年度改定し、発行。 6月 2,000部 改訂発行（協力企業、高校等へ発送）</p> <p>[広報紙Tachyonでの研究者紹介] 9号 岩橋正國教授（臨床工学科） 10号 橋本貴子准教授（国際文化交流学科）</p> <p>[広報紙Tachyon Academia] 広報誌Tachyonの研究版として本学研究者の研究をより詳しく紹介。 2号 歌野原教授（生産システム科学） 「エネルギー産業へ貢献する流体力学工学研究」 松井優子教授（看護学科） 「“がんサバイバー”が抱える皮膚の問題を解決するシステム開発研究」 西村聡教授（国際文化交流学科） 「公立小松大学本『勸進帳』で読み解く明治12年、芸能誌の画期」</p> <p>[YouTubeの活用] ・ラジオこまつ広報番組「世界に向かって飛び立て！公立小松大学」 出演者写真付き音声データを大学のYouTubeチャンネルにアップ ※ラジオこまつでの放送後随時追加 公開動画数：12本 内訳：坂本助教（生産）・生産システム科学専攻大学院生・生産システム科学科学生・歌野原教授（生産）・青松祭 実行委員・岩田教授（生産）・松井教授（看護）・看護学科学生・北浦教授（臨床）・平山教授（臨床）・ヘルスケア システム科学専攻大学院生・国際文化交流学科学生・朝倉准教授（国際）・グローバル文化化学専攻大学院生</p>	

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
②地域が抱える問題解決等に資する研究を推進する。	II-2-7	個々の教員の研究課題及び卒業研究、修了研究を通して、地域が抱える産業、医療、国際上の問題等発見・解決に向けた研究の醸成を図る。	研究・社会連携委員会、地域連携推進センター	<p>【※II-2-2一部再掲】</p> <p>「重点研究「つよみ」」【新規】</p> <p>特色ある独創的研究を支援する「公立小松大学重点研究『みらい』」の予算規模を拡大し、分野横断型の研究であること、複数人の研究グループであることを要件に加えた「公立小松大学重点研究『つよみ』」を新設した。本事業では、本学ならではの「つよみ」の候補となる研究の支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究期間：2年間 助成金額：総額300万円～500万円 <p>支援概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援金額：1研究計画につき総額300万円～500万円 研究期間：2年間 採択件数：新規 1件程度/年 <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度採択研究 <p>研究グループ：</p> <ul style="list-style-type: none"> 生産 粕谷准教授（研究代表者） 臨床 平山教授 東北大学 火原教授（学外研究者） <p>研究課題：</p> <p>「マイクロ化学分析システムを用いたゼブラフィッシュの光応答解析と創薬技術への展開」</p> <p>【重点研究「みらい」】</p> <p>○令和3年度採択研究（研究期間：令和3年度～令和4年度/助成金額：50万円 以内/年）</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護 片山講師 「ストレングスマデルを活用した教育効果と関連する波及効果」 生産 坂本助教 「WebデータとSNSの投稿を用いて自動生成した文章を活用したユーザの属性推定に関する研究」 臨床 鈴木助教 「採血不要なポータブル血液多成分計測システムの開発」 国際 朝倉准教授 「自然環境と文化の結びつきに関する研究 ～小松市内の里山をフィールドとして～」 <p>【共同研究・受託研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> 共同研究実施件数 11件（うち南加賀の企業・団体2件） 受託研究実施件数 3件（うち南加賀の企業・団体3件） 	3

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				<p>[サイエンスヒルズこまつとの連携]</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学紹介展示を更新 学部紹介、研究者紹介など <ul style="list-style-type: none"> 生産システム科学科：岩田教授、村山教授 看護学科：相上助教 臨床工学科：橋本教授 「自由研究相談」 <ul style="list-style-type: none"> 8/20 (土) 篠原教授 (生産) 8/21 (日) 鈴木助教 (臨床)、島内准教授 (国際) 「夏休み体験教室」 <ul style="list-style-type: none"> 7/26 (火) 木村准教授 (国際) 8/13 (土) 李教授 (臨床) 8/16 (火) 梶原准教授 (生産) 「サイエンス・フェスタ2022」 <ul style="list-style-type: none"> 12/11 (日) 池田准教授 (生産) <p>[シーズ・ニューズマッチングシンポジウム] 【※Ⅱ-1-41】 12月10日 (土) 13時30分～16時30分 中央キャンパス3階 参加者：約50人</p> <p><発表></p> <p>講演①「常識を覆す切削工具の開発」 (株)ギケン 代表取締役社長 石川 義一 氏</p> <p>講演②「脳と機械をつなぐリハビリ機器・ コミュニケーション支援機器の開発」 保健医療学部臨床工学科 橋本 泰成 教授</p> <p>ポスター発表</p> <ul style="list-style-type: none"> 保健医療学部 <ul style="list-style-type: none"> 中田明恵教授、上田映美助教、小田梓助教、鈴木郁斗助教 国際文化交流学 <ul style="list-style-type: none"> (株)ギケン代表取締役社長石川義一氏、地域未来創生機構代表理事中黒茂司氏、清剛治准教授 生産システム科学部 <ul style="list-style-type: none"> 岩田佳雄教授、歌野原陽一教授(発表：B4 岩田 健太郎)、史金星准教授(発表：M1 山田 陸人)、 足津正利准教授(発表：M1 阿部羅 大稀)、上野祐亮助教(発表：M1 野口 弘希)、粕谷素洋准教授、 朴亨原准教授(発表：M1 石高 寛土)、山下幸三准教授(発表：B4 御館 一大、B4 堀 友哉)、 村山立人教授、梶原祐輔准教授、坂本一磨助教(発表：M1 岩田 伊織) <p>※B4=学部4年生 M1=大学院1年生</p>	

(2) 共同研究

中期目標		地域における「知の源泉」として研究を活性化させ、地域とともに発展していくため、他大学、企業等と共同研究や受託研究等の産官学連携を推進する。			
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
2 研究に関する目標を達成するための措置 — (2) 共同研究					
地域における「知の源泉」としての役割を果たすため、他大学、企業等と共同研究や受託研究等の産官学連携を推進する。	II-2-8	近隣自治体や民間企業等とのネットワークを強化し、共同研究、受託研究の推進に努める。	研究・社会連携委員会、地域連携推進センター	<p>研究関連イベントへの出展、産官学連携担当特任教授（4名）による北陸3県を中心とした企業訪問により、大学と企業や各種団体との関係構築を推進している。また、地域連携推進センターページに技術相談問い合わせフォームにおいて地元企業等からの相談受付体制を整備している。</p> <p>[産官学連携担当特任教授] 4名配置 ・訪問活動実績（協力企業の依頼等） 165件（オンライン含む） ・共同研究獲得実績 1件</p> <p>[企業等との連携協力体制] ・協力企業等 375件 ※R3年度：338件 内訳 石川県：225、福井県：69、富山県：61、その他：18、海外：2</p> <p>[協力企業への情報発信] ・6月 産学合同シリコンバレー研修案内（メール） ・7月 研究シーズ集2022、大学案内2023発送 ・9月 Tachyon9号、Tachyon Academia2号発送（今年度より卒業生にも発送） ・10月 市民公開フォーラムチラシ発送（メール） ・3月 令和5年度産官学合同シリコンバレー研修案内（郵送）</p> <p>[共同研究・受託研究] ・共同研究 : 11件 ※R3年度:5件 ・受託研究 : 3件 ※R3年度:1件 (完成年度目標値：合計10件)</p>	4
	II-2-9	本学の研究シーズを外部に継続的に発信するとともに、他大学、企業や各種団体、自治体等との各種プロジェクト活動を推進する。若手教員の萌芽的研究や学生の卒業研究からの共同研究やシーズ育成の可能性を追求する。	研究・社会連携委員会、地域連携推進センター	<p>「シーズ・ニーズマッチングシンポジウム」の開催などにより、本学の研究力の発信を行うとともに、地域課題解決に向けた連携協力体制の構築を推進した。また、産官学連携イベントへの出展や広報媒体による発信も積極的に行い、研究シーズの発信や地域連携推進センターの活動をPRした。</p> <p>[研究シーズの発信] ●シーズ・ニーズマッチングシンポジウムの開催 12/10（土）13時30分～16時30分 参加者：約50名 各学科の地域連携の取り組みや研究シーズを発表 ※詳細は、II-1-41参照</p> <p>●研究シーズ集・研究者要覧2022 ※毎年度更新予定 6月 2,000部 改訂発行 協力企業、高校等への発送</p> <p>●広報誌Tachyon Academia 9月 2号 3,500部発行 協力企業、高校等への発送 歌野原教授（生産）、松井教授（看護）、西村教授（国際）の紹介</p> <p>●広報誌Tachyon 9月 9号 4,000部発行 研究者紹介：岩橋正國教授（臨床工学科） 3月 10号 4,000部発行 研究者紹介：橋本貴子准教授（国際文化交流学科）</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				<p>[産学官連携イベントへの出展]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●北陸技術交流テクノフェア 10/20(木)・21(金) 福井産業会館 出展：野川雅道准教授(臨床工学科) 鈴木郁斗助教(臨床工学科) ●e-messe kanazawa 5/13(金)・14(土) 石川産業展示館 出典：上田芳弘教授(生産システム科学科) ●Matching HUB Hokuriku 11/17(木)・18(金) ANAクラウンプラザホテル金沢 出展：井澤純子講師(臨床工学科) <p>[サイエンスヒルズこまつとの連携]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大学紹介展示を更新 学部紹介、研究者紹介など <ul style="list-style-type: none"> ・生産システム科学科：岩田教授、村山教授 ・看護学科：相上助教 ・臨床工学科：橋本教授 ●「自由研究相談」 <ul style="list-style-type: none"> ・8/20(土) 篠原教授(生産) ・8/21(日) 鈴木助教(臨床)、島内准教授(国際) ●「夏休み体験教室」 <ul style="list-style-type: none"> ・7/26(火) 木村准教授(国際) ・8/13(土) 李教授(臨床) ・8/16(火) 梶原准教授(生産) ●「サイエンス・フェスタ2022」 <ul style="list-style-type: none"> ・12/11(日) 池田准教授(生産) 	

(3) 外部資金

中期目標		研究を充実・発展させるため、科学研究費補助金等の外部資金の獲得に向けた組織的な取組みを推進し、自己財源確保に努める。			
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
2 研究に関する目標を達成するための措置 — (3) 外部資金					
科学研究費補助金等の外部資金の獲得に向けた組織的な取組を推進し、自己財源確保に資する。	II-2-10	科学研究費補助金等の外部資金獲得に向け、情報収集やFD研修会の開催を通じて、申請及び採択の拡大に努める。各種財団の研究助成、産学官連携に関わる助成情報などを随時学内ネットワークに掲載し、各教員の外部資金獲得支援に供する。	研究・社会連携委員会、財務課	<p>研究助成や産学官連携に関する情報を学内において一元管理・発信するため、Microsoft365 sharepointを活用し、情報公開用のサイトを公開し、随時掲載情報の拡張を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直近90日のアクセス状況 人気ページ閲覧数：8回 1日の最高アクセス回数：32回 <p>また、研究・社会連携委員会の定例会議において月ごとの助成金獲得状況（科研費含む）や、各学科の委員の報告による特筆すべき研究業績（受賞等）を共有している。</p> <p>[科研費実績]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規 13件（新学術領域 1件、基盤C 9件、若手 1件、特別研究員奨励費 2件） ※令和3年度 15件 ・継続 33件（基盤B 3件、基盤C 22件、若手 7件、挑戦的（萌芽）1件） ※令和3年度 29件 計 46件（完成年度以降目標値 15件） ※令和3年度 計44件 ・新規採択率 32.26%（10/31） <p>[科研費応募実績]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R5年度科研費事業（10月5日締切） 34件 <p>[その他外部資金の実績]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助成金 新規 15件（生産 7件、看護 2件、臨床 6件） 継続 5件（生産 1件、臨床 4件） 計 20件 ・奨学寄附金 新規 4件（生産 4件）、 移管分1件（臨床 1件） 継続 1件（生産 1件） （完成年度以降目標値 5件） <p>[共同研究・受託研究の実績]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同研究 11件（生産10件、臨床 1件） ・受託研究 3件（生産 3件） ※このほか、応募型受託研究 生産1件、臨床1件あり （完成年度以降目標値 10件） 	4

3 国際交流に関する目標

(1) 海外大学等との交流

中期目標		協定締結校を開拓するとともに、海外大学等との教職員・学生交流、国際共同研究、シンポジウム・セミナー開催等を推進する。これにより、公立小松大学独自の国際的な教育研究シーズの育成を図る。			
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
3 国際交流に関する目標を達成するための措置 — (1) 海外大学等との交流					
①公立小松大学独自の国際的な教育研究シーズの育成を図るため、協定締結校を開拓する。 ②公立小松大学独自の国際的な教育研究シーズの育成を図るため、海外大学等との職員・学生交流、国際共同研究、シンポジウム・セミナー開催等を推進する。	II-3-1	引き続き、海外大学等との交流協定締結を拡大するとともに、学生交流をはじめとした協定校等との交流活動を展開する。	国際交流センター	<p>新たに国際機関等との協定を2件締結し、協定は累計18件（大学間：10件、部局間：5件、その他：3件）となった。また、長期交換留学は9人派遣、12人受入を行った。</p> <p>[新たな協定の締結] ○その他（国際機関等） ・グアテマラ グアテマラ共和国文化スポーツ省文化自然遺産副省（2022/7/1） ・ホンジュラス ホンジュラス国立文化人類学歴史学研究所（2022/7/8）</p> <p>[新たな海外オフィスの設置] ・グアテマラ ティカルリエゾンオフィス ・ホンジュラス コパンリエゾンオフィス</p> <p>[交換留学、短期留学実績] ○長期留学 派遣 9人 ・マレーシア トウンクアブドゥルラーマン大学（2022/5～2022/10） 1人 ・中国 東南大学（2022/8～2023/3） 1人 ・台湾 建国科技大学（2022/9～2023/3） 2人 国立中央大学（2022/9～2023/3） 4人 ・韓国 湖西大学校（2022/8～2023/8） 1人</p> <p>○長期留学 受入 12人 ・中国 常州大学（2022/10～2023/8） 2人 東南大学（2022/10～2023/3） 2人 ・台湾 建国科技大学（2022/4～2022/8） 5人 建国科技大学（2022/10～2023/3） 1人 建国科技大学（2022/10～2023/8） 1人 ・米国 オースティン・ピー州立大学（2022/8～2023/3） 1人 ※大学院生</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				<p>○短期留学 派遣55人（うちオンライン15人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米国 ウェスタンワシントン大学 (2022/8/1～2022/8/16) 7人 ・ニュージーランド オークランド大学English Language Academy 英語研修 (2023/2/13～2023/3/10) 11人 ・マレーシア トゥンクアブドゥルラーマン大学異文化体験実習 (2023/3/4～2023/3/16) 6人 ・台湾 建国科技大学中国語研修 (2023/2/28～2023/3/16) ・米国 オースティン・ピー州立大学英語研修 (2023/3/13～2023/3/28) 5人 ・中国 東南大学中国語研修 (オンライン開催) (2022/8/29～2022/9/2) 15人 <p>[その他交流活動実績]</p> <p>○留学生との交流 3件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022/10/18 留学生歓迎会 12人 ・2023/1/13 留学生と行く！初詣ツアー 13人 ・2023/2/7 留学生さよならパーティ 15人 <p>交換留学（派遣）を対象とした公立小松大学留学支援奨学金制度を実施した。</p> <p>[公立小松大学留学支援奨学金支給実績]</p> <ul style="list-style-type: none"> 建国科技大学（台湾） 留学生2人 湖西大学校（韓国） 留学生1人 東南大学（中国） 留学生1人 ラーマン大学（マレーシア） 留学生1人 	

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-3-2	交換留学生や短期研修プログラム参加者の受入にあたり、新型コロナウイルス感染症に係る各種規制制度の変更等を注視し、派遣大学との連絡など、担当教員と国際交流センターが連携してあたる。小松市国際交流協会や行政等と連携する。	国際交流センター	<p>交換留学生12人に対し、指導教員は受入開始時および終了時に面談を行った。また、チューター学生が市役所等での手続きや日常生活の支援などを実施した。</p> <p>[協定校への訪問実績] 協定校担当教員が現地を訪問。今後の交流計画等の打ち合わせを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マレーシア トゥンクアブドゥルラーマン大学 (2022/9/10～2022/9/16) 鍾以江教授 (国際文化交流学部) ・米国 オースティン・ピー州立大学 (2022/9/24～2022/9/30) 小原文衛教授 (国際文化交流学部) ・韓国 湖西大学校 (2023/3/18～2023/3/22) 李鍾昊教授 (保健医療学部臨床工学科)、島内俊彦准教授 (国際文化交流学部) <p>[協定校からの訪問実績] 協定校から国際交流担当者等が本学を訪問。今後の交流計画等の打ち合わせを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米国 オースティン・ピー州立大学 (2022/6/13) 広野達教授 (社会福祉学科) ・韓国 湖西大学校 (2022/8/6、2023/1/20) 金居修省助教授 (芸術学部 文化企画学科) ・ホンジュラス ホンジュラス国立人類学歴史学研究所 (2022/10/28) ロランド・カニサレス所長 ・米国 オースティン・ピー州立大学 (2022/12/13) デイビット・ランズ教授、マリッサ・チャンドラー教授 ・ホンジュラス ホンジュラス国立人類学歴史学研究所 (2023/3/7) オマール・タラベラ副所長 ・タイ モンクット王立工科大学トンブリー校 (2023/3/22) 産業教育技術学部長等3人 ・タイ ナレスワン大学 (2023/3/31) ナレスワン学部長等9人 	4
	II-3-3	外国人留学生のための日本語教育体制の充実を図る。	国際交流センター	<p>交換留学生に対し、日本語授業（座学）を週1回、日本文化体験に関する授業を隔週で実施した。</p> <p>[日本語コンテストへの参加] ・小松市国際交流協会主催日本語スピーチコンテスト (2023/1/22) 交換留学生3人出場、うち2人入賞 ・石川県日本語スピーチコンテスト (2023/2/18) 交換留学生2人が出場、うち1人入賞</p>	4
	II-3-4	国際シンポジウムの開催や国際共同研究に向け、協定校等との学術交流を推進する。	研究・社会連携委員会、国際交流センター	<ul style="list-style-type: none"> ・2022/11/29～2022/12/27 保健医療学部によるJICA青年研修事業 2022年度JICA青年研修事業に保健医療学部看護学科が採択され、オンラインにて英語圏アフリカ諸国の医療従事者(20歳～35歳程度)を対象とした研修を実施した。 <p>本学側参加教員：9人 (保健医療学部) JICA研修員：11人</p>	4

(2) 地域における国際貢献

中期目標		「国際都市こまつ」の一層の推進に資するため、地域の国際活動や国際関連課題解決に協力し、地域と世界の懸け橋としての役割を果たす。			
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
3 国際交流に関する目標を達成するための措置 — (2) 地域における国際貢献					
地域と世界の懸け橋として、「国際都市こまつ」の発展に貢献するため、国際活動や国際関連課題解決への支援・協力をを行う。	II-3-5	地域の多文化理解や国際化に資する取組を行う。	地域連携推進センター、国際交流センター	<p>小松市や小松市国際交流協会等と連携し、英会話カフェを実施することで語学力を向上させるとともに小松市在住の外国人と交流を深めた。また、「こまつ市民大学」にて多文化理解に係る講座を実施するなど、多様な取組により「国際都市こまつ」の発展に貢献した。</p> <p>[国際化・多文化理解の促進に向けた取組、連携実績]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「英会話カフェ」の開催 小松市国際交流員やALT等と、グループに分かれてフリートークを実施。市内高校生や社会人、本学学生などが参加した。 <p>[開催実績]</p> <p>4/9, 4/21, 5/30, 6/14, 6/27, 7/14, 7/26, 8/30, 9/15, 9/27, 10/31, 11/17, 11/30, 12/12, 1/10, 1/30, 2/28 合計：17回開催 参加学生：22人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こまつ市民大学での講座開講 [多文化理解に係る講座] 「世界遺産検定チャレンジ講座」(全11回) 受講者：6名 「ビジネス・時事英語読解力講座」(全10回) 受講者：22名 	4

III 地域貢献に関する目標

1 地域貢献のための体制構築と地域との連携活動の推進

中期目標	教育研究成果及び大学がもつ知的資源の社会への還元を果たし、もってまちの活力と未来を創生するため、地域の企業・医療・福祉施設、教育機関等との多様な連携を構築し、ものづくり、健康福祉、教育、文化、観光等の領域における地域との連携活動を推進する。
------	--

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
------	----	------	------	-------	------

1 地域貢献のための体制構築と地域との連携活動の推進

① 地域の企業、医療・福祉施設、教育機関等との多様な連携を構築する。 ② ものづくり、健康福祉、教育、文化、観光等の領域における地域との連携を推進する。	III-1-1	自治体や地域の各種団体等からの要請に応じて、各種審議会や委員会の委員やアドバイザーとして積極的に参画し、各委員の専門性を社会へ発信する。	地域連携推進センター	<p>小松市等が設置する各種委員会等の委員として専門的知識を有する教員を派遣した。</p> <p>113件（小松市：20件 その他：93件） ※令和3年度 39件（小松市：19件、その他：20件）</p> <p>[派遣した委員会]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空とこども絵本館活動推進実行委員会 ・小松市未来型図書館基本構想策定委員会 ・令和5年度「広報こまつ」印刷製本業務プロポーザル審査会 ・小松市文化財保存活用地域計画策定協議会 ・小松市都市計画審議会 <p style="text-align: right;">など</p>	4
	III-1-2	<p>【II-1-33】再掲</p> <p>協力企業・機関・施設・団体等を幅広く募り、教育・研究・社会連携・大学運営にかかると、多様な連携協力のための体制を拡大する。</p>	地域連携推進センター	<p>生産システム科学科では、3年次必修科目「学外技術体験実習」において、受講者計73人が近隣の34企業で1週間の実習を体験した。</p> <p>看護学科においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、臨地実習ができない期間が発生したが、迅速かつ柔軟に学内実習へと切り替えることができた。教育課程のコアとなる実習を、学内実習を交えることで途切れることなく完了することができ、実習目標を達成することができた。</p> <p>臨床工学科においては、コロナ禍の病院実習で各実習施設により制約があったが、5月に1施設・6月に3施設・7月に3施設・8月に5施設で病院実習を行った。地域では石川県6施設、福井県4施設、富山県2施設である。一部学生の臨床実習に関連する宿泊費が高額となったことから、小松市内または近隣の医療施設の実習先を増やす。</p> <p>国際文化交流学科においては、地域実習(5課題)、インターンシップともに提携先、受け入れ企業との連携は順調に進んだ。地域実習では、2022年8月の大雨による被害により一部実習の変更が余儀なくされたが、災害ボランティアへの切り替えや、小松市の協力により新設予定の図書館準備ワークショップへの参加など、さまざまな活動を実習に取り組むことができた。インターンシップは地元企業等からの協力を受けることができ、参加学生の半数近くが地元企業等で実施することができた。</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	III-1-3	大学紹介や教育研究成果を地域に還元するため、各種媒体を通じて情報発信を積極的に行う。	広報室	<p>各種媒体を活用して以下のとおり情報発信を行った。</p> <p>[各種媒体を活用した大学及び研究者紹介]</p> <p>①大学案内2023の発行 2022年6月 10,000部発行 令和4年度着任教員追加・更新、卒業後の新略及び国家試験高確率を追記</p> <p>②英語版大学案内の更新 令和4年度着任教員追加・更新など、大学院及びキャンパスライフを追記</p> <p>③ホームページの運用 令和4年度着任教員追加・更新 新型コロナウイルス関連情報の更新（継続） その他、各種情報のアップ及び随時更新</p> <p>④英語版ホームページの運用 大学院ページを追加</p> <p>⑤広報誌「Tachyon」「Tachyon Academia」の発行</p> <ul style="list-style-type: none"> ●Tachyon 2022年9月 第9号 3,500部発行 教員紹介：岩橋教授（臨床工学科） 2023年3月 第10号 3,500部発行 教員紹介：橋本准教授（国際文化交流学科） ●Tachyon Academia 2022年9月 第2号 3,500部発行 研究紹介：歌野原教授（生産システム科学科）、松井教授（看護学科）、西村教授（国際文化交流学科） <p>⑥ラジオ広報番組での発信（放送日・出演者） 9/3・10 坂本助教、大学院生、生産4年生 9/17・24 歌野原教授、生産4年生 10/1・8・15 青松祭実行委員 10/17～21 青松祭告知 10/22・29 岩田教授、大学院生（生産システム） 11/5・12 松井教授（看護） 11/14～18 市民公開フォーラム告知 11/19・26 看護1年生 12/3・10 北浦教授（臨床） 12/5～9 シーズ・ニーズマッチングシンポジウム告知 12/17・24・31 臨床3年生 1/7・14 平山教授、大学院生（ヘルスケア） 1/21・28 国際3年生 2/4・11 朝倉准教授（国際） 2/18・25 大学院生（グローバル）</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				<p>⑦動画の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月～ラジオこまつの広報番組「世界に向かって飛び立て!公立小松大学」の音声データをYouTubeチャンネルに公開 ・受験生(高校生)に公立小松大学に入学した4年後の未来をイメージしてもらえるようなショート動画を制作 <p>公開動画数: 4本</p> <p>⑧SNSの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 8月 広報室学生委員インスタグラムの開設 10/17 アカウント開設紹介 10/20 助成券使える店に行ってみたvol.1(町家食堂はるお) 10/22 青松祭ストーリーズ投稿 11/17 学内クリスマスツリーストーリーズ投稿 11/18 那谷寺ストーリーズ投稿 11/30 小松映えスポットvol.1(那谷寺) 12/26 小松映えスポットvol.2(駅前プロジェクションマッピング) <p>[その他]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北國新聞 10/21 ジャパンテント協賛(青松祭告知広告) ・広報こまつ(市広報紙)掲載 8月号 大学職員募集、10月号 青松祭告知 	
	III-1-4	<p>本学の研究シーズを外部に継続的に発信するとともに、他大学、企業や各種団体、自治体等との各種プロジェクト活動を推進する。</p>	<p>研究・社会連携委員会、地域連携推進センター</p>	<p>(1)サイエンスヒルズこまつとの連携(企画、展示)【再掲II-1-40】</p> <p>①体験教室 開催協力</p> <p>「自由研究相談」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8/20(土) 篠原教授(生産) ・8/21(日) 鈴木助教(臨床)、島内准教授(国際) <p>「夏休み体験教室」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7/26(火) 木村准教授(国際) ・8/13(土) 李教授(臨床) ・8/16(火) 梶原准教授(生産) <p>「サイエンス・フェスタ2022」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12/11(日) 池田准教授(生産) <p>②展示替えに伴う新規展示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産: 岩田教授、村山教授 ・看護: 相上助教 ・臨床: 橋本教授 <p>(2)特別講座「グローバル人材と持続的開発プロジェクト」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産学合同シリコンバレー研修の事前学習として、学生を中心に問題分析及び解決方法のスキルの向上を目的に、国際交流センターの岸本特任教授及び榎本特任教授による特別講座(全8回)を行った。終盤では企業参加者も参加し、産学合同シリコンバレー研修に向けたワークショップを行った。 <p>(3)産学合同シリコンバレー研修</p> <p>期 間: 9/11～9/17(5泊7日)</p> <p>場 所: シリコンバレーオフィス(アメリカ カリフォルニア州)</p> <p>参加者: 学生11名、企業参加者4名(現地企業含む)、随任教職員4名</p> <p>3年ぶりに本学のシリコンバレーオフィス(アメリカ カリフォルニア州)に学生と地域の社会人を派遣する「産学合同シリコンバレー研修」を実施。</p> <p>前半は本学特任教授で米国法人B-Bridge International, Inc. 代表の榎本氏や現地企業に就職した日本人による特別講義が行われた。後半は学生と企業参加者が協力してグループワークに取り組み、現地企業やスタンフォード大学、サンフランシスコの観光地を視察。</p>	4

2 社会人教育（再掲）

中期目標	身近な学びの拠点として、社会人教育プログラム、市民公開講座等を実施するとともに、附属図書館、英語カフェ等の施設の市民利用を図り、地域の人びとが学びに触れ、自らを豊かにする場を創出する。				
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
2 社会人教育（再掲）					
①社会人教育プログラム、市民公開講座等を実施する。	III-2-1	<p>【II-1-40】再掲</p> <p>社会人教育プログラムを実施する。社会の環境変化やニーズに対応したプログラムを検討する。</p>	地域連携推進センター	<p>例年社会人を対象として「ものづくり人材スキルアッププログラム」を開講している。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止したが、令和3年度は対策を講じながら実施した。</p> <p>(1)ものづくり人材スキルアッププログラム ものづくり企業の従業員を対象とした実践的教育プログラムを実施し、年間25名が受講した。 A：生産管理技術、B：工場経営管理、総合：A+B 【前期】5/16～9/5開催 総合：0名 A：8名 B：1名 選択B：2名 合計11名 【後期】10/17～2/3開催 総合：3名 A：5名 B：2名 選択B：4名 合計14名</p> <p>(2)品質管理検定受験対策講座 【前期】3級のみ開催 9名受講（うち、遠隔受講2名） 【後期】3級のみ開催 17名受講（うち、遠隔受講9名）</p> <p>受講生募集については、講師1名と受講生募集業務委託を締結し、会社訪問によるプログラムのPRなど積極的に募集を行った。</p>	4
	III-2-2	<p>【II-1-41】再掲</p> <p>学内のシーズ・ニーズと産業界のニーズ・シーズのマッチングを図るシンポジウムを開催する。</p>	地域連携推進センター	<p>(1) シーズ・ニーズマッチングシンポジウムの開催 12月10日（土）13時30分～16時30分 中央キャンパス3階 参加者：約50人 <発表> 講演①「常識を覆す切削工具の開発」 榊ギケン 代表取締役社長 石川 義一 氏 講演②「脳と機械をつなぐリハビリ機器・コミュニケーション支援機器の開発」 保健医療学部臨床工学科 橋本 泰成 教授</p> <p>ポスター発表 保健医療学部 ①中田 明恵 教授 ②上田 映美 助教 ③小田 梓 助教 ④鈴木 郁斗 助教</p> <p>国際文化交流学 ①榊ギケン 代表取締役社長 石川 義一 氏 ②地域未来創生機構 代表理事 中黒 茂司 氏 ③清 剛治 准教授</p> <p>生産システム科学部 ①岩田 佳雄 教授 ②歌野原 陽一 教授(発表者：B4 岩田 健太郎) ③史 金星 准教授(発表者：M1 山田 陸人) ④疋津 正利 准教授(発表者：M1 阿部羅 大稀) ⑤上野 祐亮 助教(発表者：M1 野口 弘希) ⑥朴 亨原 准教授(発表者：M1 石高 寛士) ⑦粕谷 素洋 准教授 ⑧山下 幸三 准教授(発表者：B4 御館 一大) (発表者：B4 堀 友哉)</p> <p>⑨村山 立人 教授 ⑩梶原 祐輔 准教授 ⑪坂本 一磨 助教(発表者：M1 岩田 伊織) ※B4=学部4年生 M1=大学院1年生</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅲ-2-3	<p>【Ⅱ-1-42】再掲</p> <p>小松市、と連携し、こまつ市民大学を開催する。地域ニーズ等を踏まえて講義内容等の見直しを行う。</p>	地域連携推進センター	<p>「こまつ市民大学」は地域連携推進センター長が運営委員として参画し、開講する講座の約半数の講師を本学教員が務めている。ものづくり、健康、語学、国際情勢など、本学の特徴を生かした多彩な内容となり、また、昨年度に引き続き講義の多くは、本学中央キャンパスを会場とした。</p> <p>①第5期講座（9月～3月） 講座数：11 講師数（延べ）：19人 「学長・副学長特別講座」受講生：14名 「注目が集まる新技術」受講生：17名 「初めて学ぶ心の理論」受講生：34名 「映像術―作家から学ぶ」受講生：8名 「からだと健康・医療のアレコレ耳より講座」受講生：21名 「『多様性』はなぜ大切か―自然・文化の多様性から考える―」受講生：18名 「旅がもっと楽しくなる！―食と観光のはなし」受講生：13名 「世界遺産検定チャレンジ講座」受講生：6名 「ビジネス・時事英語読解力講座」受講生：22名 「ジュニアコース（南極）」受講生：8名 「お口の健康、幸せ長寿講座」受講生：3名</p> <p>②運営委員会 6/2 第7回運営委員会 第5期事業計画及び令和4年度予算案の審議</p> <p>③講座検討会 1/31 第1回講座検討会 今後の講座のあり方について協議</p>	4
②附属図書館、英語カフェ等の施設の市民利用を図る。（再掲）	Ⅲ-2-4	<p>【Ⅱ-1-43】再掲</p> <p>地域住民等に向けて、各キャンパスの附属図書館や英語カフェ等を開放する。</p>	附属図書館、総務課	<p>〔施設貸付の実績〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 栗津キャンパス 年間使用：171件（うち169件は運動場利用） 随時使用：1件（北陸地域流体工学研究会生産歌野原先生所属学会） 中央キャンパス 年間使用：56件（全てこまつ市民大学） 末広キャンパス 0件 <p>総計 227件 （年度計画目標値 25件）</p>	3
	Ⅲ-2-5	<p>【Ⅱ-1-44】再掲</p> <p>小松市・小松市国際交流協会と連携し、英語カフェにおいて国際交流プログラムを定期的に開催する。</p>	国際交流センター	<p>①英会話カフェの開催 小松市・小松市国際交流協会と連携し、英会話カフェを実施した。小松市国際交流協会会員、小松市国際交流ボランティア、本学学生、および高校生等が参加し、英語でのコミュニケーションを図った。 〔開催実績〕 4/9, 4/21, 5/30, 6/14, 6/27, 7/14, 7/26, 8/30, 9/15, 9/27, 10/31, 11/17, 11/30, 12/12, 1/10, 1/30, 2/28 参加学生 22名</p> <p>③海外文化体験の開催 1/27 インド文化体験（サリパーパーティ）※大雪のため開催中止 申込学生 10名</p>	3
	Ⅲ-2-6	<p>【Ⅱ-1-45】再掲</p> <p>大学施設の効率的・効果的な運用・管理を図り、本学の運営に支障のない範囲で大学施設の市民利用を推進する。</p>	財務課	<p>「こまつ市民大学」、「英会話カフェ」の実施など本学の運営に支障のない範囲で大学施設の貸付を行った。※【Ⅱ-1-45】再掲</p> <p>〔施設貸付の実績〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 栗津キャンパス 年間使用：171件（うち169件は運動場利用） 随時使用：1件（北陸地域流体工学研究会生産歌野原先生所属学会） 中央キャンパス 年間使用：56件（全てこまつ市民大学） 末広キャンパス 0件 <p>総計 227件 （年度計画目標値 25件）</p>	3

3 学びをまちの活力に

中期目標	多くの企業、施設、店舗、町内会等の理解のもとに、サークル活動やボランティア活動を含む学生生活を広くまち全体で展開し、若者のエネルギーがみなぎる「まちなかキャンパス」づくりを推進する。				
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
3 学びをまちの活力に					
若者のエネルギーがみなぎる「まちなかキャンパス」づくりを推進するため、企業、施設、店舗、町内会等のご理解のもと、サークル活動やボランティア活動を広く展開する。	Ⅲ-3-1	学生の自主的活動(大学祭、サークル、ボランティア等)に関わる必要な指導・支援を実施する。	学生課	<p>学生らによる自主的・自律的な活動を原則としつつ、教員が顧問としてサークル活動を監督するとともに、事務局学生課が中心となって各種の学生活動を支援した。また、地域とのつながりの中で学び、大学として地域に貢献していくため、地域における行事、ボランティア等に積極的に参加した。参加は学生の希望に基づいて行うことを基本とし、学生の自主性や積極性を重視した。</p> <p>[大学祭] (10/22) 第5回大学祭「青松祭」を開催。3年ぶりの対面開催となり、中央キャンパスでは、縁日やおぼけやしきなどの催し物、学科紹介ブース、進学相談ブース、そして各サークルによる模擬店が出店された。また、こまつ芸術劇場うらら(現：團十郎芸術劇場うらら)大ホールでは、吹奏楽サークル、ダンスサークル、軽音サークルがステージ発表を行った。 令和4年度青松祭実行委員数 46名</p> <p>[サークル活動] 学生の課外活動の推進及び安全な活動環境をつくるための情報交換を行うことを目的として、6月22日および2月22日に学生課が中心となってサークル代表者を対象とした会議をオンラインで開催し、サークル活動中のケガなどに対応する保険や、道具の利用、市内施設の利用方法について説明を行った。 第1回会議 (Teams開催) 6月22日 参加数：21団体 第2回会議 (Teams開催) 2月22日 参加数：17団体 学生の課外活動を支援するため、大学施設の使用は無料でできることとし、また、小松市まちづくり市民財団のご協力のもとに体育施設の料金割引が適用されている。 2022年度サークル総数 29団体 (体育系12、文科系17) ※2021年度：27団体</p>	4
	Ⅲ-3-2	学生と地域の社会人、シリコンバレーオフィスを結ぶプロジェクトを引き続き実施する。ICTを活用しながら、学生と地域がともに学び、活動するプラットフォームづくりを推進する。。	地域連携推進センター	<p>[各種ボランティア参加] ・5月14日 お旅まつり 曳山曳揃え 学生22名、留学生5名参加 ・10月9日 どんどんまつり (あんどん行列は中止)</p> <p>(2)特別講座「グローバル人材と持続的開発プロジェクト」【Ⅲ-1-4再掲】 ・産学合同シリコンバレー研修の事前学習として、学生を中心に問題分析及び解決方法のスキルの向上を目的に、国際交流センターの岸本特任教授及び榎本特任教授による特別講座を行った。終盤では企業参加者も参加し、産学合同シリコンバレー研修に向けたワークショップを行った。</p> <p>(3)産学合同シリコンバレー研修【Ⅲ-1-4再掲】 期 間：9/11～9/17 (5泊7日) 場 所：シリコンバレーオフィス (アメリカ カリフォルニア州) 参加者：学生11名、企業参加者4名 (現地企業含む)、随行教職員4名 3年ぶりに本学のシリコンバレーオフィス (アメリカ カリフォルニア州) に学生と地域の社会人を派遣する「産学合同シリコンバレー研修」を実施。 前半は本学特任教授で米国法人B-Bridge International, Inc. 代表の榎本氏や現地企業に就職した日本人による特別講義が行われた。後半は学生と企業参加者が協力してグループワークに取り組み、現地企業やスタンフォード大学、サンフランシスコの観光地を視察。</p>	4

IV 業務運営の改善及び効率化に関する目標

1 組織運営の改善に関する目標

(1) 機動的な管理体制の構築と適切性の確保

中期目標	経営の責任者である理事長と教学の責任者である学長のリーダーシップのもとに、各種組織・会議の役割と責任を明確にし、速やかで適確な大学運営を行う。
------	---

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
1 組織運営の改善に関する目標を達成するための措置 — (1) 機動的な管理体制の構築と適切性の確保					
①理事長及び学長を中心とした管理体制を確立し、ガバナンスの強化を図る。	IV-1-1	経営の責任者である理事長と教学の責任者である学長の指揮のもと、理事会や審議会及び各種委員会等を適切に運営する。	総務課	<p>理事長及び学長のトップマネジメントのもと、理事会や各種審議会、教授会等の組織体制を構築し、重要事項について審議を行い、適切な法人運営に努めた。 組織全体としての指揮命令系統を明確にするとともに、示された方針や決定事項を関係する職員隔々まで周知徹底させるため、月に一度学長、副学長、学部長、学科長、事務局長及び事務局各課長が集まる会議を実施した。</p> <p>【法人役員等の改選】 令和4年4月1日付 理事長、副理事長、理事5名、監事2名(7月6日付) 経営審議会10名、教育研究審議会10名 学長選考会議6名 その他、各種委員会委員の選任</p> <p>【監事監査】 ・6月16日 業務監査・会計監査</p> <p>【理事会・経営審議会】 ・6月21日 令和3年度事業報告書・決算・監査 ・7月14日～20日(書面附議) 第1期中期目標期間終了時見込業務実績報告書 ・9月28日 補正予算・予算・博士後期課程認可申請 ・12月26日 規則改正、令和4年度決算見込報告 ・3月28日 教育職員人事、令和5年度年度計画、予算</p> <p>【教育研究審議会】 ・上半期(4月～9月) 8回(書面附議2回) ・下半期(10月～3月) 10回(合否判定会議4回)</p> <p>【学長選考会議】 ・6月21日 議長の互選、年間計画 ・3月28日 学長業務業績評価(令和4年度) ・4～5月(予定) 学長の業績評価の公表</p> <p>【その他】 ・9月22日 公立大学協会地区協議会(議長校) ・12月23日 公立大学法人等運営事務研究会</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
②各種組織・会議の役割を明確にする。 ③各組織・会議は、互いに良好な連携を図りつつ、それぞれのミッションを果たす。	IV-1-2	自己点検・評価委員会を定期的に開催し、各組織のミッションと進捗状況について情報共有するとともに、組織間の連携を図る。	総務課	自己点検・評価委員会及び評価室により、年間の業務の方針、予定、進捗状況を管理するため、進捗管理様式を定め、法人・大学の組織ごとに作成し、半年に一回、評価室にてヒアリングを実施した。 【令和3年度業務実績】 (a) 【第1期中期目標期間終了時見込業務実績】 (b) ・5月 業務実績の取りまとめ (2月評価室ヒアリング済) ・6月6日 自己点検・評価委員会 ・6月 教育研究審、経営審、理事会承認 (a) ・7月 教育研究審、経営審・理事会承認 (b) ・7月 法人評価委員ヒアリング ・8月1日 小松市公立大学法人評価委員会 ・9月 小松市議会承認・評価書の公表 【令和4年度業務実績】 ・10月 業務実績の取りまとめ (上半期) ・10月27日・28日 評価室ヒアリング (上半期) ・4月 業務実績取りまとめ (下半期) ・4月13日・14日 評価室ヒアリング (下半期)	4
④業務内容の変化や業務量の変動に柔軟に対応するため、適宜組織の見直しを行う。	IV-1-3	自己点検・評価委員会による定期的な業務チェック、聞き取りなどにより、事務局内の構成及び業務の質・量の検証を行い、組織の適正化と職員の適正な配置を図る。	総務課	大学院の開設に伴い、大学院担当専門職員を2名配置するとともに、大学院専任教授、特任教授、客員教授を選任した。業務実績の取りまとめ、ヒアリング、評価などを通して組織の適正化、職員の適正な配置、組織体制の検討・見直しを行っている。 【令和3年度業務実績の評価】 【第1期中期目標期間終了時見込業務実績の評価】 ・9月 教育研究審議会へ評価の報告 ・9月 経営審議会、理事会へ評価の報告 【大学院開設に伴う人員配置】 ・4月 大学院担当専門職員2名の選任 大学院専任教授、特任教授、客員教授の選任	4

(2) 組織力の強化と構成員の資質・能力の向上

中期目標		公立小松大学としてふさわしい組織風土の醸成に努め、教職員全員が法人の目的及び自らの役割を認識した上でそれぞれの専門性を活かし、一体となって教育・研究・地域貢献等の機能を最大化させる。				
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価	
1 組織運営の改善に関する目標を達成するための措置 — (2) 組織力の強化と構成員の資質・能力の向上						
①職員全員が法人のビジョンを共有し、一体となって教育・研究・地域貢献等の機能強化に取り組む。	IV-1-4	大学憲章のもとに、職員に法人・大学の理念やビジョンを浸透させるとともに、中期目標及び年度計画等への理解を深め、ビジョンに基づいた業務の実施につなげる。	全学	6月24日に新規採用教育職員14人を対象として開催した新規採用職員研修において、学長より、大学憲章の基本理念や目標等について講話を行い、大学の理念について学び、意識の共有を図った。 【大学ガバナンスの浸透】 ・部局長等連絡会議にて、方針・決定事項の周知 ・大学ホームページにて、大学憲章及び基本理念を周知 ・6月24日 新規採用教育職員14名 山本学長講話(大学憲章、基本理念)	3	
②FD及びSD活動を実施し、構成員の資質・能力の向上を図る。	IV-1-5	効果的なFD及びSD活動を実施するため、教職員に共通する課題や、求められる知識及び技能を整理し、研修を計画・企画する。	各学部、研究科、各課	年間を通じて研修会を開催し、職員の管理運営や教育・研究についての資質向上に取り組んだ。参加者は事務局ミーティングや各委員会等で報告するなど、学内で情報共有した。また、令和4年度は研修後のアンケート調査が未実施となったため、令和5年度は、毎回アンケート調査を実施するとともに、教職員からの要望のある研修の実施を検討する。 ハラスメントについて、相談件数は0件だったが、広く相談を受け付けることができるよう、相談フロー図を作成し、相談員一覧とともに、HP及び学内掲示板に掲載した。また、今後は気軽に相談が出来る窓口の設置についても検討する。 [本学主催のSD・FD研修] ・6月24日 山本学長講話(大学憲章、基本理念) 新規採用教育職員14名 実施回数 計4回 ・9月12日 第1回FD・SD研修 「ハラスメント相談員研修会」 講師：ハラスメント防止コンサルタント 小林培美 参加：役員2名、教員8名、職員5名 ・11月30日 第2回FD・SD研修 「こちらとコミュニケーションがうまくとれない若者」 講師：加賀こころの病院前院長 棟居 俊夫 参加：教員41名、職員19名 ・12月21日 第3回FD・SD研修 「海外における危機管理対策」 講師：日本アイラック㈱ 参加：教職員45名 ・1月12日 第4回FD・SD研修 「認証評価の理念とその実施状況」 講師：一般社団法人 公立大学協会 事務局長 中田 晃 参加：教員38名、職員24名	4	

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				<p>[公立大学協会研修(オンライン)] 参加回数 計3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月26日 第1回FD・SD研修 「科研費の最近の動向」 講師：文部科学省研究振興局 林 史晃 参加：教員17名・職員4名 ・6月15日 第2回FD・SD研修 「科研費申請の戦略的アプローチ2022年度版」 講師：ロバスト・ジャパン株式会社 中安 豪 参加：教員17名・職員4名 ・7月13日 第3回FD・SD研修 「公立大学が活用できる外部資金制度について」 講師：山口東京理科大学 塩満 典子 参加：教員16名・職員5名 <p>[その他主催研修(オンライン)] 参加回数 計7回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月5日 石川県障がい学生等共同サポートセンター 障がい学生支援に関する情報交換会 教員1名 ・9月14日 大学コンソーシアム 地域貢献活動「やまの保健室活動」 教員2名 ・10月31日 大学コンソーシアム 学生の創造力を喚起するICTの活用方法 教員2名 ・11月18日 大学コンソーシアム 大学におけるセキュリティの実態、自治・自律とガバナンスをどう両立させるか 教員2名、職員1名 ・12月9日 大学コンソーシアム 遠隔授業教材作成において留意すべき著作権の扱いについて 教員8名 ・2月4日 大学コンソーシアム 科研費申請に向けて 教員8名 ・2月9日 大学コンソーシアム 金沢大学KUGS特別入試の取り組み：探究学習を題材とするレポートの評価を中心に 教員2名 ・2月27日 石川県障がい学生等共同サポートセンター 私立大学における障がい学生支援の体制整備 教員8名、職員3名 	

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	IV-1-6	SD活動は、公立大学協会などの外部機関等が主催する研修なども積極的に利用するほか、職員のジョブローテーションを適宜実施し、個々の能力向上につなげる。	各課	<p>[研修の実績]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月19日 公立大学協会職員セミナー 東京「職員育成研修」 職員2名 ・8月29日 留学生交流実務担当者養成プログラム「日本学生支援機構主催」 教員1名、職員1名 ・9月8日 小松市消防本部救命講習会「心肺蘇生法、AEDの使用法」 教員13名、職員8名 ・9月、10月 公立大学協会会計セミナー オンライン研修 職員1名 <p>※【IV-1-5】再掲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月26日 第1回FD・SD研修「科研費の最近の動向」 講師：文部科学省研究振興局 林 史晃 参加：教員17名・職員4名 ・6月15日 第2回FD・SD研修「科研費申請の戦略的アプローチ2022年度版」 講師：ロバスト・ジャパン株式会社 中安 豪 参加：教員17名・職員4名 ・7月13日 第3回FD・SD研修「公立大学が活用できる外部資金制度について」 講師：山口東京理科大学 塩満 典子 参加：教員16名・職員5名 ・11月18日 大学コンソーシアム「大学におけるセキュリティの実態、自治・自律とガバナンスをどう両立させるか」 参加：教員2名、職員1名 ・2月27日 石川県障がい学生等共同サポートセンター「私立大学における障がい学生支援の体制整備」 参加：教員8名、職員3名 	4
	IV-1-7	学生の授業評価アンケート結果等を参考に、改善に向けた具体的な取り組みを実施する。	各学部、研究科	<p>年2回（前期、後期）、各授業ごとに授業評価アンケートを実施している。学生からの授業評価アンケートの結果は各担当教員にフィードバックされるとともに、各学科、研究科において内容の分析及び情報共有を行っている。</p> <p>また、授業評価アンケートの結果をもとに、教授法の問題点を分析し、教員が互いに助言できる体制の構築や、担当教員の変更など、各学科において対策を講じている。</p> <p>また、新たな取り組みとして、授業評価アンケートの結果をもとに、教員が自ら担当する授業の自己点検・評価を実施した。教員用自己点検・評価シート様式を用いて、授業の振り返り、達成状況、アンケート結果を踏まえた課題・自己評価、次の授業に向けての改善点などを各教員が担当する授業ごとに記入する。各担当教員がPDCAサイクルを意識し、教育の質の向上に取り組んでいる。</p>	4

2 教育研究組織の見直しに関する目標

中期目標		教育、研究に対する社会的ニーズを踏まえつつ、大学がその特色を活かしてより適切に機能し得るよう、教育研究組織について適宜見直しを行う。			
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
2 教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置					
教育、研究に対する社会的ニーズを踏まえつつ、大学がその特色を活かしてより適切に機能するために、学部学科や入学定員の改編、大学院の設置等の教育研究組織の見直しを行う。	IV-2-1	4年間の入試の結果を踏まえ、区分毎の入学定員を再考する。	教育企画委員会、学生課	<p>入試部会において2022年度入試の志願者数、志願者出身高校、合格者の得点率等のデータの分析を行ったほか、在学生のGPA等の学力調査結果を基に入学定員区分との相関の分析も各学科で実施した。</p> <p>教育企画委員会において、臨床工学科長から学校推薦型選抜の定員変更（市内2から減らすこと）の是非について確認があった。</p> <p>【要項配付の流れ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4/21 入試部会にて入学定員要項（案）の確認 ・6/16 入学定員要項 完成 ・7/4 入学定員要項をHP上に掲載 ・6/16 入試部会にて学生募集要項（学校推薦型選抜、社会人選抜）（案）の確認 ・9/1 学生募集要項（学校推薦型選抜、社会人選抜）完成 ・9/12 学生募集要項（学校推薦型選抜、社会人選抜）をHP上に掲載 ・9/15 入試部会にて学生募集要項（一般選抜）（案）の確認 ・11/1 学生募集要項（一般選抜）をHP上に掲載 	3
	IV-2-2	大学院博士後期課程の設置に向け、設置認可申請の準備を進める。	全学	<p>大学院博士課程認可申請については、学生課大学院担当及び博士課程設置検討WGが中心となって設置認可申請に係る準備を進め、3月17日に設置認可申請書を文部科学省へ提出した。また、大学院博士課程の設置に向けた準備として、施設整備や入学定員の確保に向けた対策を進めていく。</p> <p>【大学院博士課程認可申請】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博士課程設置検討WGの開催 6/2、7/13、7/29、8/5、9/5、10/11、11/1、12/20 ・文部科学省大学設置室とのWeb相談 9/1、1/10 ・博士後期課程設置諮問委員会の開催（オンライン） 6/29、8/4 ・3/17 設置認可申請書提出 <p>【施設整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7/28 小松駅東地区総合ビル完成1年延期を北陸電力が発表 ・11/1 末広キャンパス研究実験棟 地鎮祭 ・R5/6/5 末広キャンパス研究実験棟 竣工式（予定） 	4

3 人事の適正化に関する目標

(1) 人事管理の適切な運用

中期目標		適材適所の人材配置を行うとともに、教職員の資質向上のための研修制度を整備する。また、教職員のエフォート及び実績を適切に評価する制度を構築することによって、教職員のモチベーションを高め、教育研究活動及び業務の活性化を図る。			
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
3 人事の適正化に関する目標を達成するための措置 — (1) 人事管理の適切な運用					
①FD及びSD活動を実施し、構成員の資質・能力の向上を図る。 (再掲)	IV-3-1	【IV-1-5】再掲 効果的なFD及びSD活動を実施するため、教職員に共通する課題や、求められる知識及び技能を整理し、研修を計画・企画する。	総務課	<p>年間を通じて研修会を開催し、職員の管理運営や教育・研究についての資質向上に取り組んだ。参加者は事務局ミーティングや各委員会等で報告するなど、学内で情報共有した。また、令和4年度は研修後のアンケート調査が未実施となったため、令和5年度は、毎回アンケート調査を実施するとともに、教職員からの要望のある研修の実施を検討する。</p> <p>ハラスメントについて、相談件数は0件だったが、広く相談を受け付けることができるよう、相談フロー図を作成し、相談員一覧とともに、HP及び学内掲示板に掲載した。また、今後は気軽に相談が出来る窓口の設置についても検討する。</p> <p>[本学主催のSD・FD研修]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月24日 山本学長講話(大学憲章、基本理念) 新規採用教育職員14名 実施回数 計4回 ・9月12日 第1回FD・SD研修 「ハラスメント相談員研修会」 講師：ハラスメント防止コンサルタント 小林培美 参加：役員2名、教員8名、職員5名 ・11月30日 第2回FD・SD研修 「こちらとコミュニケーションがうまくとれない若者」 講師：加賀こころの病院前院長 棟居 俊夫 参加：教員41名、職員19名 ・12月21日 第3回FD・SD研修 「海外における危機管理対策」 講師：日本アイラック(株) 参加：教職員45名 ・1月12日 第4回FD・SD研修 「認証評価の理念とその実施状況」 講師：一般社団法人 公立大学協会 事務局長 中田 晃 参加：教員38名、職員24名 	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				<p>[公立大学協会研修(オンライン)] 参加回数 計3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月26日 第1回FD・SD研修 「科研費の最近の動向」 講師：文部科学省研究振興局 林 史晃 参加：教員17名・職員4名 ・6月15日 第2回FD・SD研修 「科研費申請の戦略的アプローチ2022年度版」 講師：ロバスト・ジャパン株式会社 中安 豪 参加：教員17名・職員4名 ・7月13日 第3回FD・SD研修 「公立大学が活用できる外部資金制度について」 講師：山口東京理科大学 塩満 典子 参加：教員16名・職員5名 <p>[その他主催研修(オンライン)] 参加回数 計7回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月5日 石川県障がい学生等共同サポートセンター 障がい学生支援に関する情報交換会 教員1名 ・9月14日 大学コンソーシアム 地域貢献活動「やまの保健室活動」 教員2名 ・10月31日 大学コンソーシアム 学生の創造力を喚起するICTの活用方法 教員2名 ・11月18日 大学コンソーシアム 大学におけるセキュリティの実態、自治・自律とガバナンスをどう両立させるか 教員2名、職員1名 ・12月9日 大学コンソーシアム 遠隔授業教材作成において留意すべき著作権の扱いについて 教員8名 ・2月4日 大学コンソーシアム 科研費申請に向けて 教員8名 ・2月9日 大学コンソーシアム 金沢大学KUGS特別入試の取り組み：探究学習を題材とするレポートの評価を中心に 教員2名 ・2月27日 石川県障がい学生等共同サポートセンター 私立大学における障がい学生支援の体制整備 教員8名、職員3名 	

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	IV-3-2	<p>【IV-1-6】再掲</p> <p>SD活動は、公立大学協会などの外部機関等が主催する研修なども積極的に利用するほか、職員のジョブローテーションを適宜実施し、個々の能力向上につなげる。</p>	総務課	<p>〔研修の実績〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月19日 公立大学協会職員セミナー 東京「職員育成研修」 職員2名 ・8月29日 留学生交流実務担当者養成プログラム「日本学生支援機構主催」 教員1名、職員1名 ・9月8日 小松市消防本部救命講習会「心肺蘇生法、AEDの使用法」 教員13名、職員8名 ・9月、10月 公立大学協会会計セミナー オンライン研修 職員1名 <p>※【IV-1-5】再掲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月26日 第1回FD・SD研修「科研費の最近の動向」 講師：文部科学省研究振興局 林 史晃 参加：教員17名・職員4名 ・6月15日 第2回FD・SD研修「科研費申請の戦略的アプローチ2022年度版」 講師：ロバスト・ジャパン株式会社 中安 豪 参加：教員17名・職員4名 ・7月13日 第3回FD・SD研修「公立大学が活用できる外部資金制度について」 講師：山口東京理科大学 塩満 典子 参加：教員16名・職員5名 ・11月18日 大学コンソーシアム「大学におけるセキュリティの実態、自治・自律とガバナンスをどう両立させるか」 参加：教員2名、職員1名 ・2月27日 石川県障がい学生等共同サポートセンター「私立大学における障がい学生支援の体制整備」 参加：教員8名、職員3名 	4
	IV-3-3	<p>【IV-1-7】再掲</p> <p>学生の授業評価アンケート結果等を参考に、改善に向けた具体的な取り組みを実施する。</p>	各学部	<p>年2回（前期、後期）、各授業ごとに授業評価アンケートを実施している。学生からの授業評価アンケートの結果は各担当教員にフィードバックされるとともに、各学科、研究科において内容の分析及び情報共有を行っている。また、授業評価アンケートの結果をもとに、教授法の問題点を分析し、教員が互いに助言できる体制の構築や、担当教員の変更など、各学科において対策を講じている。</p> <p>また、新たな取り組みとして、授業評価アンケートの結果をもとに、教員が自ら担当する授業の自己点検・評価を実施した。教員用自己点検・評価シート様式を用いて、授業の振り返り、達成状況、アンケート結果を踏まえた課題・自己評価、次の授業に向けての改善点などを各教員が担当する授業ごとに記入する。各担当教員がPDCAサイクルを意識し、教育の質の向上に取り組んでいる。</p>	4
②職員のエフォート及び実績が処遇に適切に反映される評価制度を構築、実施する。	IV-3-4	<p>事務職員について、職員評価制度に基づき、評価を実施する。教育職員については、評価制度を構築し、一部試行する。</p>	総務課	<p>教員の評価制度については、教員評価基準検討WGを立ち上げ、制度設計の協議を計画的に進めている。</p> <p>【教育職員評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月3日 教員評価基準検討WGの開催 ・12月末迄 各学部教員評価制度案を一部試行する ・2月1日 教員評価基準検討WGの開催 <p>【事務職員評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月 勤務成績評価実施要項に基づく勤務評価を実施 ・11月 // 	4

(2) 教職員の採用

中期目標		教職員の採用は、中長期的な視点に立つて行うものとし、原則として公募により行う等、公平性、透明性及び客観性が確保される制度を構築する。また、採用にあたっては、次代を担う教職員を育成していくため、バランスのとれた教職員構成となるよう取り組む。			
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
3 人事の適正化に関する目標を達成するための措置 — (2) 教職員の採用					
質の高い教育研究・管理運営を実施していくため、優秀な職員を採用、育成する制度を構築し、運用する。	IV-3-5	人員配置計画に沿った適正な職員採用を行うとともに、職員の能力向上を図るための研修を実施する。	総務課	<p>・教育職員採用に向けて、JRECINに教員公募を掲載し、下記のとおり教職員の募集・採用を行った。</p> <p>[令和5年度教育職員採用]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○看護学科（成人看護学・教授1名募集） 応募者1名 第1次選考試験 1名 9月2日 第2次選考試験 合格 ⇒令和5年4月1日採用予定 ○看護学科（成人看護学・准教授または講師1名募集） 応募者1名 第1次選考試験 1名 9月2日 第2次選考試験 不合格 ○看護学科（成人看護学・助教1名募集） 応募者0名 ○看護学科（成人看護学・准教授または講師、助教1名募集） 応募者2名 第1次選考試験 1名 12月26日 第2次選考試験 不合格 ○看護学科（小児看護学・教授、准教授または講師1名募集） 応募者0名 ○看護学科（基礎看護学・教授、准教授または講師、助教1名募集） 応募者1名 第1次選考試験 1名 12月26日 第2次選考試験 合格 ⇒令和5年4月1日採用予定 ○看護学科（【再公募】小児看護学・教授、准教授または講師1名募集） 応募者0名 ○看護学科（成人看護学・講師、助教2名募集） 応募者1名 第1次選考試験 1名 3月16日 第2次選考試験 合格 ⇒令和5年5月1日採用予定（3年任期） ○国際文化交流学科（観光関連分野及び異文化コミュニケーション分野・教授または准教授1名募集） 応募者8名 第1次選考試験 3名 9月15日 第2次選考試験 不合格 	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				<p>[令和5年度事務職員採用] 事務職員(2名程度) ・7月 広報こまつ・新聞広告・大学HPで募集 ・8月 受験申込受付 応募27名 ・9月18日 職員採用一次試験 受験者24名 ・10月30日 職員採用二次試験 受験者13名 ⇒3名合格 令和5年4月採用</p> <p>運転手(2名程度) ・7月28日 1名面接⇒令和5年2月採用予定 ・9月15日 1名面接⇒令和4年10月採用</p> <p>非常勤職員(パート職員) ・2月20日 選考試験実施 応募者5名、合格者1名 ⇒令和5年4月採用予定</p> <p>[FD・SD研修の実施] ※【IV-1-5】【IV-1-6】に掲載。</p>	
	IV-3-6	ダイバーシティ推進の観点から、年齢・国籍・性別・価値観・障がいの有無などの「多様性」を尊重した採用の実施を図る。	総務課	<p>[障害者雇用] 法定雇用率 2.6% 総務課 1名雇用 (令和3年4月～、施設清掃管理)</p> <p>[令和5年度障害者採用に向けて] ・6月20日～7月1日 産業現場実習受入れ 石川県立小松特別支援学校 1名 ・8月8日 ハローワークとの打ち合わせ(法定率未達)</p> <p>[「障害者雇用優良事業所」感謝状贈呈] ・1月31日 「障害者雇用優良事業所」として石川県特別支援教育振興会より感謝状を贈呈</p>	4

4 大学運営の効率化・合理化等に関する目標

中期目標		財源及び人的資源を効率的かつ合理的に運用できる組織体制を整備するとともに、適宜、機能強化に向けた取り組みや見直しを行う。また、事務処理の最適化、外部委託の活用、情報化の推進等により、業務の効率化・合理化を図る。			
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
4 大学運営の効率化・合理化等に関する目標を達成するための措置					
①資源を効率的かつ合理的に運用できる体制を整備する。 ②事務処理の最適化、外部委託の活用、情報化の推進等により、業務の効率化、合理化を図る。	IV-4-1	年間の予算や業務量、業務内容の状況について把握評価しつつ、適切な予算執行のための体制づくりを進めるとともに、複数キャンパス運営下での法人業務及び大学運営業務の最適化を図る。	総務課、 財務課	<p>評価室ヒアリングの実施により、事業の実績、進捗状況の確認、懸案事項の共有を行い、各所属における業務を把握、評価した。また、PO会議等の定期開催により、部局・事務局間の調整、情報共有を行った。</p> <p>[会議開催等による部局間の情報共有] ※【IV-1-2】、【IV-1-3】、【IV-1-4】に掲載。</p> <p>[大学院開設に伴う人員配置] ※【IV-1-3】に掲載。</p> <p>[業務効率化] ・3キャンパスに、情報ネットワーク担当者（PC管理、入退館システム設定等）置き、業務を平準化 ・予算執行にあたり、教員からの購入依頼書の決裁を廃止し、事務作業の省略とペーパーレス化を図った ・業務効率を高めるため、Microsoftアプリを活用したオンライン会議やデータ共有、アンケート等を実施。 ・全学的な会議でのオンライン活用（Teams） ・アンケート実施時の活用（Forms） ・学内情報公開での活用（Sharepoint）</p> <p>[システム運用] ・出勤簿管理システムの導入により労務管理の事務効率化を図り、働きやすい職場づくりを推進した ・R3年度決算の際に正確な退職引当金の計算を行うために退職引当金システムを活用した</p> <p>[マニュアル見直し] ・9月 研究費等執行マニュアル、予算執行マニュアルが、現状と乖離がないか確認し修正した ・2月 薬品管理に関するマニュアルの見直し、制定を行った</p> <p>[必要書類等のチェック] ・随時 昨年度に引き続き、必要な手続き、書類等については、漏れ等がないかチェックを行っている</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	IV-4-2	引き続き、研修等により職員のコスト意識を高め、経費の縮減に取り組む。職員の自発的な業務改善を促し、具体的な取り組み・改善につなげる。	総務課	<p>[業務改善]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町家ハウスRyusuke2の借用停止 ・内部監査時に、各課の効率化等改善事項を取りまとめる ・出勤簿管理システムの導入により労務管理の事務効率化を図り、働きやすい職場づくりを推進した ・人事給与システムにおける退職金システムの導入 ・同窓会連絡、アンケート調査、ボランティア参加募集等でMicrosoft365の各種アプリを活用し事務を効率化 <p>[公立小松大学の経済波及効果調査]</p> <p>2023年3月に制度上の完成年度を迎えたことを踏まえ、大学設置による経済波及効果の測定を実施した。調査結果は大学ホームページにて広く社会に公開するとともに、2024年4月からスタートする第2期中期計画期間中の取り組みを評価していくための業績評価指標（KPI）の一つとして活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●経済波及効果概要 <ul style="list-style-type: none"> ・石川県への経済波及効果は4年間で158億5900万円 ・南加賀地域への経済波及効果は4年間で109億7600万円 ・小松市への経済波及効果は4年間で104億100万円 ●調査依頼等スケジュール <ul style="list-style-type: none"> 金沢大学 <ul style="list-style-type: none"> ・10月11日 金沢大学 寒河江教授、原田特任助教他 北陸経済研究所 <ul style="list-style-type: none"> ・11月7日～ 北陸経済研究所と事務打ち合わせ、データ提供 ・2月28日 報告書の完成 ・3月28日 経営審議会・理事会にて報告 令和5年度 <ul style="list-style-type: none"> ・5月12日 小松市長へ報告 ・5月16日 大学ホームページに公開 	4

V 財務内容の改善に関する目標

1 自己収入の増加に関する目標

(1) 学生納付金

中期目標	法人運営における基礎的な収入である学生納付金については、入学定員の確保や社会情勢、他大学の水準及び法人収支の状況を勘案して、適切な料金設定と安定した収入確保に努める。
------	---

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
------	----	------	------	-------	------

1 自己収入の増加に関する目標を達成するための措置 — (1) 学生納付金

効果的な学生募集活動の展開による入学志願者の確保及び入学定員の充足に努め、安定した学生納付金の確保を図る。	V-1-1	【II-1-17】再掲 オンラインの活用も図りながら、大学説明会の開催或いは合同説明会への参加、オープンキャンパスや高校訪問を実施し、学生募集活動を展開する。 引き続き、入学者の声及びこれまでの教育の成果を積極的に入試広報に活用する。	教育企画委員会（入試部会）	<p>北陸三県・東海・信越地方など各地の高校に対して入学選抜要項、大学案内等の送付に加え、高等学校進路指導教諭対象大学説明会、高校訪問において延べ94校に対して本学の概要を説明するなど入学定員の充足に努めた。オープンキャンパスは高校3年生を対象に、7月に3キャンパスにおいて実施し、281名が参加した。</p> <p>[オープンキャンパス] 高校3年生のみを対象に感染症対策を行ったうえで実施した。 参加人数 3キャンパス（3学部4学科）合計：281名（内訳：生産37名、看護73名、臨床87名、国際84名） ※参考：令和3年度254名</p> <p>[高等学校進路指導教諭対象大学説明会] 北陸三県の高校教諭（進路指導）を対象とした大学説明会を4会場（小松、金沢、福井、富山）で開催し、54校55名の参加となった。 ※会場別参加校・参加者数 小松会場（6/27）：10校11名、金沢会場（7/1）：21校21名、 富山会場（6/30）：13校13名、福井会場（6/28）：10校10名</p> <p>[高校訪問] 教員・事務職員による高校訪問を6月および9月に実施。北陸3件の出願が多い高校に限定して実施した。なお、その他の高校には郵送により2023年度学生募集要項、大学案内等の冊子を送付して令和5年度入試・学生募集を案内した。 6月：23校、9月：17校 ※令和3年度/6月：13校、9月：9校</p> <p>[進学相談会] 業者主催による進学相談会へ参加した。 金沢6回、富山3回、高岡1回、福井3回、新潟1回、長野2回、松本1回、岐阜1回、名古屋1回、浜松1回、オンライン相談会4回</p> <p>[オンラインの活用] 大学コンソーシアム石川主催のオンライン説明会（7/23開催32名視聴）に参加したほか、独自にオンライン個別相談会を企画し、8/8～8/10開催で6名の申込・相談に対応した。</p>	4
---	-------	---	---------------	---	---

(2) 外部資金等の獲得

中期目標		学生納付金及び運営費交付金に加え、科学研究費補助金をはじめとする競争的研究資金の獲得や、産学官連携、地域連携による共同研究費、受託研究費の確保に努める。また、基金・寄附金制度の設立等財源確保に向けて取り組む。			
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
1 自己収入の増加に関する目標を達成するための措置 — (2) 外部資金等の獲得					
<p>①科学研究費補助金及び各種補助事業等による研究助成に関する情報収集・申請・受入等の研究支援体制を充実させ、外部研究資金の獲得増加を図る。</p> <p>②産学官連携、地域連携を推進し、共同研究費、受託研究費の充実を図るほか、寄附金等の獲得に努める。</p>	V-1-2	科学研究費補助金及び各種補助研究助成への申請、獲得状況などについて教員別、学科別等に分析し、採択率向上に資する。産学官連携コーディネーターの活用等により、外部資金獲得に努める。	財務課	<p>科研費・受託研究等については、採択件数、応募件数等ごとに一覧表を作成し申請・獲得状況を把握。</p> <p>※参考</p> <p>【R4年度科研費実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規 13件 新学術領域 1件 (生産 1件) 基盤C 9件 (生産 2件、看護 5件、臨床 1件、国際 1件) 若手 1件 (看護 1件) 特別研究員奨励費 2件 (臨床 2件) 継続 33件 基盤B 3件 (臨床 3件) ※延長1件含む 基盤C 22件 (生産 7件、看護 7件、臨床 5件、国際 3件) ※延長6件含む 若手 7件 (生産 1件、看護 4件、臨床 1件、国際 1件) 挑戦的(萌芽) 1件 (生産 1件) <p>【R4年度科研費応募に対する採択実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 採択 10件 基盤C 9件 (生産 2件、看護 5件、臨床 1件、国際 1件) 若手 1件 (看護 1件) 採択率 32.26% (10件/31件) <p>【R5年度科研費応募実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 応募 34件 学術変革A 2件 (生産 1件、国際 1件) 基盤B 5件 (生産 3件、臨床 1件、院 1件) 基盤C 17件 (生産 6件、看護 1件、臨床 5件、国際 5件) 若手 7件 (生産 2件、看護 2件、臨床 2件、国際 1件) 挑戦的開拓 2件 (生産 1件、院 1件) 挑戦的萌芽 1件 (生産 1件) <p>【その他外部資金の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 助成金 新規 15件 (生産 7件、看護 2件、臨床 6件) 継続 5件 (生産 1件、臨床 4件) 計 20件 奨学寄附金 新規 4件 (生産 4件) 移管分 1件 (臨床 1件) 継続 1件 (生産 1件) (完成年度以降目標値 5件) 	3

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				<p>【共同研究・受託研究の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同研究 11件（生産10件、臨床 1件） ・受託研究 3件（生産 3件） ※このほか、応募型受託研究 生産1件、臨床1件あり（完成年度以降目標値 10件） <p>産官学連携担当特任教授（4名）を配置し、北陸3県の企業等を中心として、本学で行っている研究分野やシーズの紹介、協力企業等への協力依頼を実施。</p> <p>[協力企業等団体数]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・375団体 <p>[訪問活動実績（協力企業等の依頼）]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・165件（オンライン含む） 	
	V-1-3	積極的な情報発信により、公立小松大学基金の受入れを促進する。同窓会と連携し、卒業生を始め広く本学の教育研究等の成果を周知し、寄附金等の受入を促進する。	財務課	<p>パンフレット「公立小松大学基金への寄附のご案内」の活用、ホームページでの基金の紹介、活用実績の掲載により基金の受け入れを促進している。</p> <p>[パンフレットの発行]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットの内容の見直しを行った ・協力企業に大学広報誌を送付する際に同封 ・同窓生に対し会報を送付する際に同封 ・取引業者へパンフレットを送送し協力を依頼（147社） <p>[基金運営委員会]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月6日開催 <p>[基金の活用事例]</p> <p>活用実績については大学HPに掲載</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績優秀者等への学長表彰 ・公認サークルへの助成 <p>[寄附の実績]</p> <p>月別内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月 7件 814千円 ・5月 2件 203千円 ・6月 1件 2,000千円 ・7月 1件 100千円 ・10月 4件 1,070千円 ・11月 3件 75千円 ・12月 14件 387千円 ・1月 10件 276千円 ・2月 1件 100千円 ・3月 4件 114千円 	3

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				<p>[寄附者内訳]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学関係者 6件 1,110千円 ・保護者 6件 63千円 ・卒業生 3件 27千円 ・同窓会 1件 50千円 ・一般 4件 3,200千円 ・法人 2件 8千円 ・協力企業 2件 60千円 ・取引企業 23件 621千円 計 47件 5,139千円 <p>※令和3年度実績 計22件 1,890千円</p>	

2 経費の抑制・効率化に関する目標

中期目標		安定的な大学運営を行うため、収支計画、資金計画、人員配置計画、施設・設備計画等を策定することにより、法人全体の収支構造を中長期的に把握するとともに、業務の効率化、契約方法の合理化、無駄の防止を図る業務改善、教職員のコスト意識の徹底等により経費の削減に努める。																																						
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価																																			
2 経費の抑制・効率化に関する目標を達成するための措置																																								
①教育研究・地域貢献の水準の維持・向上と経費抑制に配慮した中長期の展望にもとづき、収支計画、人員配置計画、施設・設備計画等を策定し、実施する。	V-2-1	各キャンパスの施設・設備の長寿命化計画に基づき、整備を適切に実施する。	財務課	<p>キャンパス老朽度調査による長寿命化計画に基づく整備を進めた。外壁修繕等大掛かりな改修が必要となるため、予算設定を含め計画を立てていく必要がある。</p> <p>[整備更新]</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1期(2021年～2025年)改修計画分終了 修繕完了粟津キャンパス図書館棟増築部分(学生食堂外壁部)爆裂部 R3.5月に改修済み 300千円 第2期(2026年～2030年) 254,980千円 第3期(2031年～2035年) 759,818千円 第4期(2036年～2040年) 478,519千円 第5期(2041年～2045年) 300,422千円 <p>計 1,794,039千円</p>	3																																			
	V-2-2	<p>【IV-1-3】再掲</p> <p>自己点検・評価委員会による定期的な業務チェック、聞き取りなどにより、事務局内の構成及び業務の質・量の検証を行い、職員の適正な配置を図る。</p>	総務課	<p>大学院の開設に伴い、大学院担当専門職員を2名配置するとともに、大学院専任教授、特任教授、客員教授を選任した。業務実績の取りまとめ、ヒアリング、評価などを通して組織の適正化、職員の適正な配置、組織体制の検討・見直しを行っている。</p> <p>【令和3年度業務実績の評価】</p> <p>【第1期中期目標期間終了時見込業務実績の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 9月 教育研究審議会へ評価の報告 9月 経営審議会、理事会へ評価の報告 <p>【大学院開設に伴う人員配置】</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月 大学院担当専門職員2名の選任 大学院専任教授、特任教授、客員教授の選任 	4																																			
	V-2-3	中長期の大学運営を見据えて、人員配置計画を適宜見直す。必要に応じて、特定分野の専門知識を有する職員採用又は登用の検討を行う。	総務課	<p>大学院開設並びに完成年度後の適切な大学運営、教育研究活動を見据え、教職員の採用及び配置を行った。また、部局長、附属施設長、客員教授(大学院)、特任教授(業務担当別)の選任を行った。</p> <p>[人員配置実績]</p> <p>R4.4.1(実績)</p> <table border="0"> <tr> <td>教育職員</td> <td>生産システム科学科</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>(常勤)</td> <td>看護学科</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td></td> <td>臨床工学科</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td></td> <td>国際文化交流学科</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td></td> <td>サステイナブルシステム科学研究科</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>キャリアサポートセンター</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>医療職員</td> <td>常 勤</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>技術職員</td> <td>常 勤</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>非 常 勤</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>事務職員</td> <td>常 勤</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td></td> <td>非 常 勤</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td></td> <td>計</td> <td>122</td> </tr> </table> <p>※令和5年度教育職員採用、事務職員採用については【IV-3-5】参照</p>	教育職員	生産システム科学科	21	(常勤)	看護学科	23		臨床工学科	13		国際文化交流学科	19		サステイナブルシステム科学研究科	1		キャリアサポートセンター	1	医療職員	常 勤	4	技術職員	常 勤	1		非 常 勤	1	事務職員	常 勤	26		非 常 勤	11		計	122
教育職員	生産システム科学科	21																																						
(常勤)	看護学科	23																																						
	臨床工学科	13																																						
	国際文化交流学科	19																																						
	サステイナブルシステム科学研究科	1																																						
	キャリアサポートセンター	1																																						
医療職員	常 勤	4																																						
技術職員	常 勤	1																																						
	非 常 勤	1																																						
事務職員	常 勤	26																																						
	非 常 勤	11																																						
	計	122																																						

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
②職員のコスト意識を高め、契約方法の合理化、業務改善、経費削減に取り組む。	V-2-4	【IV-4-2】再掲 引き続き、研修等により職員のコスト意識を高め、経費の削減に取り組む。職員の自発的な業務改善を促し、具体的な取り組み・改善につなげる。	総務課	[業務改善] ・町家ハウスRyusuke2の借用停止 ・内部監査時に、各課の効率化等改善事項を取りまとめる ・出勤簿管理システムの導入により労務管理の事務効率化を図り、働きやすい職場づくりを推進した ・人事給与システムにおける退職金システムの導入 ・同窓会連絡、アンケート調査、ボランティア参加募集等でMicrosoft365の各種アプリを活用し事務を効率化 [公立小松大学の経済波及効果調査] 2023年3月に制度上の完成年度を迎えたことを踏まえ、大学設置による経済波及効果の測定を実施した。調査結果は大学ホームページにて広く社会に公開するとともに、2024年4月からスタートする第2期中期計画期間中の取り組みを評価していくための業績評価指標（KPI）の一つとして活用する。 ●経済波及効果概要 ・石川県への経済波及効果は4年間で158億5900万円 ・南加賀地域への経済波及効果は4年間で109億7600万円 ・小松市への経済波及効果は4年間で104億100万円 ●調査依頼等スケジュール 金沢大学 ・10月11日 金沢大学 寒河江教授、原田特任助教他 北陸経済研究所 ・11月7日～ 北陸経済研究所と事務打ち合わせ、データ提供 ・2月28日 報告書の完成 ・3月28日 経営審議会・理事会にて報告 令和5年度 ・5月12日 小松市長へ報告 ・5月16日 大学ホームページに公開	4
	V-2-5	業務内容の点検により、経費抑制のための分析を行う。また、予算編成方針・予算配分の見直しを実施し、予算を適正に活用する。	財務課	【執行状況調査】 ・月ごとに予算の執行状況を財務会計システムで確認し、次年度の予算編成に反映させる	3

VI 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

1 評価の充実に関する目標

中期目標		大学の自己点検・評価体制を整備し、自己点検・評価を定期的実施するほか、小松市公立大学法人評価委員会が行う法人評価の結果と併せ、大学運営を継続的に見直す。			
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
1 評価の充実に関する目標を達成するための措置					
① 教育研究水準の向上を図り、大学の目的及び社会的使命を達成するため、自己点検・評価委員会を設置し、教育研究活動等の状況について自己点検・評価を実施する。	VI-1-1	令和3年度年度計画における業務実績について自己点検・評価を行い、その結果を法人運営の改善に活用する。	総務課、評価室	<p>自己点検・評価委員会及び評価室により、年間の業務の方針、予定、進捗状況を管理するため、進捗管理様式を定め、半年に一回、評価室にてヒアリングを実施した。ヒアリングにおいては、令和3年度業務実績評価における今後の課題について十分に配慮した上で業務を行っているかについても確認した。評価の実施にあたっては、法人の審議会や各種委員会において説明を行い、円滑な実施に努めた。</p> <p>また、令和3年度業務実績に加え、地方独立行政法第28条第1項第2号及び第4項に基づき、第1期中期目標期間終了時見込の業務実績についても取りまとめた。法人評価委員による評価結果は経営審議会・理事会等で共有し、業務改善に活用した。</p> <p>[評価の流れ]</p> <p>2月 評価室による年度計画にかかわるヒアリング実施（令和3年度年度計画実績） 5月 実績取りまとめ（令和3年度業務） 6/6 第1回自己点検評価委員会 6月 教育研究審議会、経営審議会、理事会で令和3年度業務実績報告書を承認 7月 教育研究審議会、経営審議会、理事会で第1期中期目標期間終了時見込業務実績報告書を承認 7月 法人評価委員ヒアリング 8/1 小松市公立大学法人評価委員会 9月 教育研究審議会、経営審議会、理事会へ評価の報告 9月 業務実績報告書、評価委員会による評価書をHPに掲載 10月 実績取りまとめ（令和4年度上半期分） 10/27、28 評価室による年度計画にかかわるヒアリング実施（令和4年度上半期分） 4月 実績取りまとめ（令和4年度下半期分） 4/13、14 評価室による年度計画にかかわるヒアリング実施（令和4年度下半期分）</p>	4
	VI-1-2	令和6年度受審の認証評価に向け、学内の体制整備と学外からの情報収集を行う。	総務課、評価室	<p>令和5年度に認証評価を受審することとし、一般財団法人大学教育質保証・評価センターに受審申請を行った。認証評価の事前提出資料である点検評価ポートフォリオについてのセンター事前相談では、改善・修正が必要な点を丁寧に指摘いただいた。指摘事項を踏まえ、法令に基づいて大学が行う点検及び評価の内容について法令、根拠を細かく整理しながら、ポートフォリオの作成に取り組んだ。令和5年5月のポートフォリオ提出に向けて、引き続き対応を進めている。</p> <p>また自己点検・評価委員会を自己点検評価・内部質保証推進会議と改め、内部質保証体制の確立及び抜本的な見直しを図った。内部質保証の推進に関する最終権限と責任を負う組織として全学的な内部質保証を推進するとともに、PDCAサイクルの確立に向けて方針を定め、取り組んでいく。</p> <p>[受審に向けた準備]</p> <p>9月 入会・受審申請 11月 点検評価様式への入力開始(事務局・部局長等) 1/18 第1回自己点検評価・内部質保証推進会議 2/8 第2回自己点検評価・内部質保証推進会議 2/28 大学教育質保証・評価センター事前相談（1回目）</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
② 小松市公立大学法人評価委員会による評価を受け、課題を把握し、解決に向けた取り組みを進める。	VI-1-3	小松市公立大学法人評価委員会に法人の運営状況について適宜報告を行うとともに、評価委員会の指摘事項を全学で共有し、課題解決に向けた取り組みを進める。	総務課、 評価室	<p>令和3年度業務実績報告書及び第1期中期目標期間終了時見込業務実績報告書を作成し、法人評価委員会に提出した。法人評価委員会では評価方法等を審議の上業務実績評価書を作成し、結果を公表した。これを受け各組織において業務の改善に努めた。</p> <p>[評価の流れ]</p> <p>8/1 業務実績の評価、評価書案の意見聴取 (第1回小松市公立大学法人評価委員会)</p> <p>8月 市と連携して評価書を作成</p> <p>9月 評価結果を教育研究審議会、経営審議会、理事会で報告</p> <p>9月 業務実績報告書及び評価委員会による評価書をHPに掲載</p> <p>[全体評価]</p> <p>令和3年度の業務実績:A 第1期中期目標期間終了時見込業務実績:A</p>	4
	VI-1-4	第2期中期計画(令和6年度～)の策定に向け、準備を進める。	総務課、 評価室	第2期中期目標・中期計画策定に向けたスケジュールを小松市と共有し、目標数値等、対応が必要となる事項の把握及び整理を行った。引き続き、小松市と連携して第2期中期目標の令和5年12月議会議決に向けて準備を進める。	3

2 情報公開と情報発信の推進に関する目標

(1) 積極的な情報提供の推進

中期目標		公共性を有する法人として、法人経営・大学運営の透明性を確保するため、教育研究活動や業務運営等に関する積極的な情報提供を行う。			
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
2 情報公開と情報発信の推進に関する目標を達成するための措置 — (1) 積極的な情報提供の推進					
公立大学法人として法人情報の適切な管理に努めるとともに、市民に対する大学経営の透明性を図るため、大学の基本情報や経営情報、自己点検・評価、外部評価等についてホームページ等により積極的に情報を公開する。	VI-2-1	法令上公表が義務付けられている事項はもとより、法人運営の状況についてホームページ等を通じて情報を積極的に公開する。	総務課、 広報室	<p>法令上公表が義務付けられている事項について、引き続きHPで公開し、適宜最新の情報に更新した。また、理事会、経営審議会及び理事会の議事概要についても、随時最新情報に更新した。</p> <p>[HPに法定や情報公開の点から掲載している情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学運営に関する情報：各種会議の規則、名簿、議事概要 ・法人情報：定款、役員名簿、業務方法書等 ・計画・目標：中期目標、中期計画、年度計画 ・外部評価：業務実績報告書、業務実績の評価 ・財務情報：財務諸表、事業報告書、決算報告書、監査報告、決算概要 ・教育情報：学校教育法施行規則に定められている事項 ・その他：研究倫理規程、学長選考に関する情報 等 	3

(2) 効果的な広報活動の推進

中期目標		大学が行う活動について広く社会に示すとともに、地域の理解を得ていくため、大学の広報や情報発信を組織的に行うための体制を構築し、特色ある教育研究活動や地域連携等の活動に関する広報を行う。				
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価	
2 情報公開と情報発信の推進に関する目標を達成するための措置 — (2) 効果的な広報活動の推進						
学生募集や産学官連携、地域連携活動等の推進につなげていくため、大学の広報や情報発信を組織的に行う体制を構築し、ホームページ等の様々な広報媒体を活用して積極的な情報提供を行う。	VI-2-2	ホームページや大学広報紙、プレスリリースなどを通じて、本学の優れた教育、研究、地域連携及び国際交流等の取組に係る情報を幅広く発信する。特に、デジタルツールによる広報の強化を図る。	広報室	<p>広報マニュアルを踏まえ、広報室が中心となって、広報活動を展開した。</p> <p>[広報室の活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定例会議の開催（年10回） ・ 5/12 広報マニュアルの改訂・全教職員へ周知 ・ 7/11 HPニュース記事掲載事例を事務職員および教職員に周知【新規】 <p>[広報室学生委員の活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4/2 入学式新入生インタビュー→大学広報紙Tachyon9号で紹介 ・ 6/15 学生委員募集チラシを中央キャンパスに掲示 ・ 7/19 【新規】取材・撮影研修会開催（講師：ストアインク小林様、山本様） ・ 8月 【新規】広報室学生委員インスタグラムの開設 ・ 10月 サークル紹介ページ「突撃！サークル活動」を更新（バスケットボールサークル追加） <p>[大学案内2023の発行]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2022年6月発行、全48ページ、10,000部 ・ 主な更新ページは以下のとおり <p>P7・8 学部長・学科長・専攻長を写真付きで掲載。 理事・監事・特任教授を追記。</p> <p>P13-28 各学科ページの学部長・学科長のあいさつ文を削除。 卒業後の進路を新規掲載。国家試験の合格率も追記。</p> <p>P31-36 研究科紹介ページを6ページ追加（大学院入試情報含む）。</p> <p>P37 教員一覧の更新</p> <p>P44 3キャンパスの概要を1ページ追加。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学案内英語版の更新（印刷製本は行わず、PDFで更新） ・ 研究科ページ追加、キャンパスライフ追加、海外協定校追加 <p>[ウェブサイトの運用]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 随時、サイト情報更新、NEWSページの作成 NEWS記事掲載 <ul style="list-style-type: none"> 4月～3月：106（イベント10、ニュース96）※令和3年度：99 3月末時点 Webページ数：157ページ ※令和3年度：175ページ 4月～3月 <ul style="list-style-type: none"> PV（ページビュー）1,125,484（前年同期比-16.0%） ※前年同期 PV（ページビュー）1,340,086 ・ 英語版ウェブサイト <ul style="list-style-type: none"> 随時、サイト情報更新 Webページ数：16ページ ※前年同期：12ページ（大学院ページを4ページ追加） 	4	

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				<p>[広報誌Tachyonの発行]</p> <p>①2022年9月 第9号 全8ページ 3,500部発行 特集：第一期生就職実績 その他：トビックス、学長中米訪問、お旅まつり体験記、輝く小松大生、教員紹介（岩橋教授（臨床））、令和5年度入試情報、第5回青松祭 10/11 保護者、協力企業、北陸3県高校、市内公共施設、卒業生等に配付</p> <p>②2023年3月 第10号 全8ページ 3,500部発行 特集：青松祭 その他：トビックス、国際交流／海外連携事業、教員紹介（橋本先生（国際））、将棋サークル紹介、同窓会 3/7 保護者、協力企業、北陸3県高校、市内公共施設、卒業生等に配布</p> <p>[広報誌Tachyon Academiaでの研究者紹介]</p> <p>2022年9月 2号 全8ページ 3,500部 歌野原教授（生産）「エネルギー産業へ貢献する熱流体工学研究」 松井教授（看護）「“がんサバイバー”が抱える皮膚の問題を解決するシステムの開発研究」 西村教授（国際）「公立小松大学本『勸進帳』で読み解く明治12年、芸能史の画期」</p> <p>[ラジオこまつの活用]</p> <p>①広報番組「世界に向かって飛び立て！公立小松大学」 9月～毎週土曜日9：30～9：45 学部学科紹介、研究紹介、学生の生の声など ※放送済のものは、本学ウェブサイトで視聴可能 9/3・10 坂本助教、大学院生、生産4年生 9/17・24 歌野原教授、生産4年生 10/1・8・15 青松祭実行委員 10/22・29 岩田教授、大学院生（生産システム） 11/5・12 松井教授（看護） 11/19・26 看護1年生 12/3・10 北浦教授（臨床） 12/17・24・31 臨床3年生 1/7・14 平山教授、大学院生（ヘルスケア） 1/21・28 国際3年生 2/4・11 朝倉准教授（国際） 2/18・25 大学院生（グローバル）</p>	

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				<p>[Youtubeの活用]</p> <p>①ラジオこまつ広報番組「世界に向かって飛び立て!公立小松大学」の音声データをYouTubeチャンネルに公開 公開動画数:12本</p> <p>②PR動画を公開【新規】 受験生(高校生)に公立小松大学に入学した4年後の未来をイメージしてもらえるようなショート動画を制作。各学科の4年生が出演し、学科の魅力および本学で学んでよかったことを1~2分で語る。 公開動画数:4本</p> <p>【SNSの活用】【新規】 8月 広報室学生委員インスタグラムの開設 学生目線での情報発信の強化を図り、大学や小松市の魅力等をより多くの人に写真と動画で伝えるため、広報室学生委員のインスタグラムアカウントを開設。 10/17 アカウント開設紹介 10/20 助成券使える店に行ってみたvol.1(町家食堂はるお) 10/22 青松祭ストーリーズ投稿 11/17 学内クリスマスツリーストーリーズ投稿 11/18 那谷寺ストーリーズ投稿 11/30 小松映えスポットvol.1(那谷寺) 12/26 小松映えスポットvol.2(駅前プロジェクトマップ)</p> <p>[その他媒体の活用]</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種広告掲載・新聞掲載 10/21 北国新聞 ジャパンテント協賛(青松祭告知広告) 広報こまつ(市広報紙)掲載 8月号 大学職員募集 10月号 青松祭告知 サイエンスヒルズこまつ 大学紹介展示 9月 展示内容更新(学部紹介、研究者紹介など) 	
	VI-2-3	学生・教員の取り組みや課外活動の成果などを、適切に把握・発信するため、広報マニュアルなどを通じて、教員からの各種報告の徹底を図る。	広報室	<p>広報マニュアルの更新及び日々の新聞掲載のチェックを行っている。</p> <p>[主な取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> 5/12 広報マニュアルの改訂・全教職員へ周知 7/11 HPニュース記事掲載事例を事務職員および教職員に周知【新規】 	3

Ⅶ その他業務運営に関する目標

1 施設設備の整備及び活用に関する目標

中期目標	良好な教育研究環境の維持・向上のため、中長期的な構想に基づき、施設設備の充実整備を図る。
------	--

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
1 施設設備の整備及び活用に関する目標を達成するための措置					
①良好な教育研究環境の維持・向上のため、中長期的な構想に基づき、施設設備の充実整備を図る。 ②キャンパスのバリアフリー化を進める。	VII-1-1	末広キャンパス研究棟の整備を計画的に進める。	財務課	[末広キャンパス研究実験棟の建設] ・ 6月30日 実施設計完了 ・ 8月 9日 入札公告 不調 ・ 9月 1日 第2回入札公告 不調 ・ 9月21日 第3回入札公告 ・ 10月11日 開札 業者決定 (㈱トーケン小松本社 落札価格 188,100千円 (税込み) ・ 10月17日 工事開始 ・ 11月 1日 9:00～ 地鎮祭 ・ 3月28日 理事会・経営審議会にて予算繰越承認 R5.5月31日 完成予定 ・ 6月 5日 9:00～ 竣工式予定	3

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価																																				
	VII-1-2	新型コロナウイルス感染防止対策を3キャンパス、その他施設で徹底する。アメニティの向上のための取組を実施する。	財務課、学生課	<p>[新型コロナウイルス感染防止対策] ※昨年度より継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空気清浄機10台、オゾン発生器100台の定期清掃 ・足踏み式消毒液ポンプスタンド設置 ・全講義終了後、職員による教室等の消毒を実施 <p>[アメニティ向上]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体 <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大予防対策を実施（継続） （全キャンパスに空気清浄機計10台、計オゾン発生器を100台、サーモグラフィー体温測定器計4台設置）（継続） トイレにペーパータオルを設置（継続） ・粟津キャンパス <ul style="list-style-type: none"> 学生ホールにミネラルウォーターサーバーを設置（継続） 学生寮運用（対象者拡大） 入寮状況 <table border="1"> <tr> <td>3年</td> <td>男</td> <td>5名</td> <td>(生産5名)</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>男</td> <td>5名</td> <td>(生産4名、臨床1名)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>女</td> <td>5名</td> <td>(生産1名、臨床3名、国際1名)</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>男</td> <td>3名</td> <td>(生産3名)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>女</td> <td>2名</td> <td>(臨床1名、国際1名)</td> </tr> <tr> <td>院生</td> <td>男</td> <td>1名</td> <td>(グローバル1名)</td> </tr> <tr> <td>留学</td> <td>男</td> <td>1名</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>女</td> <td>6名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>28名</td> <td></td> </tr> </table> ・中央キャンパス <ul style="list-style-type: none"> 学生ホールにミネラルウォーターサーバーを設置 各講義室の上限を設定し、原則対面で授業を実施 講義室の上限人数を超える授業の一部については、映像設備装置を利用し、複数の講義室に映像の同時配信を実施 こまつ未来箱を設置し、学生から寄せられた意見を事務局で協議の上、教育学習環境や生活環境を整備した 	3年	男	5名	(生産5名)	2年	男	5名	(生産4名、臨床1名)		女	5名	(生産1名、臨床3名、国際1名)	1年	男	3名	(生産3名)		女	2名	(臨床1名、国際1名)	院生	男	1名	(グローバル1名)	留学	男	1名			女	6名		計		28名		3
3年	男	5名	(生産5名)																																						
2年	男	5名	(生産4名、臨床1名)																																						
	女	5名	(生産1名、臨床3名、国際1名)																																						
1年	男	3名	(生産3名)																																						
	女	2名	(臨床1名、国際1名)																																						
院生	男	1名	(グローバル1名)																																						
留学	男	1名																																							
	女	6名																																							
計		28名																																							
	VII-1-3	こまつビジネス創造プラザや町家の借用など、市や関係機関と連携し、設備の充実を図り、教育研究環境の向上につなげる。	総務課、財務課	<p>[町家ハウスDoihara]</p> <p>引き続き、新型コロナウイルス感染症対策として、密にならないよう机イス等の間隔を空けて配置</p> <p>○利用時間 平日9:00～21:00（土日祝使用不可）</p> <p>産学合同シリコンバレー研修の事前講義である特別講義「グローバル人材と持続的開発プロジェクト」（毎週水曜日の4限・5限）を町家ハウスDoiharaで開催し、各部屋を使ったグループワークを実施した。</p> <p>[ビジネス創造プラザ]</p> <ul style="list-style-type: none"> 1号室 ものづくり人材スキルアッププログラム講師控室 2・3号室 国際文化交流学部 グローバルスタディーズ 4・5号室 国際文化交流学部 国際観光・地域創生コース 6～9号室 グローカル文化学専攻研究室 10号室 中村教授ゼミ室 11号室 国際交流センター 12号室 盛永特任教授（大学院サステイナブルシステム科学研究科） 13号室 島内准教授（国際文化交流学科） 14号室 中村教授（大学院サステイナブルシステム科学研究科） <p>セミナールームはものづくり人材スキルアッププログラムの会場にも使用された。前期は5月～9月、後期は10月～1月の午前中に活用。なお、北陸電力ビルの建設延期に伴い、令和5年度よりセミナールームも含め、全館小松市から借用することとした。</p>	3																																				

2 安全衛生管理に関する目標

中期目標	学生及び教職員の健康及び安全を確保する体制を構築する。また、災害等による被害の発生に備えてリスク管理を徹底するとともに、災害等が発生した場合に適切かつ迅速に対応できる危機管理体制を整備する。さらに、個人情報を含む情報セキュリティ対策を講じる。				
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
2 安全衛生管理に関する目標を達成するための措置					
①学生及び職員の健康及び安全を確保する体制を構築する。	VII-2-1	職員を対象に定期健康診断とストレスチェックを実施するとともに、職員の安全衛生管理・健康管理を着実にを行う。また、有給休暇の取得を促進するための取り組みを行う。	保健管理センター、安全衛生委員会、総務課	<p>安全衛生委員会を定期的に開催。また、定期健康診断やストレスチェック等を実施し、職員の心身の健康の維持・増進に取り組んだ。</p> <p>[主な取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6/20～6/27 ストレスチェックの実施 ・9/21 定期健康診断実施 ・安全衛生委員会（上半期6回、下半期6回）開催 ・11/17～12/14 インフルエンザ予防接種の実施 <p>[夏季休暇・有給休暇の取得促進]</p> <p>職員へ夏季休暇及び有給休暇の取得促進を通知。全職員の年5日以上の取得を実現した。</p> <p>[新型コロナウイルス感染症の予防対策]</p> <p>手指消毒および環境消毒用クロスの設置等の環境を整備 引き続き全キャンパスに空気清浄機、オゾン発生器、サーモ式体温測定器を設置。 新型コロナウイルス感染症に関する問い合わせや相談に対応。</p> <p>[産業医による職場巡視]</p> <p>2か月に1度の職場巡視を徹底した</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施日 <ul style="list-style-type: none"> 末広キャンパス 5月・10月 栗津キャンパス 7月・12日 中央キャンパス 8月・2日 ・指摘事項 <ul style="list-style-type: none"> 栗津キャンパスは次の事項の指摘を受けたため、改善した。 <ul style="list-style-type: none"> ①旋盤機の巻き込み防止対策である「手袋使用禁止」の掲示 ②ケーブル及び棚の固定 末広キャンパスは次の事項の指摘を受けたため、改善した。 <ul style="list-style-type: none"> ①実習室通路のホワイトボード ②棚上の段ボール及び機器の整頓 ③酸素ボンベの取扱責任者の表示 	3

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	VII-2-2	<p>【II-1-22】再掲</p> <p>健康診断の徹底や新型コロナウイルスなどの感染症予防、健康相談、保健情報提供等、健康支援のための取組を推進する。また、学生相談を3キャンパスで随時実施する。</p>	保健管理センター	<p>学生定期健康診断を実施し、ほぼ全ての学生が受診した。尿・血圧の再検査を実施。要医療・要精検・要再検査（医療機関での検査必要）と判断された29名の学生には医療機関への受診勧奨を実施し、21名は受診済み。受診結果未提出の学生には12月に保護者宛に書類を郵送した。7月5日および11月29日に学校医が来学し、学生の健康診断結果の確認を行った。同時に要受診判定者の受診結果を確認し、学業の継続に支障をきたしている学生はいなかった。</p> <p>健康調査票の結果、保健管理センターに相談希望の学生、既往症のある学生、精神面で気になる学生（該当者：生産2～4年は41人、看護2～4年は16人、臨床工学2～4年は6人、国際2～4年は23人、1年生は15人）にメール等で連絡し、現状把握と対応を行った。</p> <p>1年生の感染症調査票および健診結果をもとに、4種予防接種の接種歴と抗体価を確認。必要な予防接種の接種勧奨を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勧奨数：生産21名、看護22名、臨床工学15名、国際16名 ・接種者数：生産11名、看護22名、臨床工学14名、国際10名 <p>インフルエンザ予防接種を小松市医師会に依頼し、下記のとおり実施した。接種の事前申し込みはMicrosoft Formsを使用。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11/17～12/14 3キャンパスで計8回実施 ・12/15～1/10 医療機関での個別接種を実施 <p>接種率は、学生が57%（580名/980名中）、教職員が85%（105名/127名中）であった。</p> <p>保健医療学部1年生のB型肝炎集団予防接種を医師会に依頼し、新規で契約した（小松ソフィア病院が実施）。3回の接種（5月13日・6月10日・10月20日）と抗体検査（12月15日）を実施した。</p> <p>臨床心理士による学生相談は、週4日間（月～水と金）の午後を実施した。 [令和4年度相談者数] 前期：新規10名、継続6名、相談再開2名、合計18名（うち3名は相談終結） 後期：新規3名、前期からの継続9名、相談再開1名、合計13名（うち6名相談終結）</p> <p>年5回ほけかんだよりを発行し、定期的に学生への感染防止や健康情報の周知を図った。</p> <p>研修実績としては、下記のとおり全てオンラインで参加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7/28-29 東海北陸大学保健管理研究集会 1名 ・8/25 第1回石川県保健管理担当職研究会 2名 ・8/29 令和4年度自殺未遂者支援研修会 3名 ・10/6、10/14、1/19、3/3 石川県産業保健総合支援センターのWeb研修 1名 ※10/6のみ3名参加 ・10/19-20 全国大学保健管理研究集会 1名 ・11/9 北陸地区保健管理担当職研究会 1名 ・3/2 第2回石川県保健管理担当職研究会 2名 ・3/16 令和4年度青少年の性と心の研修会 2名 <p>【新型コロナウイルス感染症について】 新型コロナ感染症連絡網を活用し、関係教職員に感染ならびに相談状況を随時報告。安全衛生委員会、学生支援部会で毎月報告。その他、要請があれば理事会に報告した。 また、学生・教職員からの新型コロナ感染症に関する相談や連絡に個別対応した。</p> <p>令和4年度は、学生・教職員からの相談が418件あり、濃厚接触者は189人、陽性者213人（学生194人、教員10人、職員9人）。</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	VII-2-3	新型コロナウイルス感染症防止対策や予防接種において南加賀保健福祉センターや市内医療機関等との連携強化を推進する。	保健管理センター、総務課	<p>【新型コロナウイルス感染症について】 令和4年度の新型コロナ感染症疑いも含めて、PCR検査の結果、陽性だった学生は194名であった。</p> <p>主な対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 各キャンパス玄関入り口にサーモグラフィ体温測定器を設置。 各講義室や共用場所にアルコール、机などを拭く環境消毒用クロスを設置。 新型コロナウイルス感染症の体調不良者には、医療機関への受診勧奨と生活困難学生への対応を迅速に行った。 新型コロナウイルス感染症の陽性者には医療機関受診勧奨し、濃厚接触者には適宜状況の確認。 陽性者・濃厚接触者ともに政府の待機期間変更に伴い、詳細な聞き取りをし、体調や待機期間の確認を行った。 関係教職員には新型コロナウイルス感染症連絡網で連絡するとともに相談教員・担任教員とも連携し対応を行った。 <p>ワクチン接種促進に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期的なワクチン接種の呼びかけにより、約7割の学生・教職員が1回以上の接種を行った。 	3
②防災・防犯のためのマニュアルを作成し、学生や職員を対象とした啓発や訓練を行う。 ③災害等が発生した場合に適切かつ迅速に対応できる危機管理体制を整備する。	VII-2-4	各種防災マニュアルに基づき、計画的に訓練を実施するなど、危機管理のための取組を推進する。あわせて、学生・職員への啓発活動を行う。	総務課	<p>防災計画に基づき、定期的に訓練・研修を実施した。</p> <p>[訓練・研修]</p> <ul style="list-style-type: none"> 8/8 粟津キャンパス及び学生寮避難訓練（教職員・寮生・寮管理人対象） 5/19 末広キャンパス自衛消防訓練・消火栓・火災報知器動作確認（事務局員対象） 6/29 中央キャンパス自衛防災訓練（事務局員対象） 11/24 中央キャンパス自衛防災訓練（事務局員対象） 11/25 末広キャンパス自衛防災訓練・消火器使用方法解説（事務局員対象） 	4
	VII-2-5	防災訓練の一環として、安否確認システムの配信訓練を定期的に行い、登録率・応答率の向上を図る。	総務課	<p>安否確認システム「Safetylink24」について、オリエンテーションで学生に周知した。また、昨年に引き続き安否確認システム配信訓練を年2回実施した。</p> <p>[安否確認システム]</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月 オリエンテーションで安否確認システムを学生に周知 7/21 第1回安否確認システム配信訓練（1158名） ⇒回答数 813名（70.2%） 11/28 第2回安否確認システム配信訓練（1136名） ⇒回答数 774名（68.1%） <p>訓練未回答者に対しては、アプリのインストールを個別に案内し、登録を促進した。</p>	3
	VII-2-6	事前研修会や情報提供などにより、学生・職員の海外渡航時の危機管理意識の向上を図り、渡航時の事故や災害に備える。	学生課、国際交流センター、総務課	<p>【学生対象危機管理セミナー等の開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> 7/20 危機管理セミナー（日本アイラック株式会社主催）学生16名 参加 1/18 危機管理セミナー（日本アイラック株式会社・イーコルズ株式会社主催）学生40名 参加 <p>【教職員対象危機管理セミナー等の開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> 8/29 令和4年度留学生交流実務担当教職員養成プログラム（日本学生支援機構主催）日本アイラック株式会社 スタッフ1名 教職員45名 参加 <p>※第3回FD・SD研修として実施</p>	3
④個人情報を含む情報セキュリティ対策を講じる。	VII-2-7	引き続き、個人情報管理や情報ネットワークのセキュリティ等に必要な規定の整備を進める。また、学内ネットワークの充実を図るとともに、情報セキュリティに関する研修を実施する。	総務課	<ul style="list-style-type: none"> 末広キャンパスデスクトップの整備 <p>末広キャンパス看護学科教員デスクトップのリース期間満了に伴い、デスクトップの更新を実施した。2025年までに全デスクトップの交換が必要となるため、今後も計画的な更新を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 上記学内研究用ネットワークの増設に伴い、学内ネットワーク及びPCの使用についての注意事項を整理。全教員を対象に周知を行った。 	3

3 法令遵守等に関する目標

(1) 法令遵守及び人権の尊重

中期目標		全ての学生や教職員に対して法令遵守を徹底し、適正な教育研究活動と業務運営を行う。また、人権を尊重し、全ての人がいきいきと活躍できる環境を、ソフト・ハード両面から整備する。			
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
3 法令遵守等に関する目標 — (1) 法令遵守及び人権の尊重					
①すべての学生や職員に対して法令遵守を徹底し、適正な教育研究活動と業務運営を行う。 ②人権を尊重し、すべての人がいきいきと活躍できる環境を、ソフト・ハード両面から整備する。 ③ワークライフバランスに配慮し、誰もが働きやすい職場環境づくりに努める。	VII-3-1	継続的な啓発活動や研修等を実施し、学生や職員へハラスメントや研究（研究費）、情報セキュリティ、個人情報保護等のコンプライアンスを徹底する。	総務課	[具体的な実施内容] ・5/18 第1回ハラスメント委員会開催 ・9/12 第1回FD・SD研修 「ハラスメント相談員研修会」 講師：ハラスメント防止コンサルタント 小林培美 参加：役員2名、教員8名、職員5名	3
	VII-3-2	業務の量・質を各課内で精査し、担当業務の適正化・平準化を図る。	各課	[具体的な実施内容] ・課内ミーティングを定期的実施し、進捗状況、懸案事項などを共有し、業務の適正化・平準化を図った	3
	VII-3-3	業務改善・合理化に向けた職員の意識改革に取り組み、時間外勤務の削減、年休取得などワークライフバランスの適正化を促進する。	各課	[各課における業務改善] ・夏季休暇及び年次有給休暇の取得促進を全教職員に通知。 ・年次有給休暇は、所属長や教職員への呼びかけなど全学的に呼びかけ、対象者全員が5日以上の取得を実現。	3
	VII-3-4	薬品管理について、規定に基づいた適切な管理を徹底する。	安全衛生委員会	薬品管理における有機溶剤、特定化学物質の使用に関する学内ルールを整備した。 9月 労基署訪問（対応事項の確認） 10月 有機則一部適用除外認定申請書の提出 12月 適用除外認定（未広） 1月 適用除外認定（粟津） 2月 薬品管理マニュアルの改訂 毒劇物管理マニュアルの改訂 特定化学物質管理マニュアルの制定 有機溶剤管理マニュアルの制定	4

(2) 内部監査体制の確立

中期目標		内部監査のための体制を整備し、内部監査を適正に実施する。			
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
3 法令遵守等に関する目標 — (2) 内部監査体制の確立					
内部監査のための体制を整備し、内部監査を適正に実施する。	VII-3-5	業務方法書及び内部監査規程に基づき、内部監査を実施する。	総務課	<p>「令和3年度監事監査計画」及び「令和3年度内部監査計画」策定を策定し、それらに基づき監査を実施した。内部監査の実施にあたり、総務課員及び財務課員で構成された「監査班」を組織した。</p> <p>監査の結果、いずれの対象課、対象者も法令等に準拠しており、適正に実施されていることが認められた。</p> <p>[監事監査] 令和4年6月に監事2名が所属する事務所に財務課長並びに総務課長が訪問し、業務実績報告書及び財務諸表等による業務監査及び会計監査を実施した。同月の理事会で監事監査結果の報告が行われた。</p> <p>[内部監査] 監事2名と内部監査の実施について協議を行ったうえで、下記の日程で監査を実施した。文部科学省の公的研究費履行状況調査結果(11月)を踏まえて、規程、ガイドライン、マニュアル等の制定及び見直しに沿った外部資金内部監査、公的研究費リスクアプローチ監査(旅費、物品管理等に特化)を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11/10 保健管理センター、附属図書館監査実施 ・12/21 外部資金内部監査実施(公的研究費等) <p>①通常監査 生産システム科学科：香川教授 看護学科：池田助教 臨床工学科：平山教授 国際文化交流学科：小原教授</p> <p>②リスクアプローチ監査(物品) 生産システム科学科：香川教授 臨床工学科：平山教授 国際文化交流学科：小原教授</p> <p>③リスクアプローチ監査(旅費) 公的研究費より旅費の執行があった全教員</p>	4

(3) 環境保全の推進

中期目標		内部監査のための体制を整備し、内部監査を適正に実施する。				
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価	
3 法令遵守等に関する目標 — (3) 環境保全の推進						
① 大学運営全体を通して環境負荷の低減に努め、省エネルギーに関する取組を推進する。	VII-3-6	施設設備を点検し、必要に応じて整備更新し、エネルギーの高効率化に努める。	財務課	<p>粟津・末広キャンパスにおいて各種点検を実施し、現状の把握を行っているほか、中央キャンパスでは、各種の法定点検を建物の管理会社が実施している。また、点検結果を踏まえて、整備更新についても随時実施している。</p> <p>[点検の内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> 電気設備保安管理業務 合併浄化槽保守点検業務 学生寮及びキャンパス内エレベーター保守点検業務 消防用設備保守点検業務 <p>[整備更新（粟津キャンパス）]</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員研究室の整備 107実験室の煙、粉塵対策による換気扇の設置 205講義室にスクリーン及びプロジェクターを設置 砂侵入防止のため108、110研究実験室の外側出入口に風除室を設置 <p>[整備更新（末広キャンパス）]</p> <ul style="list-style-type: none"> B棟2階光電式スポット型感知器2種を修繕 A棟駐車場に車止めを設置 	3	
	VII-3-7	夏季及び冬季の室温を適切に管理する等、省エネルギーに努める。	財務課	<p>空調や照明の集中管理やタイマー設定等による電力量を意識した管理を実施するとともに、冷房や暖房を使用する時期においては、張り紙等により教職員及び学生に省エネ対策を周知した。</p> <p>粟津・末広キャンパスでは、デマンド監視装置により室温等電気の使用状況を管理。</p> <p>中央キャンパスでは、管理会社から日々の電力使用状況の報告を定期的な受け、その報告をもとに、建物全体としてのデマンドの削減に努めた。</p> <p>また、今年度より中央キャンパスでもデマンド監視装置を設置し、キャンパス全体の電力使用状況を適宜確認した。設定値を超えると見込まれる場合には講義室や事務室の空調設定を変更し、電力消費を抑えるように務めた。</p> <p>【デマンド実績】※最大値 粟津キャンパス：210kw、末広キャンパス：118kw、中央キャンパス：246kw</p>	3	
	VII-3-8	会議のオンライン化推進、Office365等各種アプリを活用したデータ共有などにより、ペーパーレス化を図る。	各課	<p>積極的にMicrosoft社の各種アプリ（Teams、Forms、Sharepoint）を利用し、会議のオンライン化を推進するとともに、アンケートや入力フォームの作成・集計作業の効率化を図った。</p> <p>会議では事前に紙媒体での資料を希望するかを事前に伺い、必要部数のみを準備し、ペーパーレス化を図った。</p>	3	
	VII-3-9	大学院、学部教育などを通じて、サステイナビリティの意識を学生・教職員で醸成する。	全学	<p>夏休みや春休みなどの長期休暇中は節電対策を目的とした講義室の施錠を実施。</p> <p>学部教育ではサステイナビリティの理念を取り入れた講義を実施し、様々な視点から持続可能な社会を考察する機会を提供した。</p> <p>また、大学院教育では専門共通科目「持続可能な社会の科学-SDGs Basic」及び「持続可能な社会への展望-SDGs Advanced」を通じて、サステイナビリティの意識の醸成を図った。</p>	3	
	VII-3-10	② 廃棄物の適正な分別を徹底し、減量化とリサイクルを推進する。	職員と学生に対して廃棄物の分別や減量化等の周知を行うとともに、適正な廃棄物処理に向けた取組を行う。	総務課	<p>キャンパスごとに、ごみの適正な分別と減量化を学生・教職員に周知した。事務局においては、裏紙の利用促進のほか、オンライン会議や各種アプリの活用により、資料等の紙の削減に努めた。</p> <p>中央キャンパスでは学生課と総務課で2階・3階の倉庫を整理し、過年度分の廃棄物の処理を行った。また、それぞれの倉庫に収納棚を導入し、書類及び物品整理を図るとともに収納スペースを確保した。</p>	3

VIII 予算、収支計画及び資金計画

財務諸表及び決算報告書を参照

区 短期借入金の限度額

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
1 短期借入金の限度額					
3億円	—	3億円	財務課	なし	—
2 想定される理由					
運営費交付金の受入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れることが想定される。	—	運営費交付金の受入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れることが想定される。	財務課	なし	—

X 出資等に係る不要財産の処分に関する計画

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
なし	—	なし	財務課	なし	—

X I 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
なし	—	なし	財務課	なし	—

X II 余剰金の使途

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上並びに組織運営及び施設設備の改善に充てる。	—	決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上並びに組織運営及び施設設備の改善に充てる。	財務課	令和3年度決算において計上した当期総利益の95,545,675円を教育研究の質の向上並びに組織運営及び施設設備の改善に充てるため積み立てた。	3

ⅩⅢ その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
1 施設及び設備に関する計画					
計画に従い施設及び設備の整備改修等を行う。	—	計画に従い施設及び設備の整備改修等を行う。	財務課	<p>キャンパス老朽度調査（粟津、末広A棟）による長寿命化計画に基づく整備を進めた。また、末広キャンパス研究実験棟の整備を進めた。</p> <p>[整備更新]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1期（2021年～2025年）改修計画分終了 修繕完了 粟津キャンパス図書館棟増築部分 （学生食堂外壁部）爆裂部 R3.5月に改修済み 300千円 <p>外壁修繕等大掛かりな改修が必要となるため、予算設定を含め計画を立てていく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2期（2026年～2030年） 254,980千円 ・第3期（2031年～2035年） 759,818千円 ・第4期（2036年～2040年） 478,519千円 ・第5期（2041年～2045年） 300,422千円 <p>計 1,794,039千円</p>	4
2 積立金の使途					
教育研究の質の向上並びに組織運営及び施設設備の改善に充てる。	—	教育研究の質の向上並びに組織運営及び施設設備の改善に充てる。	財務課	決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上並びに組織運営及び施設設備の改善に充てる。令和4年度は目的積立金の取崩しは無かった。	—
3 その他法人の業務運営に関し必要な事項					
なし	—	なし	—	なし	—

(4) 指標単位評価

実績及び自己評価結果

【教育指標】

項目		考え方	達成年度	中期計画 目標値	R4目標値	実績	備考	自己評価
1	志願倍率	志願者数／募集定員	最終年度	2倍以上	-	(5.9)	2022年 5.9(一般7.0、推薦2.5) 2023年 4.7(一般5.5、推薦2.3)	—
2	学生の満足度	5段階評価(平均値)	毎年度	3.3	3.3	4.27	前期 4.29 後期 4.24	a
3	外国語能力検定試験結果	国際文化交流学部TOEICスコア (4年生平均)	毎年度	600点	600点	542		b
4	標準修業年限での卒業者の比率	4年間で卒業した人数／当該年 度入学者数	毎年度(完成年 度以降)	80%	80%	88.3%		a
5	就職希望者の就職率	就職者数／就職希望者数	毎年度(完成年 度以降)	90%以上	90%以上	99.5%	2023年3月末時点の就職内定率 100%	a
6	国家試験合格率	看護師の合格率	毎年度(完成年 度以降)	95%以上	95%以上	98%	全国合格率90.8%	a
		保健師の合格率	毎年度(完成年 度以降)	95%以上	95%以上	100%	全国合格率93.7%	s
		臨床工学技士の合格率	毎年度(完成年 度以降)	95%以上	95%以上	100%	全国合格率85.4%	s
7	市民公開講座開講数	開講テーマ数／年	完成年度以降	10／年	10／年	14	市民大学 11 市民公開フォーラム 1 ものづくり人材スキルアッププログラム 1 資格取得支援講座 1	a
		教員参画数／年	完成年度以降	20人／年	20人／年	21人	市民大学 18 市民公開フォーラム 2 ものづくり人材スキルアッププログラム 1 資格取得支援講座 0	a
8	市民による施設利用度	市民図書館利用者数／年	毎年度	500人	500人	0人	新型コロナウイルス感染防止のため利 用を制限	c
		自習室利用登録者数／年	毎年度	80人	80人	0人	新型コロナウイルス感染防止のため利 用を制限	c
		大学施設利用件数／年	毎年度	25件	25件	227件	中央 56件 粟津 171件 未広 0件	a
9	インターンシップ参加者数	参加者数／年	毎年度(3年目以 降)	200人	200人	209人	「学外技術体験実習」(生産)73人 「インターンシップ」(国際) 65人 その他(授業外) 71人	a

【研究指標】

項目		考え方	達成年度	中期計画 目標値	R4目標値	実績	備考	自己評価
10	学会報告件数	報告件数/年	完成年度以降	100件	100件	204件	国内学会 148件 国際学会 56件	a
11	論文・著書数	論文数/年	完成年度以降	70編	70編	117編	日本語 30編 英語・その他外国語 87編	a
		英語・その他の外国語論文数/年	完成年度以降	30編	30編	87編		a
		著書発表数/年	完成年度以降	5編	5編	19編		a
12	共同研究・受託研究数	実施件数/年	完成年度以降	10件	10件	14件	共同研究 11件 受託研究 3件	a
13	科学研究費補助金等獲得状況	科学研究費補助金採択件数/年	完成年度以降	15件	15件	46件	新規 13件 継続 33件	a
		その他外部研究資金採択件数/年	完成年度以降	5件	5件	28件		a

【国際交流指標】

項目		考え方	達成年度	中期計画 目標値	R4目標値	実績	備考	自己評価
14	留学生受入・派遣数	受入人数/年	毎年度 (3年目以降)	10人以上	10人以上	12人	短期 0人 長期 12人	a
		派遣人数/年	毎年度 (3年目以降)	40人以上	40人以上	64人	短期 55人(オンライン留学15人) 長期 9人	a
15	海外大学等との交流協定締結数	協定数(累計)	最終年度	10件	—	(18件)	大学間 10件 部局間 5件 その他 3件	—
16	国際シンポジウム・セミナー等発表・開催数	発表者数/年	完成年度以降	15人	15人	56人	学会発表 56人 招待講演 0人	a
		開催件数(累計)	最終年度	15件	—	(12件)		—

【地域貢献指標】

項目		考え方	達成年度	中期計画 目標値	R4目標値	実績	備考	自己評価
17	市民公開講座開講数 (再掲)	開講テーマ数/年	完成年度以降	10/年	10/年	14	市民大学 11 市民公開フォーラム 1 ものづくり人材スキルアッププログラム 1 資格取得支援講座 1	a
		教員参画数/年	完成年度以降	20人/年	20人/年	21人	市民大学 18 市民公開フォーラム 2 ものづくり人材スキルアッププログラム 1 資格取得支援講座 0	a
18	市民による施設利用度 (再掲)	市民図書館利用者数/年	毎年度	500人	500人	0人	新型コロナウイルス感染防止のため 利用を制限	c
		自習室利用登録者数/年	毎年度	80人	80人	0人	新型コロナウイルス感染防止のため 利用を制限	c
		大学施設利用件数/年	毎年度	25件	25件	227件	中央 56件 栗津 171件 未広 0件	a
19	連携施設・店舗等の数	累計数	最終年度	50件	-	(399件)	協力企業等 374団体 ランチ助成券 25店舗 学食ネット 2店舗 (ランチ助成券との重複2店舗)	-
20	学生の地域行事等ボランティア件 数・人数	件数/年	完成年度以降	20件	20件	43件	災害ボランティア 13回 お旅祭り 1回 ボランティアサークル 29回	a
		参加人数/年	完成年度以降	100人	100人	192人	災害ボランティア 62人 お旅祭り 27人 ボランティアサークル 103人	a

【業務運営の改善及び効率化】

項目		考え方	達成年度	中期計画 目標値	R4目標値	実績	備考	自己評価
21	業務改善実施件数	件数(累計)	最終年度	40件	—	(42件)		—
22	FD・SDに関する取組件数	FD・SD活動取組件数／年	毎年度	1件以上	1件以上	4件	本学主催 4件	a

【財務内容の改善】

項目		考え方	達成年度	中期計画 目標値	R4目標値	実績	備考	自己評価
23	自己収入額	自己収入額／年	毎年度(完成年度以降)	7億円以上	7億円以上	7.7億円		a
24	科学研究費補助金等獲得状況(再掲)	科学研究費補助金採択件数／年	完成年度以降	15件	15件	46件	新規 13件 継続 33件	a
		その他外部研究資金採択件数／年	完成年度以降	5件	5件	28件		a

4 用語解説

【アドミッション・ポリシー、AP】

入学者受入れの方針。各大学、学部・学科等の教育理念、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、どのように入学者を受け入れるかを定める基本的な方針であり、受け入れる学生に求める学習成果（「学力の3要素」※についてどのような成果を求めるか）を示すもの。

※（1）知識・技能 （2）思考力・判断力・表現力等の能力 （3）主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

【カリキュラム・ポリシー、CP】

教育課程編成・実施の方針。ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。

【ディプロマ・ポリシー、DP】

卒業認定・学位授与の方針。各大学、学部・学科等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。

【シラバス】

学生が授業科目の履修を決める際の参考資料や準備学習を進めるために用いられる各授業科目の詳細な授業計画。一般に、授業科目、担当教員名、講義目的、毎回の授業内容、成績評価方法・基準、準備学習のための具体的な指示、教科書・参考文献、履修条件などが記載されている。また、教員相互の授業内容の調整や、学生による授業評価などにも使われる。